

獨乙訴訟法釋義

完

寫獨
許訟法釋
義
乙本
第六卷
合冊
元

第 第 第
六 三 六
架 號

司法省
第三號
寄贈圖書文庫

B.500
P 1
3 d



司浩省
歌錄上
多則軍

ニ相符合スル所ナラズ然レ下ノ第百九十二條

或レ請求ニシテ其理由ニ付テハ既ニ確定シタルモノナリ時本法第

二百七十六條終句ハ爾餘ノ審理ハ其外形上ニ於テハ単ニ清算スル

ニ過キサルカ如シト雖モ而カモ其審理ノ物件ハ仍然全般ニ

亘ル一キナリ乃チ其理由ヲ確定スルノ裁判ハ即チ附帶裁判ニ

ニ過キサルヲ以テ、故ニ原告カ訴訟ヲ為シテ求ムル所ノ請求ハ其

分量上ニ於テ之ヲ併ハ未ダ其一部分ヲ結局セサレハナリ是ニ於テ

卒即チ本条第百九十二條ニ於テ本法第百九十五條以下ノ規則ハ理由ノ

既ニ定コリタル請求額ノ確定ニ関スル審理手續ニ関シテモ亦適用

スルモノト規定シタルハ蓋当然ナリ

此他本法第百九十五條以下ノ趣意ヲ適用スヘキコトニ付テハ即

チ本法第百六十三條第三項並ニ第百六十二條第三項ニ於テ之

ヲ指示スル所アルナリ

右ノ各場合ハ即チ(缺席本案裁判)ニ関スルナリ而シテ(缺席附帶裁判)

ニ付テハ本法第百九十五條以下ノ規則ニ包含セシムヘシ之ニ反

シ(附帶缺席裁判)ニ付テハ之ニ包含セシム能ハス但本法ニ於テハ(本

条第百九十二條)以下ノ趣意ヲ適用スルコトニ定メテ之ヲ過リト雖モ必ス單

ニ原告被告間ニ存スル附帶訴訟審理スル為メニノミ定メタル期日ヲ

缺席シタルニ限ル一キノ要件ナカル可ラサルナリ既ニ此要件ノア

ルニ因ルナリハ則チ其缺席審理手續及ビ缺席裁判ハ輒チ附帶訴訟ノ

外ニハ超出スル能ハスシテ而シテ本法第百九十五條第百九十九

六條ノ趣意ヲ適用シテ以テ(附帶訴訟)ヲ裁判スルノミ此裁判ニ對シ

テハ(本)條末、缺席裁判ニ同ナルト同ノ亦故障ノ申立ヲ為シ得ルナリ

蓋本条第百九十二條ノ趣意ヲ詳解セシムハ左ノ如クナリ

明治十九年四月廿六日 訖



井上

司法省記録文庫
第五百十九號
第六冊の内

沼沢

受第 二六八五號



獨逸新法釋義 第十九卷
通計四拾壹葉

Handwritten notes in cursive script, including the characters '沼沢' and '出'.

第三百一十一条 (故障申立ノ抛棄及ヒ願下ニ関スルノ条)
故障ノ抛棄及ヒ其願下ニ関シテハ亦控訴ノ願下及ヒ其願下ニ付テノ
規則ヲ適用ス

(理由説明及ヒ制定ノ沿革) 本条ニ付スル理由ノ説明ニ付テハ本法
第四百七十五条第四百七十六条ニ推譲ス宜ク就テ参看スハシ而シ
テ国議院委員会ニ於テ異議ナク認可セラレタリ只茲ニ述フ一キハ
乃モ内閣代理員カ説明シテ控訴ノ願下並ニ故障ノ願下ニ付テハ更
ニ口頭控訴ヲ為スヲ要セスト演述セル所是ナリ

第三百十二条 (特別ナル場合ニ関スルノ条)
本節ノ規則ハ反訴ニ関シ又ハ理由ノ既ニ定マリタル請求額ノ確定ニ
関スル審判手續ニ付テモ亦之ヲ適用ス可シ

附帶申立
単ニ附帶申立ニ付テノ控訴ハ為メ期日ヲ指定シタル時其缺席裁判手
續及ヒ其缺席裁判ハ此附帶申立ヲ完結スルニ止ルモノトス本節ノ規
則ハ本項ニモ亦之ヲ適用ス

(第一解理由ノ説明) 抑本法第二百九十五条乃至第三百一十一条ハ訴
訟ノ控訴ノ為メ指定シタル期日ヲ缺席スル場合ニ付キ規定スル所
ノモノニシテ乃モ其缺席裁判ハ本案終局裁判タルナリ即チ其訴訟
件ヲ裁判シ取ル若シ常ニ既ニ一ノ附帶裁判ヲ為シテアハ事件ナル件
ハ其訟件ノ未タ完結セサル部分ニ付テ裁判スルモノトス

又反訴ノ提起アル時ハ其控訴ハ本訴及ヒ反訴ヲ包括スヘシ此故ニ
其控訴期日ニ缺席シタル場合ニハ乃モ其缺席裁判手續及ヒ其缺席裁
判ハ本訴及ヒ反訴ニ付キ一時ニ之ヲ為サレ可ラサルナリ是本条
カ本法第二百九十五条以下ノ骨子タル律文ヲ榮達シタル結果ニ恰

モ相符合スル所ナラシ然レ下ノ第百九十二條

或レ請求ニシテ其理由ニ付テハ既ニ確定シタルモノナリ時、本法第

二百七十六條終端ハ爾餘ノ審理ハ其外形上ニ於テハ単ニ清算スル

ニ過キサルカ如シト雖モ而カモ其審理ノ物件ハ仍然全般ニ

亘ル一キナリ乃モ其理由ヲ確定スルノ裁判ハ即チ附帯ノ裁判ニ

ニ過キサルヲ以テ、故ニ原告カ訴訟ヲ為シテ求ムル所ノ請求ハ其

分量上ニ於テ云フハ未ダ其一部分ヲ結局セサレハナリ是ニ於テ

半即チ本条第百九十二條ニ於テ本法第百九十五條以下ノ規則ハ理由ノ

既ニ定マリタル請求額ノ確定ニ関スル審理手續ニ関シテモ亦適用

スルモノト規定シタルハ蓋当然ナリ

此他本法第百九十五條以下ノ規則ヲ適用スヘキコトニ付テハ即

チ本法第百六十三條第百六十二條第百六十二條第百六十二條ニ於テ之

ヲ指示スル所アルナリ

右ノ各場合ハ即チ(缺席)本案裁判ニ関スルナリ而シテ(缺席)附帯裁判

ニ付テハ本法第百九十五條以下ノ規則ニ包含セシムヘシ之ニ反

シ附帯(缺席)裁判ニ付テハ之ニ包含セシメ能ハス但本法ニ於テハ(本

条)第百九十二條以下ノ規則ヲ適用スルコトニ定メタリ然リト雖モ必ス單

ニ原告被告間ニ存スル附帯訴訟審理スル為メニノミ定メタル如ク

缺席シタルニ限ル一キノ要件ナカル可ラサルナリ既ニ此要件ノア

ルニ因ルハ則チ其缺席審理手續及ビ缺席裁判ハ轉テ附帯訴訟ノ

外ニハ超出スル能ハスニテ而シテ本法第百九十五條第百九十九

六條ノ趣意ヲ適用シテ附帯訴訟ヲ裁判スルノミ此裁判ニ對シ

テハ(本)條末、缺席裁判ニ同キト同ノ亦故障ノ申立ヲ為シ得ルナリ

蓋本条第百九十二條ノ趣意ヲ詳解セシハ左ノ如クナリ

甲附帯訴訟及^審理及^本本案ノ審理トノ為メ指定シタル期日ニ欠席
シタル時ハ則チ本案ニ対スル^欠席裁判^即チ本案^欠席裁判^ノ言渡

乙附帯訴訟ノ審理及^本本案ノ審理ノ為メ指定メタル期日ニ於テ附帯
訴訟ノ原告ノ相手人ノミ出廷シ而シテ其本案ニ付テノミ審理ヲ

受ケ遂ニ其附帯訴訟ニ付テ審理ヲ受ケスレテ止シタル時ハ則チ
其審理ハ不完全ノモノトスルヤ猶ホ本法第百九十九条ノ場合ニ

於ケルカ如ク然リ乃チ欠席審理及^欠席裁判ハ之ヲ為スノ地ナ
ク且此不完全ナル審理ニ起因ヤン結果ハ附帯訴訟原告ノ相手人

ニ於テ之ヲ被ル所トナリテ而シテ其受クル裁判ハ即チ^對審判
判ナリトス

抑本条第ニ項ハ本法第百三十三條ト頗ル密着ノ牽連ヲ為シアルモ
ノモリ而シテ原告被告ヲレテ宣撫セシムルノ手續ハ即チ立証ノ一十

リ故ニ期日ニシテ若シ宣撫ヲ為スタメニノミ指定セラレタル時ハ
尔他ノ立証ノ為メニ指定シタル期日トハ敢テ區別ヲ為サズ是ヲ以

テ此期日ヲ缺席シタル場合ノ結果ヲ避ケシニハ必ス獨リ本条第ニ
項ノ趣意ニ准拠スルノ外之アラサル可シ然リ而シテ元来原告被告

人ヲレテ争訟若クハ争点ヲ裁決スルノ為メ宣撫セシムルノ効用ニ対
セハ即チ其宣撫ノ為メ指定シタル期日ノ欠席ニ因ル結果ヲ除却ス

ル●ハ通常審理期日ヲ缺席シタルノ結果ニ於ケル同一ナル範圍ヲ
以テ之ヲ許スコト、為スラ良シトスルモノ、如シ乃チ本法ニ於テ

ハ已ニ爰ニ注意シ原告本人宣撫ニ付テノ手續ヲ宣撫事務者
欠席スルヲ一ノ附帯訴訟ト看做シ且本条第ニ項ノ規則ニ拘ハラヌ

且其宣撫ハ既ニ裁判ヲ以テ言渡シアルト若クハ立証決定ヲ以テ命

令スルトニ関セス本法第百四十条ニ於テ

宣誓事務者宣誓ノ為メ定メタル期日ニ出廷セサル時ハ後令其期

日ハ當ニ宣誓ノ為メノミニ指定セラレタルモノニ非ラザリレ場

合ナリトモ亦(中)宣誓(中)裁判ヲ為レ得

トノ趣交テ規定シ且其欠席ノ結果宣誓ヲ拒絶シタルモノト看做ス

ヲ保タレムルノ為メ必ス缺席裁判ヲ言渡サ、ル可ラスト明示シタリ

既ニ欠席裁判ヲ言渡シ且之ニ対シ故障ヲ申立ンテ許スモノナリハ

ハ則チ故障申立期限ヲ経過シタル后若シハ申立タル故障ノ完結シ

タル后初テ本案ノ審理ヲ為シ又其宣誓ヲ拒絶シタルニ因テ生

ル結果(本)裁判ヲ以テ(中)結果ヲ得(中)ルヲ得(中)キモルトス(中)タル

ルガ国許民法第六百一条参看要カ为メ裁判所ハ到底故障ヲ審理シ

テ進テ宣誓ヲ為サレメタル時ニ方テ言渡ス一キ裁判ト(中)相包含ス

ル裁判ヲ特別ニ編綴スルノ後勞ヲ免カレ加之其欠席裁判宣誓ヲ拒

ミタルモノト看做ス一キノ申立ニ対シニ係ル裁判及ヒ其(中)審議

判即(中)宣誓(中)拒ミタルノ結果ヲシテ効アラシムルノ申立ニ対シニ

係ルモノトテ別々ニ言渡ハ煩(中)避ケ得ルナリ

「第二解制定」沿革及ヒ解題 二箇ノ新原稿ハ同一ナリ又千八百七

十一年度ノ草案及ヒ此部獨乙聯邦草案ハ同一ナル主義ヲ執レリ而

シテ本条ニ付テハ国議院委員会ニ於テ異議ナカリシ

蓋其之ヲ(中)得ルヲ更ニ長冗ナル理由説明ヲ要トスルカ如キ

法律ハ必竟太シ良法律トハ云フ一カラサル一カラシ

又本法第百九十五条乃至第百三十二条ヲ適用スルハ則チ又欠

席裁判下付ノ申立及ヒ欠席怠慢ノ進(中)許ス規則モ之ヲ適用シ

得(中)キナ(中)本法第百九条並ニ其第一解第六解及ヒ第百九十五

四

条乃至第百九十七条ノ第四節終迄

而シテ上ノ理由説明中ニ反訴ニ付テ述フルアルモ若シ被告カ初回
ノ期日ニ於テ欠席シタル中付テハ當テサル可シ此場合ニ於テハ
可唯備書面中ニ掲載セル反訴ハ缺席シタリトテ之ノ棄却シ能ハス
如何シトナレハ理由説明中自ラ曾テ喋々スル如ク反訴ハ本法第ニ
百五十一条及ヒ第ニ百五十四条ニ拠リ存案ノ送達ヲ以テ提起セラ
ル一カラスシテ必ス口頭對審ニ於テ之ヲ提出ス可キモノナルカ故
ナリ(本法第ニ百三十九条第一條第ニ百六十九条第四項終迄)是ニ於
テ右ノ缺席ノ場合ニハ反訴ハ未タ提出セラレサルモノト看做スヘ
クシテ而シテ口頭對審ニ於テ之ヲ申立且本法第ニ百六十九条ノ規
則ニ從ヒ其訴願ヲ朗読シタル后被告負后ノ期日ニ欠席ヲ為レタル
時初テ其反訴ヲ行クルヲ得ヘキナリ

本条第ニ項ニ於テ明示スル欠席者ノ被ハル一キ欠席ノ結果タルヤ
取テ明文ニ在リ附帶訴訟^中外他ノ場合例ハハ裁判官其訴訟分擔權
ヲ実行シタル后ノ場合ノ委ニモ亦必ス之アラサル可ヲサルナリ本
法第百三十六条第百三十七条終迄

第四節 計算事件ノ財産ノ分別及ヒ之ニ類似スル訴訟ニ付テノ
準備審理手續

第百三十三条(要件ヲ定ムルノ条)
計算ノ當否財産ノ分別又ハ之ニ類似ノ關係ニ付テノ訴訟ニ於テ一計

便利ナルモノニ非ラスト詳也

又本法第四百六十九条ニ関シテハ獨リ合議裁判所ニ於テハ此等
傷審理手續ノ必要ヲ見ルモノナリト論シタリ

亦后ニ本法第二百五十二条及ヒ本条ノ命令ニ對シテハ上訴ヲ許サ、
ルコトヲ注意シカラス

「第二條制定」ノ沿革及ヒ解題 各草案第十條ト同文ナリ而シテ本
条ニ付キ國政院委員會ニ於テ更ニ議論ナカリシ

本法ニ於テハ計算ニ関スル特別訴訟ナルモノヲ規定セス又固トヨ
リ準備審理手續ヲ清敏スルヤ否ニ付キ原告被告ニ尋問セシメストハ

虽マ此手續ヲ指揮スルハ即チ本法第二百五十二条及ヒ本条ニ准拠シ
裁判所ノ意見ニ放任セリ

受命裁判官ト云ハハ其組合裁判官中ノ一人ナリト解ス一キナ
シ本法第五十一条第一條及ヒ即チ所謂ノ専任裁判官又ハ裁判所

委員ト稱スル者是ナリ
又受命裁判官ニ関シテハ宜ク本法第五十一条及ヒ七十一条第二

百二条及ヒ二百六十一条及ヒ二百九十四条第二項及ヒ三百三十九条ヲ參
照スヘシ

北部獨乙聯邦草案第七百四十三条第二項ニ於テハ此準備審理ノ時
鑑定人ノ鑑定ヲ命ジ得ヘキ推シ受命裁判官ニ與ヘテ本法第七

十一条第二項七条ノ反對ナル理由ニ據レハ即チ受命裁判官ニ此如
キ推シ與ヘケランヲ欲スルモノ、如シ然レバ本法第三百五十二条

二項ヲ以テ此手續ニ付テハ受命裁判官ニ與フニシテ訴訟ノ指揮推シ
ル治安裁判官ニ本法第三百五十二条第一條及ヒ位地ヲ授ケ即チ本法

第四百五十六條及ヒ四百六十四条ニ從ヒ本法第三百三十九條及ヒ三百

十五條第二解卷及之第百三十二條乃至第百三十五條ノ位地ヲモ
亦之ヲ授ケアルノミナラス更ニ又勸解ヲ為スノ權ヲモ付共シアル
十ノ本法第百六十八條ノ理由說明ニ係ル註解卷

第三百十四條

受命裁判官及之期日 指定スル 規定ノ全

準備審理手續ヲ命スル決議ヲ言渡スノ際裁判長ハ受命裁判官ヲ指名
シ及之決議ヲ完了スル為メノ期日ヲ定ム可シ若シ此期日ヲ定メサル
時ハ受命裁判官之ヲ定メ又受命裁判官其命ヲ施行スルニ差支アル時
ハ裁判長他ノ親合裁判官ヲ指名ス

理由ノ說明制定ノ沿革及之解題 特ニ本條ニ對スルノ理由說明ハ
之アラス○北部獨乙聯邦單據第七百四十三條第一項ニ於テ準備
審理手續ニ任ル物件ヲモ其決議會中ニ明記ス可レト規定シテ其

他各單據皆同ナリ而シテ國務院委員ハ本法第百二十六條ニ於テ

ルト齊シク本條ノ其最初ノ受命裁判官モ裁判長ノ指定スルコトニ
依テカシタリ

前項ニ援例シテハ北部獨乙聯邦單據第七百四十三條第一項ノ規則

ヲ採用セサルハ亦然ナリ蓋裁判所ハ全部ノ訴訟又ハ其一部ニ付キ
準備審理ヲ命シ得(本條第一項)ト由テ然カモ其制裁ニ付テハ必ズ決

算會中ニ明示シテアササル一カラス

裁判所若クハ受命裁判官ノ期日ヲ定ムルニ付テハ 依テ 對審期日ニ於テ

直ケニ口頭ノ以テ之ヲ告示シ得ル場合ニ於テハ 依テ 原告 係 被告 係 出

用アリモ更ニ之ヲ叫出スコトヲ要セス 本法第百九十五條並

ニ其註解卷及之ハ本法第百九十四條第三項ニ准拠シ裁判所職權

ヲ以テ原告被告ガ送達ヲ為スコトヲ得(キナ)

第三百十五條（手續ニ関スルノ条）

準備審理ノ手續ニ付テハ調停ニ左ノ諸件ヲ記載シテ之ヲ明確ナラシム可シ

一 如何ナル請求ヲ申立ル事及ヒ如何ナル攻撃方法并護方法ヲ提出スル事

二 如何ナル請求及ヒ如何ナル攻撃方法并護方法ニシテ争論トナルモノナル事又ハ争論トナラサルモノナル事

三 争論トナリタル請求及ヒ攻撃方法并護方法ニ付テハ其事件上關係並ニ原被告ヨリ列挙シタル立証方法提出シタル対証抗弁並ニ立証方法対証抗弁ニ付テハ其剛及ヒ提起シタル申立

可審理手續ハ訴訟法ニ依リテ之ノ權限ニ属スル時准換ス可キ規則ニ從テ之ヲ為ス可シ但手續ハ訴訟法ノ附帶訴訟方ニ裁判若クハ立証決

裁ノ程度ヲ為スニ熟シクシテ認ケルマテ之ヲ継続ス可シ
第一鮮米条及ヒ第三百十八條第一項第三百十九條ニ對スル理由説

明ノ摘抄 字漏生国章按第七百八十五條第七百八十八條第七百八十九條及ヒ北部獨乙聯邦章按第七百四十四條第七百四十六條ニ提

レハ則チ本法ヨリ更ニ此受命裁判官ノ審理ニ付テ準備的ノ性後ノ申付スルコト大ナル蓋本法ハ右ノ二章按ニ反對シ口頭書上結審

ヲ為ス可キ層面上審理ノ主義ヲ採用シタルモノニシテ而カモ本法及ヒ第三百十九條ニ於テ其以テ此主事ノ執ルコトヲ明知シ得ハ

キ知ル又若シ此主事ニシテ原被告ノ為メ危惧スルモノナキニ非ラストセシ事即チ特ニ寛大ナル欠席裁判制ヲ立テ本法第三百十六條

第三百十八條第二項並ニ受命裁判官ハ職權ヲ以テ裁決ニ熟スルマ

此手續ヲ継続ス可ク又對審^理ノ整理指揮スル^ニ專任裁判官ノ權利
 ノ受命裁判官ニ付與スルノ規則即チ本法ヲ定メテ以テ其危懼ノ防
 遏セシメタル^ニ本法第四百六十四條及七下ノ第一解第三而十三條等
 二解^ニ危懼^ノ如ク為スルハ則チ裁判^ノ言渡ス一キ受訴裁判所ニ於テ
 復タ開ク一キ口頭對審^ノ原期回復ノ場合ノ除キテハ^一其言渡ス
 一キ判決ナルト裁判^ノ上ノ閱セス只ニ^{法律}權^ノ上ノ要^ノ点ノミニ付テ
 審理スルニ過キスレ^ル可^ク上^ノ公^ノ事^ノル^ニ國訴訟法第四百七十三條
 參看而シテ其事實上ノ問題ハ既ニ^{法律}前^ノ審理ニ於テ再ニ動ス一カラサ
 ルモノニ新定シアルナリ^ニ因^テ原告^ノ原被告^ノ其前^ノ審理ニ於テ對審^ノ
 受タル結果ニ付テ裁判^ノ為ス裁判所ノ審理^ニ於テ口頭陳述^ノ為
 ス一キハ言^フ候^トス^ト魚^ニ本法第三而十八條第一項^ニ危懼^ノ力^ニ是
 只裁判所^ノレ^テ確然^ニ之^ノ知^セシムル^カ為^メニスル^ニ過^キスレ^ル
 裁判^ノ下^ノス^カ為^メニス^ニ非^ラサル^ナル^ニ北部^ノ獨^ニ乙^ノ聯邦^ノ章^ノ條^ノ第七^而
 四十五條^ニ案^ノ意^ノ本^ノ法^ニ於^テハ^一此^ノ總^ノ合^ノ裁判^ノ官^ノレ^テ報告^セシムル^ノ方
 法^ノ分^クテ^一國^ノ訴訟^ノ法^ノ第四^而七十三條^上章^ノ條^ノ第五^而六十二條^等
 漏^シ生^ク國^ノ章^ノ條^ノ第七^而八十八條^等ニ^テム^ルハ^一國^ノ訴訟^ノ法^ノ第七^而九十四
 條^ニ參^照ス^ルハ^一本^ノ法^ノ第二^而五十八條^ニ於^テシ^テカ^ク如^ク其^ノ便^宜ナル^ニ也
 トハ^一視^認セ^ル是^ニ於^テキ^ニ即^チ原^ノ被告^ノ陳^述ス^ル前^ノ審^ノ理^ノ洞
 查^ニ記^載ス^ル可^ク異^ナル^カ其^ノ陳^述ノ^一不^レ完^全ナル^ハ其^ノ裁判^ノ長^ハ更
 正^スル^ノハ^一追^補ノ^一為^メ必要^{ナル}場合^ニ方^ニ更^ニ對^審ノ^一完^クス^ルニ^至ル^ハ
 自^然ノ^一結果^{ナル}ト^ス北部^ノ獨^ニ乙^ノ聯邦^ノ章^ノ條^ノ第七^而四十九條^{參^照}
 第一^而二解^ノ制定^ノ沿革^及七^而解^ノ意^ヲ北部^ノ獨^ニ乙^ノ聯邦^ノ章^ノ條^ノニ^付テ^一上^ノ理由^ヲ
 說明^スニ^就テ^一學^ノ漏^シ生^ク國^ノ章^ノ條^ノ第二^而九十九條^及第二^而九十二條^ハ
 北部^ノ獨^ニ乙^ノ聯邦^ノ章^ノ條^ノノ^一主^ノ旨^ヲ於^テ於^テ其^ノ他^ノ各^ノ章^ノ條^ノ皆^チ亦^チ參^照ス^ル

ル所ナキナリ

国議院委員會ノ議事ニ於テ、代理人本条ノ規定ニ適スル限りハ其旨
面ヲ調停ニ添付スル為メ差出スコトヲ得、且受命裁判官ハ本法
第百三十二条ノ権利ヲ有スルモノナル可シトシ、趣意ニ付テハ委員
及ヒ内閣代議員ノ共ニ同意ヲ表シタル所ナリ、北部獨乙聯邦憲法第
七百四十四条第三項ハ之ニ異ナリ

又前項議事ノ時受命裁判官ノ職權ニ関スル尚題ヲ提出セラレタリ
乃文之ニ付テハ已ニ本法第三百十三條第三解下ニ於テ詳述セリ
此調停トハ即チ本法第五十一条ニ准拠シ裁判所書記ノ調製スル
キモノニシテ而シテ又上末云ノ所ノ調停ニ添付スル為メ、代理人
差出ス旨面ニ付テハ本法第四十六條第二項ノ規則ヲ適用ス可キ
ナリ

第三百十六條 (受命裁判官ノ審問ニ缺席スル者ニ関スルノ条)

原告若クハ被告受命裁判官ニ於テ定メタル期日ニ出廷セサル時其裁
判官ハ出廷シタル原告若クハ被告ノ申立テ前条ノ規則ニ從ヒ調停ニ
記載シテ之ヲ明確ナラシメ且更ニ新期日ヲ指定ス可シ又出廷セザル
一方ハ調停ノ謄本ヲ交付シテ新期日ニ之ヲ呼出ス可シ
其一方新期日ニモ復タ出廷セザル時ハ送達シタル調停ニ載セタル付
手人ノ事實上ノ主張ハ之ヲ自認シタルモノト看做シ其主張ニ付テハ
準備審理手續ハ之ヲ継続セサル可シ

第一解本条及ヒ第三百十八條第三項ニ對スル理由説明ノ抄出受
命裁判官ノ對審廷ニ原被告兩造共ニ欠席シテ出廷セザル時ハ則チ
對審ハ其休止セシムルニ本法第二百二十八條第三項參看如何シ

トナレハ即チ受命裁判官ノ行フ審理ハ其実本対審ノ継続手續ト若
做サレル可ラサルヲ以テノ故ナリ乃チ口頭対審ニ原告被告両造ノ欠
席スルト同一ナル結果ヲ成スルナリ

然リ而シテ受命裁判官ノ為ス対審ニ原告被告ノ一方ノミ欠席スル場
合ニ於テハ一般ノ欠席ニ関スル規則ヲ直チニ適用スルヲ得ス蓋受
命裁判官ナル者ハ法律上及ヒ事實上ニ關係ヲ有スルキ欠席裁判ヲ

言渡ス職權ヲモ保有スルトハ認マヘカラサレハナリ然リト雖モ受
命裁判官ハ直チニ受訴裁判所ニ於テ欠席裁判ノ言渡ヲ得ルコトヲ
得ルハ固トコトナリ然レモ其ノ後ハ北都独ニ聯邦草案第七百四十七條參
照ニテ言渡ヲ得ルコトナリ

蓋乃チ本法ニ於テハ是等ノ混雜ヲ避シカカメテ空漏生国草案第七百
九十一条第七百九十二条ニ依リ欠席者ヲ二回呼出スル制ヲ立テ即
チ受命裁判官ハ先出廷シタル一方ノミヲ審向シ而シテ右更ニ新期

日ヲ定メ調停ノ際本ヲ欠席シタル相手人ニ送達シ且之ヲ新期日ニ
呼出ス可キナリ若シ欠席ノ一方新期日ニモ復タ出廷セサルハ則
チ其欠席者ハ送達シタル調停中ニ記載シアル相手人ノ事實上ノ主

張ヲ自認スルモノト看做シ其争論スル所並ニ終ハテ自ラ論弁スル
所ヲ棄却ス可シ乃チ準備審理手續ハ是ニ至テ終リタルナリ然レ
氏是必ス一個ノ点ニ付キ受命裁判官ノ審向ヲ二回欠席シタル場合

ノミニ限ルヘシ必竟欠席者ノ為メ猶豫ヲ共ヘテ以テ其權利ヲ主張
シ得ヘカレレメアルニ由ル是故ニ第一ノ期日ニ於テ出廷シタル一
方ヨリ新ナル請求若クハ新ナル事實ノ表ヲ更ニ提出シタルハ則

チ復タ是カカメ準備審理ノ手續ヲ繼續セサル可ラズ此場合ニ方
ハ一般ノ原則ニ從ヒ欠席者ヲレテ独立ノ聲明及ヒ請求ヲ仍ホ進申
シ得ルノ時機ヲ失フヘキモノトス

而レテ欠席怠慢ノ為メ棄却セラレタル一方カ其訴既ニ申供セタル所
アリテ之ヲ調停ニ記載シアルモノハ仮令後日兩回ノ欠席ヲ為スト
モ更ニ此欠席ノ影響ヲ被ルコトナク血受訴訟判所ニ於ケル口頭對
審^理ヲ為シタル精力ハ仍舊存立スルモノナリ

蓋本法ニ於テ此規則ヲ定ルニ付テハ努トメテ本法第百三十條及ニ
第百四十條ノ規定ト相符合セシメ以テ字漏生國單按第百七十九十三
條第百九十四條ニ於ケルカ如ク教示ノ例外特別ヲ用フルヲ避ケ
シメタリ

第一解制定ノ沿革及ニ解然 第一解ニ達セシ北部獨乙聯邦單按
ノ制ハ字漏生國
第百九十三條單按第百九十三條ニ於テ存ケテ之ヲ採ルコトナ
シ而レテ他ノ各單按ハ筆十同文ナリ國議院委員會ニ於テ異議採用
セラレタリ

蓋本法第百三十九條ハ一ニハ全ク欠席怠慢スル場合ト一ハ一部ノ
怠慢ノモノトニ付キ規定スル所ニシテ而レテ本條ハ偏ニ全ク欠席
怠慢スルモノニ係ル規定ナリ全ク怠慢スルトハ即ち其者出廷ハ為
シタレトモ遂ニ對審ヲ為セタル場合ヲモ包含ス本法第百九十八

條及ニ第百三十七條乃至第百三十九條ノ第一解卷急速リ而レテ其
二ノ解出期
結果日ニ欠席ヲ為シタル結果ニ付テハ別段嚴責ヲ告グルコ
トナク且本條ノ明文ニ於テ原告ノ申立アルヲ俟ツヲ要スル所^之
ナキカ故ニ自ラ生スルモノニシテ本法第百九條卷道又受命裁判

官コト特ニ之ヲ告示スルヲモ要セサルナリ此他ノ意案ニ付テハ本
法第百三十七條乃至第百三十九條ノ第一解ヲ卷道スルニ又本條第
二項ニ於テ尺寸手人ノ主張スル事實ヲ自認スルモノト看做スルハ

ノ不利アルノミニ規定セル所ハ即チ本法第百九十六條第一項ノ

規則ニ符合スル所ナリ而シテ抗弁其他訴訟上処ヲ禁止セラレハ
コトニ付キ
本法第百八条ニ從フ一キハ固トヨリ論ヲ俟タス

上ノ理由説明中第三項ニ於テ欠席ノ成果ノ局限ニ付テ叙述スル所
ヲ親ルニ其一部ハ本審ニ於テハ正當ナル一レ必竟是欠席者カ前ニ

口頭對審席ニ於テ陳述スル所ノ事項ノ如何ニ從フ可キナリ例ハ
單ニ對手人ノ請求ノ理由完全ナラスト云フヲ以テ全般ニ對シテ異議

ヲ為シアルニ過キサリシニ出廷シタル對手人之ヲ追補シテ完全ナ
ラシメタル時ハ則チ先キノ異議ハ全ク其効力ヲ失フ一キナリ而シ

テ本条第二項ニ照シ終一テ送達シタル調音中ニ記載シタル主張ニ
付テハ欠席者之ヲ自認シタルモノト看做ス可キナリ

第一回ノ期日ニ欠席シタル者ヲ再ヒ呼出スニハ口述シテ其新期日
ヲ命ジタルニモ拘ハラズ本法第百九十五條終局必ス之ヲ呼出ス一

キナリ而シテ其喚出ハ裁判所ヨリ之ヲ為スニ非ラス對手人之ヲ行
フナリ(本法第百九十一條乃至第百九十三條第一解第三及ニ第百四解

終局)

第三百七條(口頭ノ結局對審ニ関スルノ條)

準備審理手續ヲ終結シタル后受訴裁判所ハ職權ヲ以テ口頭對審ノ期
日ヲ定メ之ヲ原告ニ通知ス可シ

第三百八條(全上)

原告ハ口頭對審ノ際調音ニ拠リテ準備審理手續ノ結果ヲ陳述ス可
シ

原告一一方出廷セサル時準備審理手續ニ於テ論争ニ係ラサルコト

ノ判然シタル請求ハ一部裁判ヲ以テ之ヲ完結ス可シ其他ノ場合ニ於テハ申立ニ因リ缺席裁判ヲ言渡ス可シ

第百二十九条 (全上)

受命裁判官ノ前ニ於テ事實ヲ披露又ハ要點ニ付キ陳述ヲ為サス若クハ陳述ヲ拒ミタル時ハ口頭對審ニ於テ之ヲ進補スルコトヲ許サス受命裁判官ノ前ニ出廷シタル一方陳述ヲナサズモト者做ス可キハ裁判官陳述スヘキコトヲ促カシタリシ部分ニ限ル可シ
受命裁判官調音ニ記載明確ナラシメサリシ請求攻撃方法并護方法立証方法及ヒ対証抗弁ハ後日ニ至リ始メテ成立セ若クハ一方ノ知ラシタルコトヲ明示スル時ニ非ラサレハ口頭對審ニ於テ之ヲ申立ルコトヲ得ス

(第一解理由ノ説明)

本文第百二十七条ニ對シテハ特別ノ理由説明

アルコトナシ又第百十八条ノ理由ニ付テハ本法第百十五條ノ第一解及ヒ第百十六條ノ第一解ニ於テ論及シアルナリ今復茲ニ第百十六條第一解ニ抄出セル説明ニ漏レルモノヲ添テシキ

即チ即

受命裁判官ノ準備審理ヲ終局シタル后本法第百十五條第百

十六條原告ノ一方受訴裁判所ノ對審ヲ缺席スル時ハ其準備審

理中争ト为リアラサシ請求ノ部分ニ付テハ一部裁判ヲ言渡スナ

リ此場合ニ在テハ欠席者ハ原告ナルト被告ナルトノ別ヲ為スヲ

要セス何レトナレハ既ニ準備審理中ニ交換提出セム各面ニ依リ

對審上充分ニ審理シアルヲ以テナリ

然レ氏以争ハレタル請求ニ付テハ乃チ口頭對審ノ期日ヲ全ク欠

席怠慢シタル場合ニ付^付一般ノ原則ニ従テ而シテ本法第百九十五条乃至第百九十七条及ヒ第百三十二条ノ規則ニ依^依原告一方ノ申立ニ因リ故障ヲ許スヘキ欠席裁判ヲ^未言渡サ、ル可ラサルナリ蓋故障ヲ申立タル片ハ受許裁判所ニ於テ更ニ口頭對審^理リ聞クニ至ルト雖モ又為メニ受命裁判官ノ結審シタル準備審理手續ノ結果上ニハ毫モ^{影響}及ホサルモノトス抑故障申立ノ手續タルヤ頗ル簡易ナルヲ以テ欠席者カ曾テ受命裁判官ノ前ニ於テ陳弁シ己ニ其調音ニ記載シテハ權利ハ上未^未述べル也^同規定ノ為メ^更改ニ毀損セラル、^{カ如キ}不利不利ヲ受ケス又出廷シタル^同對手人ハ亦總ハテノ場合ニ於テ必ス訴訟旨要ニ拠テ對審上裁判官^同生国草按第七百九十五条卷首ヲ受ケサル可ラサルモノト制定スルニ比スレハ其對手人カ利益ヲ^{保護}スルニキヤ更ニ大ナリトス

●而^而此場合ニ於テモ亦原告一方ノ對審^理ヲ為サシムルヲ以テ欠席ニ同カラシムル也^同本法第百九十八条ニ付^付ハ特ニ法文ヲ掲^掲テ之ヲ明示スルヲ要セサルヘレ云々

本文第百十九条ノ理由ニ付^付ハ本法第百三十五条第一解及ヒ本居九例中ニ於テ之ヲ見ルヘシ

第一解制定ノ沿革 字漏生国草按第百九十四条ノ本文第百三十七條ニ異ナル所ハ結局ノ審理期日ノ指定ヲ受命裁判官ニ委任^{スル}ヘシ

○所ニ在ルナリ^同其他ノ各草按皆同シ而シテ国務院委員会ニ於テ更ニ異議ナク採用セリ又本文第百三十八條第百三十九條ハ北部^{北部}獨乙

聯邦草按第七百四十五条乃至第七百四十八条並ニ字漏生国草按第二百九十一条第百九十二条ニ於テ全ク異ナル規定ヲ採用シアリ

〔本法第百三十五条第一解第二解卷首之ニ反シ^同其他ノ各草按ニ於テ

ハ本法ト同一ナリ

本文第三百十八條第三十九條ニ付^〇ハ^八國議院委員^{第一號}ノ報告^ハ

ニ見^ルキモ^ノ之^ハナリ^ト今^ハ報告^ヲニ^テ委員^{第一號}ノ報告^ノ結果

トシテ^ハ揭^ケタル^ハ修正^ノ動議^ノ廢^止並ニ^ハ本文^{第三百十八條}第三十九條

ノ^ハ認^可誤^刷ト^シ中^誤ヲ^ハ為^セト^スフ^ヲ以^テ反對^ノ趣^ヲ即^チ議

決^スル^ハ氏^ノ動^議並ニ^ハ此^ノ動^議ノ^ハ為^メ修正^シタル^ハ第三^{百十九條}即^チ現

第三^{百十九條}ヲ^ハ認^可シ^{タル}コトニ^ハ正^誤シ^{タル}ノ^ハ察^{スル}ニ^ハ此^ノ報告^ニハ

第三^{百十八條}視^テ第三^{百十八條}ノ^ハ第二^項ヲ^ハ刪除^シ次^ノ第三^{百十九條}現^存

第三^{百十九條}ノ^ハ第三^項ヲ^ハ此^ニ移^サント^ノ動^議アリ^レシ^ヲ排^任シ^{タル}コ

ト^ハ議^事ヲ^ハ脱^漏セ^レシ^{タル}モ^ノナ^リト^シ乃^チ此^ノ動^議廢^棄ノ^ハ決^ス

ル^ハ方^チ議^決ベ^ル氏^ハ更^ニ動^議ヲ^ハ起^シ此^ノ第三^{百十九條}即^チ第三^百

十九^條ニ^付只^ニ陳^列ヲ^ハ為^サル^ノミ^ニテ^ハ缺^席怠^慢ノ^ハ資^格ノ^モ

ノ^ハ非^ラサル^{コト}ニ^ハ空^メント^論レ^{タリ}是^ニ因^テ漸^ク本^條第三^{百四}

十七^條甲^即チ^ハ現^存ノ^ハ第三^{百四十六條}ノ^ハ新^定規^則ノ^ハ趣^意ト^ハ相^符合^シ

且^チ千^{八百七十五}年度^{月十日}ノ^ハ起^業決^議第三^{百四}号^ニ於^テ第三^{百十九條}現

存^{第三^{百十九條}ノ}第一^項ヲ^ハ進^加ス^ルニ^至リ^終ニ^ハ此^ノ進^加ノ^ハ方^今ノ^ハ第三

百^{十九條}第一^項ノ^ハ末^段ニ^ハ置^キタル^ハ所^{ナリ}

本文^{第三^{百十八條}第三^{百十九條}ノ}第二^讀會^ニ於^テハ^ハ滿^場異^議ナ^リ

之^ヲ認^可シ^{タル}ハ^ハ本^條九^例參^照

千^{八百七十六}年^{十一月八日}及^チ九^日ノ^ハ會^談ニ^於テ^ハ宰^相レ^オン^ハル

ト^ハ學^士ハ^ハ國^議院^{委員}ノ^ハ報^告中^ニ載^セタル^ハ意^見ニ^因リ^テ演^説ヲ^ハ為^ス

ニ^至レ^リ乃^チ其^ノ報^告ニ^ハ準^據審^理ニ^於テ^ハ為^セル^ハ欠^席怠^慢ハ^ハ亦^ハ控^訴

ニ^於テ^ハモ^之ヲ^ハ進^補回^復ス^ルヲ^ハ得^ヘシ^ト明^揭セ^リ本^法第三^{百四}九^{十一}

條^{第三^{百四}九^{十三}條}參^照ス^ルハ^ハ内^閣代^理員^{タル}宰^相ハ^ハ始^審裁^判所^ノ

ニ^於テ^ハモ^之ヲ^ハ進^補回^復ス^ルヲ^ハ得^ヘシ^ト明^揭セ^リ本^法第三^{百四}九^{十一}

條^{第三^{百四}九^{十三}條}參^照ス^ルハ^ハ内^閣代^理員^{タル}宰^相ハ^ハ始^審裁^判所^ノ

ニ^於テ^ハモ^之ヲ^ハ進^補回^復ス^ルヲ^ハ得^ヘシ^ト明^揭セ^リ本^法第三^{百四}九^{十一}

裁判ニ対スル控訴ニ於テハ之ヲ不可ナリトスルノ意見ヲ述ヘ且又
アルスバルグ氏カ本法第四百七十条現第四百九十一条ニ付キ国裁
院委員ノ意見ト同一ナル趣意ヲ以テ論説シタルニ方テ内閣代理員
ハ本法第三百十三条以下ニ于テ特別審理手續ノ精神ニ適合セサ
ル旨趣ヲ演述セラレタリ此演述ノ意見ハ委員中或ハ賛成シ或ハ駁
論シ互ニ論争アリテ遂ニ決定スルニ至ラス又之ヲ仲和勸調スル者
モ之ナクシテ遂ニ決定セザレテ止ミタリ

〔第三解結局對審期日ノ指定〕 本法第三百十七條ハ字漏生因草按第
二百九十四條ノ趣意ニ異ナリ且上ノ第二解卷尾而シテ本法第九
十三條第二項ト相牽連シ以テ裁判所々長カ結局ノ對審期日ヲ指定
スル趣意ナルコトヲ示シタリ是故ニ受命裁判官ハ準傍審理ノ終結
ヲ裁判所長ニ報告セザルヘカラザルナリ〔本法第三百十五條第二項

卷尾又本文第三百十七條ニ於テハ第三百十六條第一項ニ於ケル如
ク特別ニ呼出スヘキ明文ヲ掲ケアラサルヲ以テ結局ノ對審期日ニ
関シテハ本法第九十五條第九十四條第三項ノ規定ニ準拠ス
一キモノニシテ即ち裁判所ハ其職權ヲ以テ此通知ヲ施行スヘク且
尙面ヲ送付之ヲ為ス例トスルナリ〔本法第九十一条乃至第九
十三條第一解第四卷尾

〔第四解口頭ノ結局對審及一部裁判〕 原被告ノ口頭申立ニ付テハ
〔本文第三百十八條第一項〕 本法第三百十五條第一解並ニ之ニ併立ス
ル第二百五十八條第二項ノ規則及ヒ之ニ對スル第二解第三解ヲ參
照ス可シ

又本文第三百十八條第二項ニ於テハ只原被告ノ一方ノ欠席シタル
場合ニ付テ望ムル所ナリ何レトナレハ若シ原被告兩造共ニ欠席ス

レハ即^決対審ハ休止セラレハナリ(本法第百二十八条及ヒ
第百三十六条第一解参看)

原告ノ一方ノ欠席シタルハ其争トナラサル部分ニ限リ一部裁
判^決以テ完結スヘキナリ然ルニ本文ノ(争論ニ係ラスト云フハ即
裁判所カ自認シタルモノト看做シ及ヒ本法第百三十六条第三項ニ
依リ抗弁ヲ为サレシモノト看做ス所ノモノヲモ亦論争ニ係ラサル
モノト为シテ可ナリ字將シ只原告一方ノ自認及ヒ抗弁抛棄(本法
第百七十七条第百七十八条若クハ裁判上ノ認送(本法第百六
十一条第二項)ニ因テ完了シタルモノニ限ル可ナリ疑團ヲ免カレ
サル一レ而^{カモ}論争ニ係ラズトノ意ヲ熟味スレハ自ラ又制限シ
アルノ事理アルヲ理合スヘク殊ニ其状況ヲ顧慮スレハ輒ケ大ニ悟
ル所アルヘキナリ乃今若シ認定上ノ自認クモ包容セシムルモノト
为ス件ハ則チ其裁判ハ一部分ハ対審上ノモノニ係リ一部分ハ欠席
上ノモノニ属シテ一ノ裁判ニシテ二種別様ノ性俟テ俟有スルニ至
リテ本法ノ主義ニ背反スレハナリ(本法第百九十五条乃至第百
九十七条ノ第一解参看)

然リ而シテ若シ本文第百十九条ニ依リ受命裁判官ノ審理ニ欠席
シタル者ノ怠慢ハ受命裁判所ノ対審^理ニ降シ單ニ原期回復ノ方法ヲ
以テ之ヲ取消シ得ルモノト为セハ甚ダ其理由ノアル所ヲ見ザルノ
ミナラス且^尚本文第百十六条ニ於ケル二回呼出スノ制ハ遂ニ徒爾
ノ蛇足ニ帰スルカ如ク然ルヘキナリ是ニ於テ字即チ一部裁判^決本文
第百十八条ヲ为スニハ本法第百十六条第二項ノ自認ト看做ス
ヘキモノヲモ亦^包括シアルナリ乃今上ノ理由説明ニ於テ欠席裁判
ニ対シテ故障申立(本法第百三条以下参看)逐ニ受命裁判官ノ

十三条ニ於テハ受命裁判官ノ審理ヲ為スニ付テハ取除ヲ規定スル
コトナクシテ通則ヲ掲ケタリ而シテ本文第三百十九条ハ偏ニ初審
ノ裁判手續ニ方テハ欠席怠慢ニ因ル結果ヲ示シタリト云フナリ蓋
シ法第三百十六条ハ一種特別ノ審理手續ニ係ルモノニシテ或ハ本
法第四百九十一条第四百九十三条ノ例外ヲ許シ得ヘカレテ然リ
ト虽モ法律ノ明文上之ヲ許スヲ見ス是ニ於テ果シテ然ルモノト解
釈ヲ下スコトハ敢テ為レ得ヘキニ非ラサルナリ故ニ控訴ニ於テ怠
慢ヲ追復スルコトハ本法第三百十六条ノ場合ニ於テ受命裁判官ノ
審理ニ係ルモノト虽モ尚ホ能ク許ス可キナリ

第五節 立證通則

第三百二十条 (立証裁判所ニ関スルノ条)

立証ハ受訴裁判所ニ於テ之ヲ為スモノトス立証ハ本法ニ定メタル場
合ニ非ラサレハ受訴裁判所ノ組合裁判官若クハ他ノ裁判所ニ之ヲ委
任ス可ラス

立証ノ種彙ニ付キ命令スル決議ニ対シテハ不服ヲ申立ルコトヲ許サ
ス

(第一解例) 抑本法第二百五十一条第二百五十二条ノ第一解並ニ

第二百五十五条ノ第一解及ヒ第五解ニ参照シテ以テ本章本節乃至

第十一條ノ解釈ヲ為スタメ茲ニ説述スヘキモノアリ即チ同夫レ本

法ハ証拠附屬ノ主義ニ拠レルモノニシテ即チ各原被告ハ其事實上

ノ主張及ヒ反対主張ニ付キ直々ニ他ノ要求ヲ俟タスレテ立証方法
 ヲ列挙シ加之対々人ノ立証方法ニ付テモ亦^{陳述}明ヲ為シ且其対証抗
 弁ヲ提出セザル可ラザルコトニ定メタリ而レタ右ノ取事項ヲルヤ
 即チ最初ノ審理ノ事項タルナリ又裁判官ハ必スシモ原告ノ争ケ
 タル証拠ヲ採用セザル一カラスト云フニハ非ラスレテ只可提出
 来ルニ方テ自ラ心証ヲ以テ断定シ得ルモノトス本法第百五十九
 条^{全条}若シ裁判官其提出シ来ルル^争証ヲ認許スルハ則チ之ヲ特
 別ナル^{審理}時期ト為サス乃チ立証手續ハ特更ニ^{審理}中一特別手
 続トシテ之^{審理}カ^{審理}別スルニ非ラス反テ争訟ヲ^{審理}ス
 ルニ付テノ手續ヲ補成スル一^{現象}ト為ス一^{現象}是故ニ立証決後
 本法第百二十四条^{全条}若シモノ、性^復ハ^実ニ^変轉スヘキ認許ノ
 判定ニ過キ^{コト}云フハ大ニ^可トスル所ナリ乃チ裁判官ハ敢テ争
 訟事務ニ付テ^{判決}スルニ非ラスレテ只原告ノ列挙シタル証拠ニ
 シテ何レカ裁判官ニレテ^{適切}ナリト看認スヘキカ及ヒ立証ニ^供用
 スルニ^適当ナルカヲ定ムルニ^止ルモノトス
 理由ノ^後明ニ於テ^高ホ^述ヘテ日本法ハ初審^之判ノ手續ノ^進行ニ密
 接シテ^現実ノ^争訟ニ^関スル^規則ヲ^明定シタリ本法第百五十二条
 ノ^至第百六十六条^全是ニ由テ^本節ニ於テハ^特別ナル立証方法ニ^関
 スル^指南^無トシテ^兼事^ヲ争訟上ノ^命令及ヒ立証ニ付テノ^程式上
 ノ^訴訟上^手続ヲ^規定シタリ而レテ^此規^定中^立証^決訟及ヒ其^完結
 ニ^関スルモノハ^即チ^字偏^生固ノ^旧法^制ニ^換代セル所ナリ云々
 又本法ハ敢テ^高限^スル^意ニ^出ルニ^非ラスレテ只四個ノ立証方法
 ノ^種類ヲ^規定シアルコトヲ^前ニ^明言セザル可ラス本法第百五十九
 条^第一^條解^答也

第一解本条ニ対スル理由ノ説明 蓋立証ハ通例受訴裁判所本法律第
 百九条第一解本条ニ於テ之ヲ為サ、ル可ラスト定ムル所ハ即チ親
 ク對審^大開クノ原則及ヒ証拠ヲ任意ニ取余スルノ原則ニ因由スル
 ノ成果ナリトス又適世原則ニ相抵触^スル^ト場合ハ最モ^急速^ニし^ル時
 即チ各立証方法ニ付テ特ニ^之加^シ記^シタル場合ニ限リ施行スルノ旨マ
 ノ^一本法律第三百三十七条第三百四十条第三百四十一
 条^ニ本条又受訴裁判所ハ猶ホ^宣換^式ニ於ケルカ如ク^原被告^ノ拒^ミコ
 ルニ非^テサ^レル限^リハ立^証ノ再^始ヲ為サレサ^レル^限ノ^職推^ヲ有^マリ
 一^一本法律第三百三十五条第三百六十三条^ニ本条^ニ而^シテ裁判所^ハ訴訟^法ニ於^テ
 世^第百五十八条^ノ以^テ若^シ受訴裁判所^ハ若^クハ世^裁判^所中^ノ細
 分^裁判^官ヲ^レシ^テ為^サレ^ノサ^ル中^ハ則^チ受訴裁判所^ハノ^依頼^ニ依^リ
 一^一帝国内各^地裁^判所^ハ立^証方法^ヲ完^結ス^ルキ^コト^ヲ規^定シ^タル
 十^一
 一^一第三解制定ノ沿革及ヒ^一解^一 各章條皆同一ナリ而シテ^一国^一学^一院^一委^一員
 ニ於^テハ^一異^一心^一ヲ^一認^一可^一シ^タリ
 抑本条第一項ノ規則ハ他ニ^一特^一定^一ノ^一例^一外^一規^一則^一アル^カ為^メ大^ニ缺^全シ^タ
 毀傷セラレ世^一實^一際^一ヲ^一親^レル^ハ規^一則^一自^ラ一^ノ例^一外^一規^一則^一タル^モノ^一如^ク
 夕^一然^一ル^ノ殊^ニ况^ヤ本^一条^一第^一二^一項^一第^一四^一百^一七^一十^一三^一条^一ニ^一依^リ原^一被^一申^一立^一ラ
 許^サル^ニ由^リ蓋^一原^一被^一告^一ノ^一為^メ上^一等^一ノ^一推^一限^一ノ^一監^一督^一ヲ^一受^ケ得^レシ^メ
 サ^ルニ^一由^リ於^テオ^ヤ是^レカ^ヲ為^メ對^一審^一理^一モ^一ハ^一立^一替^一親^一聽^一ノ^一大^一利^一益^一
 ヲ^一毀^一損^一シ^タリ^一本^一法^一第^一二^一百^一五^一十^一八^一条^一第^一二^一項^一ヲ^一以^テ僅^ニ右^ノ毀^一損^一ヲ^一補
 フ^ト當^ニ高^ニホ^モ未^ク充^分ナ^ル補^一充^一ヲ^一為^レ能^ハサ^ルナ^リ到底^一裁^一判^一所^一之^一
 ヲ^一為^レ得^ルキ^一限^一ヲ^一ハ^一特^一定^一例^一外^一規^一則^一ヲ^一實^一用^一セ^サラ^レコ^トヲ^一注^一意^一ト^ス
 サ^ル可^クサ^ルナ^リ

第百三十一条 立証ニ付キ差支アルニ由ルノ条

立証ヲ為スニ付キ差支ノ時限不定ナルハキモノアレハ申立ニ因リ期限ヲ指定ス可シ其期限ヲ空過シタル后ハ為メニ審判手續ヲ遅滞セシムルコトナキ時ニ限リ其立証方法ヲ使用スルコトヲ得

〔第一解理由ノ説明〕 本条及ヒ本法第百二十九条第二項ノ規定タルヤ乃々其処ニ現在セス甚ク遠隔ナル地ニ在リテ為スニ誰カ証人

又ハ現有セス若シハ所持人ニ出スル肯マス或ハ特別ナル運輸法ヲ要スル如キ本法第百九十六条第拾一ノ之ヲ提出スルニ難困

ナル証拠昏喪ニ因リモノナリ又期限ヲ確定スルコトハ各場合ノ景況ニ從ヒ裁判官ノ斟酌ニ任カスハ言フ俟タズルニ由ル

ノ要件ヲ具備セハ即之ヲ延長レ得ルモノトス〔本法第百九十二条以下

下朱急^{加之}又^之此期限タルヤ裁判官ノ告諭ヲ俟タズ法律上自ラ原告

被告ノ一方ヲ其訴訟ト共ニ存クルニ望ム可キ事^本本案全章ノ性使

ヲ有スルナリ本法第百九十二条第拾一ノ之ヲ提出スルハ

シカメニ審理ヲ遅滞セシメサルハ例一ハ受訴裁判所ノ^審審事法第

二百五十八条第拾一ノ之ヲ提出スルハ

如キヲ為レ得ハ即^其立証方法ヲ進テ使用スルヲ許ルハ^例例ハ毎

当ニシテ且本法ノ主旨ニ適^切切ト云フハ

〔第二解理由ノ沿革及ヒ解説〕 北部独乙聯邦章程第百六十九条第

一項ニハ受訴裁判所ハ原告ノ列挙スル立証方法ヲ採用スル中ハ

不相^當當ニ訴訟ノ遅滞ヲ惹キ起スハ^認認ケル場合ニハ即^キ在^キ在^キ其立証方法ヲ却下スルノ規定アリ此他ノ各章程ハ皆^テ本条ニ同シ而シテ国務院委員会ニ於テハ異議ナク採用セラレタリ

本条ハ本法第三而二十九条第二项第三而九十六条第一項ニ異ナリ
テ必ス原告ノ申立アルヲ要トス是故ニ右二条ノ如キ特定ノ場合
ニハ本条ヲ通用シ得ヘカラサルナリ

本法ニ於テ北部独乙聯邦章程第四而六十九条第一項ヲ採用セザル
所ニ依レハ即チ九ツ挙証ノ為ニ得ヘキモノナリ限リハ裁判所ハ之
カ為メ相当ノ期限ヲ定メテ之ヲ許スノ趣意ナルヲ見ルヘシ之ニ反
シ到底知レ得ヘカラサル立証方法ニ付テハ立証以後即チ仮定ノ判
決^決本法第三而二十条第一解^決条^條ヲ採^採用^用セ^ス且終局裁判^決
於^於之^之ヲ棄却スルナリ

第三而二十二条 (原告^本ノ立会ニ関スルノ条)
原告^本ハ立証ニ立会ヲコトフ得可シ

(理由ノ説明^新制定ノ沿革及ヒ解^特惑 理由ノ説明ニ曰抑本条ノ規則ハ
全ク自成^新ニ係ルモノニシテ而カモ証人ノ立証ニ原告ノ立会ヲ許
サレル字漏生法制及ヒ独乙普通法ニ抵触スルモノナリ然レモ受託
裁判官若クハ受託裁判官カ立証ヲ施行スルハ其代理人訴訟ニ於テ
ハ即チ本法第七十四条第二項ノ規則ニ從ヒ代理人^{訴訟}使用^制裁^規則
ニ適用セシメサルナリ之ニ付テハ北部独乙聯邦章程廿四而七
十八条第二項^本以^本テ立証ニハ原告^本自^本ラ立會ヲコトフ得トノ
明文ヲ掲ケテ以テ其趣意ヲ示レリ)而シテ代理人訴訟ニシテ受託
裁判所ニ於テ為ス立証ニ原告^本自^本ラ立會ヲ得ル権アルコトハ本
法第三而二十八条第四項ニ於テ已ニ明^明示^示ナリ

本条ノ以テ原告及ヒ其代理人ニ許シアル權利ハ各場合ニ於テ必
然タルモノニハ之アラス乃チ裁判所編制法第三而七十三条ニ於ケル

ト齊シク凡俗上ノ起固例ハ婦人ノ身体検査ニ於ケル如キ申ルヲ以テ立会ヲ禁スルコト之類ノ得ヘシ

而レテ本条ノ原被告立証ニ立会フコトハ単ニ訓諭法ノ性使ニ過キスト雖モ尚ホ之ニ付テハ効用ハ本法第百三十二条ニ至テ知ルヲ得ヘシ然リ而レテ本条ノ明文アルヲ以テ原被告ハ必ス立証ヲ行フノ場所及ヒ日時ニ付テ通知ヲ受ク可キナリハ本法第百二十九条第百四項兼意又原被告両造ニ立証期日ノ廢止ニ付テ相認識スルコトハ其任意ナルニ付テハ本法第百五十五條至ニ第百六条ノ第ニ解兼意

第百二十三條 立証決議ニ関スルノ条

立証ニ付キ別段ノ手續ヲ為スヲ要スル時其手續ハ立証決議ヲ以テ之ヲ命ズルモノトス

第百二十四條 (全上)

立証決議ニハ左ノ条件ヲ具備ス可シ

- 一 争訟ヲ為ス可キ論争ニ係ル事實ノ記載
- 二 立証方法若シ証人鑑定人ヲ^{審問ス}一キハ其氏名
- 三 事實上主張ノ証明若クハ并駁ノ為メ立証方法ヲ申立タル原告若クハ被告ノ氏名
- 四 要誓又ハ反求宣誓ヲ命シタル件ハ其宣誓文式

第百二十五條 (全上)

立証決議ノ完結^{スル}以前ニ在テハ原告若クハ被告ハ前ノ^理對審ヲ^理憑^理トシテ其決議ノ変更ヲ申立ルコトヲ得ス

第一解理由ノ説明(本法第三百二十条第一解^卷) 本文第三百二十
三条ノ規定ニ付^ハ既ニ本法第五百五十一条第二十五条第二
百五十六等ノ各理由説明下ニ於テ^テ叙述セリ

立憲決議ノ性質効用及ヒ程式ニ関シテハ本旨^ハ例ニ於ケル一般ノ
理由説明第七回第八回ニ^ニ論述スル所ニ讓ル^ル一キナリ

又必要ナル場合ニ於テ^テ奉詔ヲ命スル所ノ程度ニ付^テハ乃チ本法ニ
於テ^テ各場合ニ^ニ適用スル^ル規則

渡^ル地^ニ當^リテ必ス^シ後日^ニ相任累ス^ル一キ所^ニニ^テ北^ノ事^ト爲^スル^ル如^キ依^ルル^ル由^リト^シテ^テ制定^スル^ル由^リト^シテ^テ或^ハ争^点ノ全部^分若^クハ争^点
ニ^テ属^スル^ル事實ノ全体^ニ涉^リ立^憲ヲ^テ爲^サレ^ルニ^テ平^等ノ^テ豫^審上^ノ部^分
ニ^テ對^シテ^テ立^憲セ^ルメ^テ足^レル^ル事^ハ必^ズス^ル裁判官ノ^テ酌^定ス^ル
ル^ルニ^テ任^サル^ルハ^ハカ^ラスト^云フ^ル趣^意ニ^テ拠^ル所^ナリ

又本文第三百二十五条ノ規則ハ恰モ^ハズル^ルテムベルグ^ノ国^ノ訴訟^法第三
百十八^条ハ^ハシ^テフル^ル国^ノ單^獨條^第二百八十三^条字^漏生^国單^獨條^第四百十
九^条北^部獨^乙聯^邦單^獨條^第四百七十三^条ニ^テ符合^スル^ルモノ^ニシ^テ生^漏
生^国裁判^通法^第一^章第^十七^条ヲ^モ參^考ス^ルニ^テ而^シテ^テ其^律
義^ヲル^ルヤ^固ト^シ立^憲決議^ノ完^結ハ^ハ裁判官ノ^テ訴訟^整理^上ノ^指揮^ニ屬^ス
ル^ル職^權ニ^テ屬^スル^ルモノ^ニシ^テ決^シテ^テ原^被告^ノ變^更ヲ^テ爲^スル^ル申^立ノ
為^メ牽^掣妨^碍セ^ラル^ル一^キモ^ノニ^テ非^ラスト^云フ^ルニ^テ在^ルナ^リ乃チ^ハ原^被
告^孰レ^ノ一^方モ^モ立^憲決議^ノ前^ノ對^審ニ^テ依^ルル^ル以^テ概^シテ^テ奉^詔ヲ^テ
許^サル^ル可^ラスト^云フ^ル若^クハ^ハ或^ハ他^ノ奉^詔ヲ^テ許^可セ^ラル^ル可^ラスト^云
フ^ル主^張ヲ^テ爲^シ漫^ニ立^憲決議^ニ對^シテ^テ不服^ヲ申^立ル^ル得^サル^ルナ^リ若^ク
シ^果シ^テ其^如ク^テ制^裁ヲ^テ爲^スコ^トナ^クシ^テ而^シテ^テ原^被告^ハ偏^倚ニ^テ新^ル
ナル^ル時^機ニ^テ遭^遇ス^ルニ^テ乘^シ更^ニ新^{ナル}立^憲決議^ニ屬^スル^ル一^キ性^質ヲ^テ

有スル立証決裁ノ擴張ヲ由立得ルモノトセハ即チ原被告ニシテ時
向ト費用トク審ミテ^時ニ着手セントスル立証中ノ^時何分ヲ廢止セラ
レシコトヲ請フ件モ亦之ヲ聽許セサルハカラサルニ至ラレ蓋当初
浩大ナル範圍アル事証ヲ命シ其一部分ハ己ニ終局ノ判断ヲ遂ケタ
ル場合例ハ數多ノ訴求ノ^{理由}範圍中ノ一若クハ數個ノ相違錯セル抗
弁ニ付テハ一個ノ事ケ尚ホ其成分ヲ剩シアル場合ノ如キニハ右ノ
引例ノ如キ申立ナシトモ保シ難キヤナル一ニ
抑裁判所ハ立証決裁ヲ全ク執行セス若クハ充分ニ執行セサルコト
ヲ得ルノ職權ヲ有スルナリ是即チ其立証決裁ナルモノ、性質^ハ
^國海法整理上ニ係ル職權ヲ以テ隨時ニ変更シ得ヘキ^{命令指揮}タル
ニ因由シテ然ル所ナリ

第二解制定ノ沿革 北部独乙聯邦草案ニ関シテハ上ノ理由説明及
ヒ本旨九例ヲ卷第ス可シ他ノ各草案ハ本法ニ同シ而シテ^國議院委
員會ニ於テ議論ナキニハ惟テサリシモ動議ト云フカ如キニ至ラス
レテ止メタリ^下ノ第四解第五解卷第

第三解立証決裁ヲ要用セサルコト 本文第三百二十三條ノ規則ハ
即チ本旨九例及ヒ本法第二百五十一條並ニ第二百五十二條ノ第一
解ニ於テ事述セル所ノ理由ニ基キテ若シ裁判所カ原被告ノ口頭并
論ニ於テ其心証上ノ推認ヲ確定シ得タル^中本法第二百五十九條又
若シ一日ノ中ニ立証ヲ施行シ得且其席ニ提出セル証拠ニシテ裁判
所カ憑拠ト為スニ充分ナリト認メタル時ニ方テ、更ニ立証決裁ヲ
為シテ言渡スリ要トセス^中他^中本法第二百六十條第二百六十一條第
二百六十二條第二百六十四條第二百六十五條ノ各場合ハ亦例外ニ
屬スルモノナリ

〔第五解立証決議ノ変更〕上ノ第一解終局 本文第三而二十五条ノ規則アルカ为メ原被告ニ於テ同日、名字等ノ些細^細ニ本^本体ニ関セサル^誤更正スルコトヲモ禁止スルニアラス又本条ノ制裁ハ即原被告立証決議ノ言渡ヲ受タル後本法第二而五十一條第二而五十二條第二而五十六條、本法第二而九十七條終局ニ於ケル権利ヲ実用スル場合ニ及エサス乃其之ヲ実用スル^者ハ相手人ヲ新ニ特定シタル期日ニ呼出スコトヲ得ルナリ而レ^若裁判所ハ本法第二而五十一條第二而五十二條第二而三十二條第二而三十九條第二而六十七條第二而九十八條ノ各規則ニ準拠シ却下ノ決議ヲ言渡ス場合ヲ除クノ外ハ乃新タル立証決議ヲ为レ^レ之ヲ言渡ス可キナリ^宗

昏九例終局

第三而二十六条 受命裁判官ノ立証ヲ为ス条

受訴裁判所ノ組合裁判官立証ヲ为ス可キ時ハ立証決議ヲ言渡ハ際裁判長受命裁判官ヲ指名シ且立証ヲ行フノ期日ヲ定ム可シ

其期日ヲ定メサル時ハ受命裁判官之ヲ定メ受命裁判官其命ヲ施行スルニ差支アル時ハ裁判長ハ他ノ組合裁判官ヲ指名ス可シ

第一解理由ノ説明 抑本法第三而二十六條乃至第三而三十五條ノ

中第三而二十六條以下第三而三十四條マテノ^教規^則ハ即受命裁

判官若クハ受託裁判官又ハ外国ニ於テ行フ立証ニ付テ規定スル所

ニシテ而シテ^其以テ立証決議ノ完結ハ裁判所ノ公衆ノ職務ニ属スヘ

キ所ノ明了セシム^ルト^レ本法第三而四十二條第三而六十七條北部

獨乙殊和章梅第四而七十六條終局蓋此立証決議^{手續}ニ及レテハ即本

法ハ法朗西法制及ニ似テ是ノ條正シクハ字漏生清制ニ於テ仍然固
執スル所^{手裏}原被告ノ^手為ニ放任スルノ主義ニ背反ストハ益モ而カ
モ本法ノ如クセハ則チ立正手續ヲ迅速ナラシメ且原被告ノシテ亦
迂回錯雜ノ徒勞ヲ免カレシムルヲ得ルハ故ニ寧ロ本法ヲ良シトス
ル^手死ナリ

而シテ本法ニ於テ便宜簡易ナルヲ得タリト云フヘキハ即チ立正ノ為
他官廳ニ請求スル依^手託^手受許裁判可々長ク出スヘキ規則^手本法
亦三而二十七条第三而二十八条期限ヲ定ムルニ関スル規則^手第三而
三十一^手条第三而三十三^手条第三而三十五^手条第二項^手及ヒ第三而三十二
条ノ原被告缺席ノ場合ニ於テモ尚ホ立正ヲ為サシムルノ規則^手是ナ
リトス^手バイル^手レ^手国訴訟法第三而四十^手条ウ^手ン^手テム^手ベル^手グ^手国^手全^手上^手第^手四
而三十六^手条^手シ^手ノ^手フル^手国^手全^手上^手第^手二^手而^手四十^手条^手バ^手ゲ^手レ^手国^手第^手三^手而^手三十三
条^手オ^手ル^手デ^手ン^手ボ^手ル^手グ^手国^手同^手上^手第^手四^手十六^手条^手第^手一^手ハ^手ツ^手ト^手フル^手国^手全^手草^手梅^手第
二而九十九^手条^手字^手漏^手生^手国^手全^手上^手第^手二^手而^手七^手条^手ヘ^手ツ^手セ^手レ^手国^手全^手上^手第^手四^手而^手四十^手一
条^手澳^手私^手太^手利^手国^手全^手上^手第^手三^手而^手三^手条^手北^手部^手独^手乙^手聯^手邦^手草^手梅^手第^手四^手而^手八^手十四^手条^手卷
一

〔第二解制定ノ沿革及ヒ解釈〕 頁五及ヒ各則ニ付テハ各草梅特加
同シ而シテ第三而二十六^手条^手ハ^手至^手第三^手而^手三十一^手条^手ニ^手付^手テ^手ハ^手国^手設^手院^手専
頁^手五^手ニ^手於^手テ^手異^手存^手ナ^手リ^手認^手可^手シ^手リ^手

蓋第三而三十六^手条^手第^手一^手項^手第^手二^手項^手ニ^手於^手テ^手シ^手期限^手指^手定^手ハ^手裁^手判^手可^手職^手推^手ヲ
以^手テ^手之^手ヲ^手為^手シ^手而^手シ^手テ^手之^手ニ^手付^手キ^手原^手被^手告^手ニ^手通^手知^手ス^手ル^手ニ^手関^手シ^手テ^手ハ^手即^手チ^手本
法^手第^手九^手十^手五^手条^手第^手二^手而^手九^手十^手四^手条^手第^手二^手項^手ニ^手准^手拠^手ス^手ヘ^手キ^手ナ^手リ^手〔本法^手第^手而
九^手十^手一^手条^手ハ^手至^手第^手九^手十^手三^手条^手ノ^手第^手一^手解^手第^手四^手及ヒ^手第^手三^手解^手並^手ニ^手本^手文^手ノ^手場^手合^手
ニ^手類^手似^手ス^手ル^手本^手法^手第^手三^手而^手十^手四^手条^手ヲ^手參^手照^手ス^手可^手シ^手〕

其他立証ノ為メ命ヲ受ケタル裁判官ニ関シテハ本法第三十三條
第三十三條三十一條ニ定ムル所アリ又^{或ハ}一般ニハ本法第七十四條第五
十一條第六十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第
二而九十四條第五項第五而三十九條ヲ參照ス可シ

第三十二條二十七條 (受託裁判官ノ立証ヲ行フノ途)

他ノ裁判所ニ於テ立証ヲ為ス可キ時ハ裁判所長其囑託旨ヲ覽スルモ
ノトス

立証ニ関スル審問調音ハ受託裁判官受訴裁判所ノ書記ニ原本ノ傳之
ヲ送致シ裁判所書記ハ其受領シタルコトヲ原告ニ通知ス可シ

第三十二條二十八條 (外國ニ於テ立証ヲ為スノ途)

外國ニ於テ立証ヲ為ス可キ時ハ裁判所長ハ相當ノ官廳ニ立証ニ付キ
囑託ス可シ

獨乙國領事ニ於テ立証ヲ為シ得ル時ハ領事ニ囑託ス可シ

第三十二條二十九條 (公上)

裁判所外國ノ官廳ニ立証ヲ囑託スル中ハ奉託者其囑託旨ヲ處理シ且
立証ノ完結ニ付テ自ラ負擔ス可キコトヲ命シ得

裁判所ハ奉託者立証ニ付テ外國ノ法律ニ適合スル公使ノ証拠書ヲ
提出ス可キノ命令ニ限リ為スコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ立証決定ヲ以テ奉託者ニ於テ証拠書ヲ裁判
所信託命ニ納ムルキ期限ヲ定ム可シ若シ此期限ノ空過シタル時^後ハ審

理手續ヲ澄澈セシメサル時ニ限リ其証拠書ヲ使用スルコトヲ得

筆記者ハ成ルヘク立証ノ場所及ヒ日時ヲ確定ナリ対牛人ニ通知シテ
対牛人ヲシテ其権利ヲ相当ナシ方法ヲ以テ実行スルコトヲ得セシム
可シ若シ其通知ヲ為サザリシハ裁判所ハ筆記者ニ於テ其立証審問調
査ヲ使用スル権ノ有無及ヒ其程度ヲ定ム可シ

第一解理由ノ說明本法第三而二十六条第一解卷 特ニ理由ノ說
明ヲ要スルハ即チ外国ニ於テ為ス立証ノ規則ニ對シテナリノ本
文第三而二十八条ハ立証ハ外国ニ駐在スル獨乙領事ヲシテ之ヲ為
サレメ若シ之ヲ為シ得サル場合ニハ外国ノ相当官廳ニ囑託スルキ
コトヲ規定スルナリ(千八百六十七年十一月八日決定ノ獨乙國領事
官編制條例第二十条第二十二條及ヒバイルン國訴訟法第三而三十
五條卷一)而シテ此相当官廳トハ即チ外国ノ裁判所編制法ニ於テ此
如キ囑託ヲ自ラ決行シ得若クハ決行セシメ得ヘキモノヲ云フノ事

ナリ○若シ受許裁判所ハ外国ノ相当官廳ニ直接ニ囑託シ難キ所例
一ハ英國ニシテ果シテ(此)如キ官廳アルヤ否若クハ何レニ存在スル
ヤ否ニ付キ明瞭セス若クハ之ヲ知り難ハサルハ尚ホ其名ヲ記セサ
ルハカラサレ場合ニ方テハ即チ本文第三而二十九條ニ准換シテ筆
記者ニ立証ノ完結ヲ負担ス可キノ命ヲ為シテ放任スルヲ得ンナリ
一五ルテムベルン國訴訟法第四而二十六條バデン國同上第四而四十
一條ハンノッフル國全章條第二而九十条一ツセレ國全上第四而三十一
條澳私太利國全上第二而九十四條北郊獨乙聯邦章程條第四而八十七
條米魯又世夕遠隔セル未開ノ邦國ニ於テ立証ヲ為スコト往々之ア
ル場合ニ於テ世原被共ラシテ全ク立証方法ヲ失却スルノ不幸ヲ救
護スル為メ自ラ其知人朋友其他處ニ得ヘキ方法ニ依リ立証ヲ得ン
ト試ミシムルヲ許スハ因トヨリ其當ヲ得且(此)撰ムル所ナカルヘシ

而シテ此等三項二十九条ニ於ケル手續ハ若シ外国ノ法律ニ照セハ
其國ノ官廳ニ於テ例ハ荷蘭國ノ如クハ保証者向テ立証ニ付テ完
結セサルヘカラサル制定アル場合ニ付テモ亦之ヲ適用スヘキナリ
〔制定ノ沿革〕 是ニ付テハ本法等三項二十六条第二解ヲ参看ス可シ
〔第二解受託裁判官及ヒ外国〕 本法ニ於テ外國ト稱スルハ裁判所編
制法等五十七條乃至第五十九條、本法等三項二十條第二解ヲ参看
ニ拠リ偏ニ独ニ国外ノ各種ノ指スル事ナシヤ明カナリ而シテ独ニ
国内ノ各種ニ對シテハ必ス^{直接}_{裁判所}ニ直接ニ囑托シテ敢テ上等
ノ官廳ヲ經由スルコトナキナリ
〔本文等三項二十九条等三項ニ於ケル期限〕 付テハ本法等三項二十
一條第一解ヲ参看ス可シ^乃裁判所職權ヲ以テ期限ヲ定ムルナリ
〔本法等三項二十一條第二解ヲ参看〕 而シテ此等三項二十九條ノ手
続ハ已ニ外國ノ官廳ニ向テ囑託^{直接}ヲ爲シタルモ然カモ其囑託ヲ拒絶
シ又ハ贖フヘカラサルマテニ遷引スル時ハ後日ニ至ラセ高ホ之ヲ
実行スルコトヲ得ヘキナリ
蓋直接ニ囑託^{直接}本文等三項二十八條スルノ場合ニ於テハ裁判所ハ申
立ニ因リ本法等三項二十一條ノ精神ヲ以テ期限ヲ定ム可キモノニ
シテ而シテ本文等三項二十八條ノ手續ニ依ルト若クハ等三項二十
九條ノ手續ニ依ルトハ因トヨリ裁判所ノ選任ニ任カスナリ
其^他受託裁判官ニ關スル規則ニ付テハ須ク本法等三項三十條等三
項三十一條等三項三十四條ノ參看スヘシ

等三項三十條、受託裁判官及ヒ受命裁判官ニ通用スヘキ條

受命裁判官又ハ受託裁判官ハ他ノ裁判所ニ於テ立証ヲ為サレムルコ

トシ相当ナリトスルノ理由、後日ニ發生シタルハ其裁判所ニ立証
ヲ囑託スルノ推アル可シ此処分ニ付テハ之ヲ原告ニ通知ス可シ

第三百三十一条 (全上)

受命裁判官又ハ受託裁判官ニ於テ為ス立証ノ際訴訟ヲ生シ其訴訟ノ
完結スルニ非ラサレハ立証ヲ繼續スルコトヲ得ヘカラスレテ其裁判
官之ヲ裁決スルノ權ナキハ受託裁判所其完結ヲ為スモノトス
前項ノ附帶訴訟ニ付テハ口頭對審ノ如クハ聽權ヲ以テ之ヲ定メ原告
告ニ通知ス可シ

(理由ノ説明及ヒ制定ノ沿革(本法第三百二十六条第一解第二解各
条)漏生国訴訟法(第三百五条)於テハ本法(第三百三十条)末
段ヲ掲載セス且其第三百六条ニ於テハ受命裁判官ヲレテ如ク定

メシタルナリ)北部独乙聯邦(第四百八十九条)於テモ亦此如ク
指定ハ原告漏生国(同) 原告ニ通知スルコ

第三解(原告)ニ通知ス(本法(第三百三十条)第一解(原告)ト

ハ本法第三百二十二条及ヒ第三百三十二条ニ准拠シ立証ノ為ニ
ル期日ヲモ通知ス可ク且裁判所ノ職權ヲ以テ之ヲ為スヲ要スルナ
リ(本法第三百二十九条(第四項)各)

本文(第三百三十条)ノ規則ハ單ニ内国ノ裁判官ニシテ後日ニ生シ
ル理由ニ因リ例ハ審問ス可キ証人其住所ヲ移轉シタルハ其
場合ニ方テ他ノ裁判所ニ囑託シ得ヘキ者ニ限テ定メタル所タルヤ
其ヲ俟タス又一ノ組合裁判官ニシテ受命裁判官ノ命ヲ受クル如キ
コトハ固トアリ之ヲ為スヘカラスナリ(本法第三百二十六条(各)

受命裁判官若クハ受託裁判官ノ命令(本法第三百三十条)ニ對シテハ

乃原告ハ本法第九十三條ノ規定ニ準拠シテ自己ノ権利ヲ
暢達セシムルコトヲ得ヘキナリ

第三解受命裁判官又ハ受託裁判官ノ前ニ生ズル訴訟(本文第九十三
十一條) 但如キ訴訟ニ付キ其裁判官ハ例ヘハ本法第九十七條第三
百六十五條第九十七條ニ拠リ之ヲ完結シ得而シテ亦文第九十三
十一條ハ例ヘハ本法第九十二條以下第四百四十一條第二項或
ハ第四百三十一條ノ場合ニモ適用ス可キナリ○裁判所編制法第九
百五十九條第九百六十條ハ單ニ受命裁判官ト受託裁判官トノ差別ニ付
テ規定スル所ナリ

而シテ本法第九十二條第二項ニ拠リ定ム可キ期日ハ受託裁判
所ニ職權ノ以テ之ヲ定メ且口頭ヲ以テ若クハ吐出状ノ送達ヲ為シ
テ原告ニ通知ス可キナリ(本法第九十五條第九百九十四條第三
項及ヒ第九百九十一條乃至第九百九十三條ノ第一解第四項ニ第三解系
列)

第九百三十二條 (原告欠席スルノ條)

原告ノ一方若クハ 兩造共ニ立証ノ期日ニ出廷セザル時ト雖モ立証
ハ事件ノ現状ニ依リ為スコトヲ得ル部分ニ限リ之ヲ為スモノトス
後日ノ立証又ハ立証ノ補充ハ裁判手續ヲ遲延セザル時又ハ一方其過
失ナクシテ前ノ期日ニ出廷シ能ハサル時トテ明示スル時及ヒ補充
申立ノ場合ニ於テハ一方ノ出廷セザルカ為メ立証ノ重大ナル不完全
ヲ生ゼシコトヲ明示スれば判決ノ憑拠トナシキ口頭對審(理)ノ終結ニ
至ルマデハ申立ニ依リ之ヲ命ス可シ

第三百三十三條 (新第四二四二ノ全)

立証若クハ其継続ノ為メ新ナル期日ヲ必要ナリトスル時ハ其期日ハ
新証者若クハ原被告両造前ノ期日ニ出廷セザリシ時ト雖モ職權ヲ以

テ之ヲ定ム可シ

(第一解理由ノ説明本法第三百二十六條第一解參見) 本文第三百三

十二條ノ場合ニ於テ原被告欠席スルヲ為メ立証ノ妨ケ即チ例ハ立

証ハ其筆記者^(原被告)如何ニ為らんハ則チ其原被告ハ許法上行為

ノ通則ニ依リ欠席ノ結果ヲ受クヘキナリ(本法第二百八條第二項九

條バイルン國第三百四十條參見) 然リ而シテ其第二項ニ明示スルカ

ルリ條件アルニ方テハ欠席ノ怠慢ヲ回復スルコトヲ得ヘント雖モ

遲ク其事ノ^性後^{指し示}申^し終局裁判^中附帶裁判^決一部裁判及ヒ終局裁判ノ

擬テ以テ成ル所ノ口頭對審^理終リマテニ限り之ヲ^許為ス^可ノミ

又制定ノ沿革ニ付テハ猶ホ本法第三百二十六條第二解ニ述フんカ

如ク同一ナリ(次ノ第二解參見)

(第二解原被告ノ^{原被告}缺席) 抑原被告ノ人者ハ独リ立証ニ^{原被告}臨場スルノ權

アリキ友テ^{原被告}臨席セザルニカ^{原被告}ラザルノ義務アルニ非ラサルカ故ニ本

法第三百二十二條未^{原被告}及^{原被告}後令^{原被告}自^{原被告}立証^{原被告}得^{原被告}ヘキ立証

ニ至テハ^{原被告}原被告^{原被告}敢テ妨ケ^{原被告}得^{原被告}ズ^{原被告}然レ^{原被告}氏又^{原被告}本文第三百三十

二條第一項ハ^{原被告}裁判官^{原被告}ハ亦^{原被告}立証^{原被告}行^{原被告}ハ^{原被告}素^{原被告}行^{原被告}ハ^{原被告}出廷セスト

モ仍ホ立証ヲ行フヘキノ責アルナリ此規定タルヤ^{原被告}本文第三百三十

二條第一項ノ^{原被告}明文ニ依リ^{原被告}旁^{原被告}ニ^{原被告}受命裁判官^{原被告}若クハ^{原被告}受託裁判官ニ於テ

立証ヲ行フ場合ノ^{原被告}ニ^{原被告}限ラス又^{原被告}受託裁判官^{原被告}若クハ^{原被告}立証^{原被告}得^{原被告}ヘキ

モ適用セシムヘキナリ(本法第三百三十五條第一項參見)乃チ^{原被告}受託裁

判所ハ欠席者アルニモ拘ハラズ^{原被告}審問スルノ責ヲ果行シ而ル

后初テ欠席ハ~~無~~ニ付テ処分ヲ為スナリ蓋世趣如ノ説明ニ付テハ
 内閣代理員モ之ヲ賛成シタリ而シテ原被告両造受訴裁判所ノ
 期日ニ欠席シタルハ~~ハ~~期日ヲ指定スルノ妨ケスホ本文第三十三
 十三条然レ氏若レ之ノ必要トカサル限リハ本法第二十二條
 第二項ニ準拠シ本件ヲ休止セシメサル可クサレナリ(本法第二十二
 十八條第一條~~無~~又原被告ノ一方欠席シタルハ出廷シヨル一方
 ハ立証ヲ終リタム后本件ニ付テハ缺席裁判言渡ヲ申立テ得ルナリ
 (本法第二十九條然レ氏其欠席者缺席裁判前~~後~~出
 廷シヨルハ則~~モ~~尚ホ其初ニ怠慢シヨル所ヲ進復スルヲ得ナキナ
 リ)本法第二十九條第二項然レ若シ欠席裁判言渡シテアリタ
 ル時ハ其為シタル立証ハ只故障ノ申立ヲ為シタル場合ニ於テ~~ハ~~
 アルノミナリ(本法第三十七條然レ乃~~ハ~~是故ニ上未ニ開示スル所ハ
 自ラ其限界アルニキナリ)例ハ立証方法~~ハ~~依テ本法第四十二條
 然レ省命シタル宣誓ノ奉行ニ付キ其宣誓事務者出廷シタルモ相手
 人出廷~~セ~~時ハ則~~モ~~宣誓事務者~~ハ~~後ニ宣誓ヲ為スヨリモ寧ロ本
 件ノ欠席裁判言渡アラシコトヲホメ得ルナリ
 受命裁判官若シト受託裁判官ノ前ニ出廷スルハ期日ニ関シテハ即
 ち原被告両造ノ出廷ヲサレヨリ以テ輒ケ其期日ヲ廢止セシメサルナ
 リ(本文第三十二條第一項)之ニ反シ原被告ハ互ニ相認識シタル
 コトヲ裁判官又ハ受託裁判所ニ届出テ以テ期日ヲ廢スルヲ得ハレ
 (本法第二十五條並ニ第二十六條第一條然レ而シテ此~~ハ~~相認識ノ除
 キバ受命裁判官又ハ受託裁判官ハ本文第三十三條ニ準拠シ原
 被告ノ欠席スルニモ拘ハラズ仍ホ必要ナル期日ヲ更ニ指定セサル可
 ヲサレナリ)

受託裁判所ノ期日ヲ欠席スルハ原告トシテ本法律第三

三十五條第一項各条又受命裁判官名クハ受託裁判官ノ期日ニ欠席

スルハ即チ必ス期日ノ通知ヲ原告トシテ為シテ之ヲサシムル可

ラス本法律第三百三十條並ニ第三百三十一條ノ第一條各条

第一條並ニ立証ノ補充云々 抑本法律第三百三十二條第一項ハ其行文ノ

明瞭ナラザル所及ヒ上ノ理由說明ノ趣旨トニ依レハ即チ只原告

立証期日ニ出廷セス且是カ为メ立証ハ全ク之ヲ為スニ至ラス上ノ

第一條各条若クハ充分ニ之ヲ為サル場合ニ付テノ規定セラレ

タルモノ、如シ之ニ反シ立証期日ニ欠席シタル原告若クハ被告ハ

復々新ナル立証方法即チ立証決議ノ言渡前未ダ提出セザリシ所ノ

モノヲ更ニ申立ルノ推アムナシ本法律第二百五十六條第二項九十七

條第二項九十九條第五項及ヒ本法律九例各条及ヒ本法律第三百三十九條第

三百九十八條ノ各条ヲモテ終考スヘシ然レ而シテ本法律第三百三十二條第

二項ニ依レハ亦欠席怠慢者ノ被ル損失ハ第一審即チ終審裁判ニ於

テ追及スルコトヲ得ルナシ本法律第四百九十五條第四項九十三條各

条

又裁判所ハ其職責若クハ命スル所ニ完全セサル後命アリタル時ハ

則チ本法律第三百三十一條ニ依リテ職權ヲ以テ其不完全ノ

補充セシムルキナリ

明示ニ付テハ本法律第二百六十六條又自己ノ損失ニ非ラスト云フニ

付テハ本法律第二百十條第二項並ニ其第四項ヲ各条ノ可シ

第一條並ニ新期日ハ其職權ヲ以

テ指定スルノミナラス又原告ノ一方ヨリ呼出テ為スル候トスレ

テ原告先征人等ノ呼出スコトアムルナシ本法律第九十九條第一

項

三九

百九十四条第三項及ヒ第九十一条乃至第九十三条第一解第四
第三解參看

第三百三十四条 (一) 外国ノ立証ニ関スルノ条

外国官廳ニ於テ為シタル立証受許裁判所ノ現行法ニ適スル時ハ外国
法律ニ照シ不完全ナル所アルモ抗辯ヲ申立ルコトヲ得サス

(理由ノ説明制定ノ沿革及ヒ解款) 己ニ理由説明ニ指示シアルカ如

ク本条ハ一般ノ法理原則ニ適シ且為替條例第八十五条第二項ニ符
合ス而レテ制定ニ付テハ本法第三百二十六条第二解ニ依テ所ト

相齊シキナリ

外国ニ於テ為シタル立証ノ程式本法第三百二十七条乃至第三百二
十九条第二解參看ニシテ方ニ其外國ノ法律ニ適合スルハ則チ場

所ハ許件ヲ支配スルノ原則ニ從フ一キナリ(為替條例第八十五条第

一項及ヒ第八十六条參看) 外国法ニモ適マス又内地ニ行_現スル_{法律}

法ニモ適マサル所ノ外国ノ立証ハ其裁判所ノ取捨_任ニ任カスナリ

(本法第二百五十九条參看) 若シ直接ニ囑託シテ取_任ル_ハ如キ場合ナリ

ハ(本法第三百二十八条) 裁判所_之ノ補充セシメ(本法第三百三十二

条) 第三百三十三_三条ノ第三解若クハ本法第三百二十九条第一項第二

項ノ職權ヲ實用ス可キ所トス

第三百三十五条 (一) 證書_理期日ニ関スルノ条

受許裁判所ニ於テ立証ヲ為ス時之ヲ為スノ期日ハ同時ニ口頭_理審査_ノ
継続スルノ期日ニ_モ捕定_ルモ_トス

受命裁判官若クハ受許裁判官ニ於テ立証ヲ為ス可キコトヲ命スル立

証決議ヲ檢テ同時ニ受訴裁判所ニ於テ為ス口頭對審ヲ繼續ス一キ如
日ノ定ムルコトヲ得若シ之ヲ定メサル時ハ立志ノ終リシ後職推シ
以テ其如ク定メ之ソ原告ニ通知ス可シ

理由ノ說明(本法第百五十七條並ニ第百五十八條ノ第一條及ヒ
第百二十六條第一條解案並ニ制定ノ沿革及ヒ解題 宇漏生國章
按第百十條ニハ本條ノ第一項ヲ掲ケス又北部獨乙聯邦草案第
百九十九條第一項ハ亦本條ニ異ナル所アリテ即^{本條ノ終}裁^所リタル后
本件ノ口頭對審^理他ノ如クニ延ハスコトヲ得ルノ權ヲ裁判所ニ與
ヘアリト明示セリ(本法第百六條ニ拠レハ因トヨリ言テ候メサル
所^ト而シテ本條ニ付テハ國務院專員會ニ於テ異議ナカリシ
蓋本條第一項ニ於テ規定スル所ニ從ハハ乃^ト受訴裁判所ニ於テ為
ル^各立志・如クハ(呼出決議ニ特更ニ明記スルヲ要スルコトナク(本法

第百九十九條乃至第百九十七條第九條解案)原告ノ為メニハ
必^ニ對審^理期日タルヘキモノニシテ而カモ本法第百九十七條ニ據
拠レ欠席シタル原告若クハ被告ニ對シ欠席裁判ノ言渡ヲ申立テ得
ル^ト然レカレ得ヘキノ立志ノ為レタル后初テ申立テ得ル例トナ
スハ亦言テ候タス(本法第百三十二條^條並ニ第百三十三條第一條解案)
而シテ受訴裁判所ニ於テ立証期日ノ性復タルヤ其レ^是如クナ
ル^ト以テ此期日ニ於テハ猶^モ本^條第百三十五條第二項ニ於テモ
然ル一キカ如ク原告ハ敢テ新^ト方法ヲ提出シ得ル^ト(本法第
二百九條第四條解案)又此第百三十五條第二項ニ於ケル期日ハ即
★本法第百五十八條ニ於ケル如ク(本法第百五十七條
及ヒ第百五十八條ノ第一條第一條解案)然^ル而シテ之ニ對スル制
裁ハ本法第百三十二條第二項第百三十九條及ヒ第百九十八

条ニ掲載ス

本文第三十三及三十五条第二項ニキル期日ニ付キ其立証決裁ノ通知
又ハ送達ニ関シテハ即チ本法第九十五及九十四条第三項
ノ通則ヲ通用スヘキナリ而シテ受命裁判官若クハ受託裁判官ニ於
テカス立証ヲ終リタル后指定スヘキ期日ハ受託裁判官職權ヲ以テ之
ヲ定メ且原告ニ通知スヘク即チ呼出ハ原告ニ於テ之ヲ為スニ
服スル裁判所之ヲ行フナリ(本法第九十一及九十三条)
第一解第四及七解三解各条

0

明治十九年四月八日 小松清也



寫込新訟法釋義第十八稿

計五拾枚

司法部記録文庫
第五百十九號
六冊ノ内

手付以て... 出所

極水

調査済

合九拾冊

受書二二〇〇號

印

第二百八十九条 （終局裁判） 及 （中同） 附帯裁判 （決） 拘束力ニ関スルノ条
裁判所ハ其言渡タル本案終局裁判及 （中同） 附帯裁判 （決） 載セアル裁判ハ之
ヲ遵守セサル可ラス

「第一解理由ノ説明」 本条ノ裁判所ハ其言渡タル本案終局裁判及
附帯裁判 （中同） 載セアル裁判 （決） 拘束セラル可シト規定スル所ハ即
新定ノ各訴訟法及 （中同） 全章條ト相符合スルナリ例ハ （中同） ノ （決） ノ （決） ノ
国許法第三百五十九条及 （中同） 全章條ト相符合スルナリ例ハ （中同） ノ （決） ノ （決） ノ
下等漏生国会章程第三百六十三條 （中同） ノ （決） ノ （決） ノ 国会全上第三百七十三
條一ツセン国会全上第四百二條 （中同） 澳利国全上第三百七十二條 （中同） ノ （決） ノ （決） ノ
ン国会全上第三百二十九條 （中同） 北部独乙聯邦全上第三百五十八條 （中同） 及
ス （中同） 而シテ之 （中同） 及 （中同） 訴訟指揮上ノ性價ヲ有スル決議及 （中同） 命令ハ

本法ニ於テハ裁判所ヲ拘束スルノ能力ナキモノ （中同） 新定ノ法制
即 （中同） バイエルン国許法第三百九十六條 （中同） 及 （中同） テムベルグ国第三百八
十四條 （中同） 第三百八十六條 （中同） ノ （決） ノ （決） ノ 国会章程第三百七十三條 （中同） 漏生
国会全上第三百六十四條 （中同） 北部独乙聯邦全上第三百五十八條 （中同） 相違ニ
固トヨリ言テ後ヲサルモノトシテ之ヲ明定セス又立証決議 （中同） 及 （中同） 之
テハ本法第三百二十九條 （中同） 准拠ス （中同） 一キナリ独リ本法第三百九十九條
及 （中同） 第三百九十一條 （中同） 即 （中同） 本条ノ例外ト知ル （中同） 一

「第二解制定ノ沿革及 （中同） 解題」 北部独乙聯邦章程ニ付テハ上ノ第一
解ヲ看ル （中同） 一 （中同） 此他ノ各章程ハ本条ニ同シ而シテ国議院委員会ニ於
テハ別ニ異説ナク採用セラレタリ
特 （中同） 一 （中同） 奇異トス （中同） 一 （中同） キハ （中同） 本条ニ付キ即 （中同） 附帯裁判 （決） 本法第三百七十五
條 （中同） 及 （中同） 之 （中同） 所 （中同） 是 （中同） ナリ抑 （中同） 附帯裁判 （決） ルモノハ之ニ付シテ不服

第二百八十九条 （終局裁判及ニ附帯裁判） 拘束力ニ及スルノ条
裁判所ハ其言渡タル本案終局裁判及ニ附帯裁判ニ載セアル裁判ハ之
ヲ遵守セサル可ラス

才五九号

六冊之半

獨逸訴訟法律

才五卷

才十八稿

寫本才十一口

匡許法第三百五十九条 （ケルテムベルグ国会） 第三條ハ十四條以

下字漏生国会章程第三百六十三條ハソノフル国会
上第ニ百七十二條サツクセ
条一ツセン国会
上第四而二條
澳私太利国会
上第ニ百七十二條サツクセ
ン国会
上第ニ百二十九條
北部獨乙聯邦
会上第三百五十八條ヲ共省
ス一之而レテ之ニ反レ
訴訟指揮上ノ性
值ヲ有スル決裁及ニ命令ハ

本法ニ於テハ裁判所ヲ拘束スルノ能力ナキモノタル也
新定ノ法制
即チバイルン国許法第三百九十六条
ケルテムベルグ国第三百八
十四条
第三百八十六条
ハソノフル国会
章程第三百七十三條
字漏生
国会
上第三百六十四條
北部獨乙聯邦
会上第三百五十八條ニ相違ニ
固トヨリ言ヲ俟タサルモノトレテ之ヲ明定セス
又立証決裁ニ及ニ
テハ本法
第三百二十五條ニ准拠ス
一キナリ
獨リ本法
第三百九十条
及ニ第
二而九十一條
ハ即チ本條ノ例外ト知ル一
第ニ解制定ノ沿革及ニ解裁
北部獨乙聯邦
章程ニ付テハ
上ノ第一
解ヲ看ル
一レ此他ノ各章程
ハ本條ニ同レ而レテ
国議院
委員会ニ於
テハ別ニ異議ナク採用セラレタリ
特ノ奇異ト爲ス
一キハ本條ニ付キ
即チ附帯裁判
本法
第二而七十五
条ニ及スル所是ナリ
抑附帯裁判ルモ
ハ之ニ対シ
上訴シテ不服

ヲ昭フルヲ許サ、ルヲ例ト為シアルニモ拘ハラヌ(本法第百七十
二条乃至第百七十五条第五解卷名)必ス本条ニ依レハ裁判官ヲ拘
束スルナリ即チ裁判官ニ於テ敢テ之ヲ変更シ能ハサルナリ且本条
ニ本案終局裁判ト明示シタルハ即チ本法第百七十二条第二項第
二百七十三条第百七十四条ニ依テ一ノ裁判所ニ於テ同一ノ事件
ニ付テ敢テ終局裁判ヲ為スルコト之アリ得ヘキニ由ルナリ
而シテ本条ニ載セサルノ語ヲ用フレハ其意ハ明晰ナラサルヘシ蓋
裁判ハ之ヲ言渡サ、ル間ハ未ク外部ニ向テ其効カヲ生セサルモノ
ナレハナリ(本法第百八十条第一解卷名)
裁判官カ変更シ能ハサルモノハ只裁判ニ限ルノミニシテ而カモ裁
決ノ理由ハ之ヲ変更シ得ルノ事ナリ(本法第百九十三条)已ニ北部
独乙聯邦草案第百五十八条ニ於テハ之ヲ明示ス

裁判所ノ決議ヲ変更シ得ルニ付テ(即チ)本法第百四十条第三項ノ場
合ヲ例外トス

大審院ニ於テハ其豫審ノ裁判ヲシテ尚ホ拘束ノカアラシムルニ付
テハ裁判官編制法第百三十七条ヲ参看スヘシ(其)他ノ裁判所ニ付テ
ハ(其)如キ法律ヲ規定シテアラサルナリ

第百九十条(裁判)進正ニ関スルノ条

裁判官中ニ存スル旨換訂算違及ヒ之ニ等キ判断ナル不正ハ裁判所ハ
何時ヲリトモ其職權ヲ以テモ亦之ヲ更正ス可シ

其更正ニ付テハ豫メ口頭對審ヲ為スコトナクシテ判定スルヲ得(其)更正
ヲ言渡ス決議ハ之ヲ判決書及ヒ正本ニ記載ス可シ

更正ヲホルノ申立ヲ却下スル決議ハ上訴ヲ為スヲ許サス(其)更正

不正言渡に對しん決裁ニ對シテハ即時、抗告ヲ為ス可キ

第二百九十一条 事件ノ更正ニ関スルノ条

裁判ノ事件ニシテ前条ノ規則ニ属セサル不正即チ脱漏不明若クハ物解アル片ハ一週日ノ期限内ニ吾面ノ送達ヲ為シテ其更正ヲ申立んコトヲ得

前項ノ期限ハ裁判ヲ載セタルノ覽表ノ揭示ノ日ヲ以テ之ヲ起算ス
吾面ニハ更正ヲ為ルノ申立及ヒ口頭對審^理ノ為メ對千人ノ喚出スヘキコトヲ載セアラザル可ラス

裁判所ハ豫メ立証ヲ為スコトナクシテノ判定ハ其判定ニハ裁判ニ干預シタル裁判官ニ限テ其共スルハ裁判官互支アル場合ニ於テ可否ノ發言同數ナシハ裁判長之ヲ決シ裁判長同數ナシハ故參ノ裁判官之

ヲ決スル決裁ニ對シテハ不服ヲ唱^申ケルヲ許サス更正ヲ言渡ス決裁ハ之ヲ裁判官及ヒ不正ニ記載ス可シ

事件ノ更正ハ裁判ノ其他ノ部分ニ變更ヲ生セサルモノトス

第二百九十二条 裁判ノ補充ニ関スルノ条

最初ニ決定シ若クハ後日ニ更正シタル事件ニ依リ原被告一方ノ申立タル本堂請求若クハ附帶請求ノ全部若クハ一部裁判ノ際脱漏シタル時又ハ費用ニ関スル点ノ全部若クハ一部裁判ノ際脱漏シタル時ハ申立ニ因リ後日ノ裁判ヲ以テ裁判ヲ進補ス可シ
後日進補ノ裁判ハ裁判官ニ送達ヨリ起算シ一週日ノ期限内ニ吾面ノ送達ヲ為シテ之ヲ申立可シ

其吾面ニハ進補ヲ為ルノ申立及ヒ口頭對審^理ノ為メニ喚出スコトヲ記

載レアラサシ可ラス

口頭対審^選ハ其事件ハ未タ完結シアラサル部分ニ限リ之ヲ再審判ノ物
件ト為ス可キモノトス

「第一解一般ノ理由説明及ヒ制定ノ沿革 蓋本文三条ハ共ニ受訴裁
判所ニ於テ敢テ変更ス可ラサシ規則本法第二百八十九条ノ例外ニ
属スルモノトシ是ニ於テ年即々之ヲ^合爲シテ解説スルヲ良トス而
シテ^理理由説明ニハ曰

新定ノ法制ニ於テハ本文三条ヲ以テ規定スル所ノ外尙ホ裁判^決
ニ載セアル裁判^決部分中ニ不明者^ハハ^ハ抵触^ス進正ノ為メニ^是條
手續ヲ^カ執行^スルノ規則ヲ^ハ明定スルモノアリ^テバイルン^ニ国訴訟法第
二百八十三条ハ^ハノ^ハノ^ハル^ル国会^上第^三百^六十二^条以下^左ル^ルテ^ハハ
ル^ル国会^上第^三百^七十五^条アル^ルゾ^ハハ^ハル^ル国会^上第^三百^七十七^条

ハ^ハノ^ハノ^ハル^ル国会^上第^二百^六十四^条第一^項ヘ^ツセ^レ国会^上第^三百
六十三^条澳^私太^利国会^上第^二百^六十七^条等^各條^然レ^ハ民法^ハ地
部^獨乙^ニ聯邦^單據^ニ依^ヒ此^如キ^訴訟^手続^ハ之^ヲ不^用ナ^リト^シテ^ハ株
用^セス^現ヤ^ハハ^ハノ^ハノ^ハル^ル国^作訟^法第^二百^六十八^条ノ^全国^訴訟
法^第三^百六^十四^条ヲ^維持^シテ^ハ規定^スル^カ如^ク裁判^決進^正ハ^は民法^第
二^百九^十三^条若^シハ^進正^ハ本文^第二^百九^十二^条ヲ^費用^ヲ徴^セス^レテ
之^ヲ許^容ス^ルノ^理由^確著^タラ^サル^ニ於^テカ^ヤ云^々

本文^第二^百九^十三^条ニ^関シ^テハ^他ノ^單據^ニ同^シク^シテ^ハ而^シテ^ハ国^裁定^院
復^会ニ^於テ^該條^ニ付^キ單^ニ控^訴及^ヒ上^告ヲ^為サ^ル場^合ニ^限リ^テ抗
告^ヲ許^スハ^シ又^裁判^決ノ^不明^{ナル}件^ニモ^進正^ヲ許^ス意^トコ^トヲ^明示^セ
レ^トノ^動裁^{アリ}シ^モ遂^ニ採^用セ^ラル^ニ至^ラサ^リシ^蓋此^條第^二ノ^動
裁^ニ付^キテ^ハ之^ヲ無^効ト^シテ^ハ擴^充セ^シム^ルヲ^不利^ナリ^トシ^テ頁^第一^ノ動^裁

ニ付テハ、乃チ若シ之ヲ採用スル中ハ本法ノ趣意トナシ、即チ本法
第四而七十三条第五而十条ノ規定ニ抵触スルヲ以テ排斥シタルナ
リ特リ本文第二而九十条末段ヲ現今ノ行文ニ修正シ以テ職推ヲ以
テ修正シタル場合ニ於テモ亦抗告ノ上訴ヲ為スノ趣意ト為サ
レトノ動議ハ採用セラレタルナリ

而レテ北部独乙聯邦章程ニハ我々第二而九十一條ノ規則ヲ設アラ
ス是レ該章程ノ趣意ニ全ク本法ニ異ナシニ職由スル中ノ「本府九例
卷」字餘ノ各章程ハ大約一齊ナリ然リ而レテ該章程第四項ニ「此判官
ニハ云々故我々ノ裁判官之ヲ決ス」ニ段ヲ挿入シタルハ国法院委員
ノ決議ニ依ル之ニ反シ更正期限ヲ裁判官送達ノ時ヨリ起算セシメ
ントノ動議ハ委員ニ於テ排斥スル所トナリ

又商事裁判官ハ其在裁期限経過ノ后ト虽モ更正ノ手續ハ、
ルモノトノ動議アリテ賛成ヲ得採用セラレシモ之ヲ商事裁判部ニ
推譲セラレタルハ然レバ商事裁判部ニ関スル後事ニ於テ遂ニ採用セ
ラレサルハ、裁判所編制法第九而十八條末段

本文第二而九十二條ニ付テハ各章程等ナ相同シ特リ北部独乙聯邦
單據第二而四十九條ニ於テハ本条ノ一週間ノ期限ヲ以テ不変推譲
期限ト定メアリ而レテ国法院委員会ニ於テハ本条ニ付テ異議ナカ
リ

一第ニ解裁判進正(第二而九十条) 理由説明ニ依レハ即チ同

此第二而九十条ハ「裁判所」中ニ在ル「管領」計算及ヒ或ハ判然ナシ
誤謬ヲ簡易敏捷ニ正誤シ得センメントスルノ目的ナリ、(字漏生国

裁判通法第一而第十四條第一條バイルレ国訴訟法第二而八十二
条ハ「フル」国同上第三而六十條バデレ国同上第九十四條

ルテハハルグ国全上第百七十三条オルデンボルク国同上第百二十六条第百二十九条以下等漏生国同第百三第百六十一第百一
フル国全上第百三第百六十二第百一七第百九十一第百九十二第百九十三第百九十四第百九十五第百九十六第百九十七第百九十八第百九十九第百一
太利国第百二第百六十二第百六十三第百六十四第百六十五第百六十六第百六十七第百六十八第百六十九第百七十第百七十一第百七十二第百七十三第百七十四第百七十五第百七十六第百七十七第百七十八第百七十九第百八十第百八十一第百八十二第百八十三第百八十四第百八十五第百八十六第百八十七第百八十八第百八十九第百九十第百九十一第百九十二第百九十三第百九十四第百九十五第百九十六第百九十七第百九十八第百九十九第百一
乙聯邦第百四第百二十七第百二十八第百二十九第百三十第百三十一第百三十二第百三十三第百三十四第百三十五第百三十六第百三十七第百三十八第百三十九第百四十第百四十一第百四十二第百四十三第百四十四第百四十五第百四十六第百四十七第百四十八第百四十九第百五十第百五十一第百五十二第百五十三第百五十四第百五十五第百五十六第百五十七第百五十八第百五十九第百六十第百六十一第百六十二第百六十三第百六十四第百六十五第百六十六第百六十七第百六十八第百六十九第百七十第百七十一第百七十二第百七十三第百七十四第百七十五第百七十六第百七十七第百七十八第百七十九第百八十第百八十一第百八十二第百八十三第百八十四第百八十五第百八十六第百八十七第百八十八第百八十九第百九十第百九十一第百九十二第百九十三第百九十四第百九十五第百九十六第百九十七第百九十八第百九十九第百一

抑亦法第百八十条ハ単ニ裁判ニ付テノ規定セシ所ニシテ乃チ
本文第百九十条ノ場合ニハ之ヲ適用ス可クサルハ己ニ亦本文第
百九十一条第百九十二条ノ規則ヲ特ニ明示スルニ於テモ明示ナクハ
内閣代理官ハ他ノ裁判官ヲシテ干預セシムルノ趣キナルコトヲ明
示シタリ

又亦本文第百九十条第百九十一条ニ於テ
控訴ノ上訴上ノ第百九十二条第百九十三条第百九十四条第百九十五条第百九十六条第百九十七条第百九十八条第百九十九条第百一
シテハ幸甚ニ付キ内閣代理官既明レテ曰若シ控訴ヲ為シルニ場合

ニハ進正ノ清願ヲ為ワシハ普通ナル一レ何ントナレハ即チ第百
ノ裁判権限ニ於テハ固トマシ進正ヲ為レ得ルニ由レハナク然リト
由テ若シ控訴ヲ為スト同時ニ進正ノ申立ヲ為シ
シテハ之ヲ為スノ場合ハ之アル得ヘシ
同ノ一ナル裁判官所管ノ抗告及ヒ本安否控訴ノ付テハ
タルヤ各事ト云フヘシ

本文第百九十条ニ依リハ
事案ニ関シテ法第百八十四第百八十五第百八十六第百八十七第百八十八第百八十九第百九十第百九十一第百九十二第百九十三第百九十四第百九十五第百九十六第百九十七第百九十八第百九十九第百一
アルヲ進正スルノ第百九十一条ニ依リテハ即チ亦本文第百九十一条
ヲ以テ規定セリ而シテ
甚ク難シ然レ氏其美異スル所ハ頗ル大ナリ乃チ第百九十条ニ於
テハ進正ヲ請取スルニ付キハ別ニ程式ノ規定ヲ為サス又職權ヲ以

テモ尚ホ為レ得ヘク加之進正ヲ許容スレハ即チ必ズ即時ノ抗告士

ノ手續ニ依テ以テ裁判官ノ事体ヲ載スル所ニ自己ノ正當ナル陳
弁ヲ追加シ得ル手段ヲ為スノ便益アリ必竟面陳審理ノ制ハ能ク
事實ノ陳弁ヲシテ充分ニ其實ヲ吐露シ餘蘊ナカラシムルニ便ア
ルカ故ニ實際上事作更正ノ申立ヲ原被告ニ於テ使用スルコト甚
々稀有ナルノ實際ニ因リ遂ニ本文第百九十一条ノ明文ノ如キ
手續ヲ以テ是レリトシテ立証儀ニ更正ニ関スル決議ニ對スル不
服ノ申立ヲ茲ニ許容スルノ必要ナキモト定ムルニ至リタルナ
リ云々此レテムベルグ國許訟法第百七十四條ハゲヤフル國同
單據第百六十三條ハツゼン國全上第百九十二條漢私太利國全
上第百六十六條參看

而レテ本文第百九十条ノ場合ノ以テ第百九十一条ノ場合ト異
ナル所ハ乃チ茲ニ第百九十一条ノ場合ニ於テ明瞭ナリトス
前々項ニ引奉セシ理由說明中ニ論^{於テ審理}ハ^ハ調停ト明示スルハ即チ世
不完全ニ記載シアル場合ノモノヲ指スニ過キサルノミ調停ニ^{現案}
ニ記載シ已ニ確實ナラシメタルモノニ至テハ必ス本法第百八十
一条第ニ項ヲ適用スルニ非ラザレハ之ヲ抹殺^除スルヲ得サルヘシ
何シナレハ一ノ公認者タルハ無論タレハナリ

更正申立ノ期限本文第百九十一条第ニ項ヲ一週間^ハ本法第百九
十一条^下為シテ^{リテ}即チ確定ノ不變ノ猶豫期限ト明示シアラズ故ニ亦
法第百九十一条第ニ項ニ依リ本法第百九十八條第ニ項第ニ項^ハ法律
上不變ノ猶豫期限ニ属セス是ニ於テ裁判官ノ職權ヲ以テ為シ能ハ
サルモ原被告ノ認識ヲ以テハ能ク之ヲ伸縮シ得ルモノナリ本法第
二百二條第ニ項第ニ項第ニ項第ニ項第ニ項^ハ起頭ニ付テハ本法
第百八十七條及ヒ第百八十一条乃至第百九十三條ニ對スル

第四解ヲ卷首ス可シ

更正申立ノ旨面ニ記載ス一キ条件本文第九十一条第三項ハ云
々レアラサル可ラスト命令法ヲ以テ規定レアリ又此旨面ノ送達及
ヒ相手ノ呼出ニ付テハ本法第九十二条以下第九十九条第九
十一条乃至第九十四条第九十二条ヲ卷首ス一シ

又豫メ立証ヲ行ハサレ且本文第九十一条第四項然カモ口頭對
審^理必ス開カサルヲ得サレナリ乃チ裁判所ハ口頭對審^理開キ一々
洞告ニ記載明確ナラシメテ以テ之ニ依拠^ル意ノ辨^明ヲ為レテ判定
スルナリ此判定ニ對シテハ不服ノ申立ヲ禁止ス上ノ理由說明
而シテ國政院委員ノ本条ニ付テ第一ニ追加シタル文章ノ趣旨ハ本

法第九十二条ニ酷妻スルモノニシテ即チ若シ各裁判官事故^ノ為
シ差支^ハ為^ルニ法律上ノ定負^ヲ缺カ如キ場合アルニ方チハ到底裁判
ヲ為シ能ハサレニ至ルノ結果ナキニ服ラサル一ト上ノ第一解卷首
且行文上不明亮ナル所ノ裁判所編制法第九十四条ニ及^テシ裁判官
三人五人若シハ七人ノ定負タル規則ヲ假シ又發言^同數^可否^ノ場合
ニ付キ明定セル追加ノ寧^口之ヲ排斥スルニ如カサリシナリ然レテ

安^可裁判官其人ニシテ承^続ス一キ差支^{アル}時又ハ合^後裁判所ノ裁判
ス一キ各裁判官等^ノ差支^{アル}中ハ更正ニ付テ^ハ審^理止^ムル^ル審^理止^ムル^ル
ノ趣旨ナリ又商事裁判官裁判所編制法第九十二条卷首ハ連^帶裁判
官^ノ於^テハ裁判官^同齊^ニ於^テハ^ハ既^成時限^ノ經過^後ハ更正ニ関スル審判ニ卷
其^レ能ハス但裁判長若クハ組合裁判官ノ他ノ組合ニ移リタルカ如^ク

ハ乃チ裁判所編制法第六十四条及ヒ第九十二条第三十三條ニ
照依^レ以^テ示^シ細^則令^ヲ細^則構成^セル^ルコトヲ得^ルナリ

又本文第九十一条ノ末段ハ安^當ナラス如何レトナレハ即チ事

体ノ更正ハ能^{脱漏}本条請求又ハ附帯請求ヲ確固ナラシムルニ至ルコ
トアルヲ以テ乃々第百九十二条ニ依リ裁判^決補充ヲ要トスルコ
トアル一キカ故ナリ然^外而シテ^外裁判官^決自ラ為セン裁判^決自
ラ^改変^決シ得ヘカ^決ラサルノ規定本条第百八十九条^決終^決アルヲ以テ
裁判^決必ス裁判^決ノ更正^決ヲ適宜ニ^決熟望スル^決中^決ハ^決控訴^決若シハ^決上訴^決ヲ為
シテ以テ之^決ノ回復セサル^決一カ^決ラサル^決ナリ^決第百二解ニ^決準^決テ^決内閣代
理員^決ノ^決説明^決ヲ^決参考^決ス^決可^決シ

第四解補充裁判^決本文第百九十二条)理由説明ニ曰

本文第百九十二条ノ不完全ナル裁判^決ヲ補充スルノ規定ハ全ク
新制ノ^決訴訟法^決及ヒ^決旧^決草案^決ニ^決符合^決スル^決所^決ナリ^決但^決テ^決旧^決訴訟法^決
第百八十三条^決ハ^決シ^決テ^決旧^決草案^決第百三十一条^決ニ^決準^決テ^決ム^決コ
レ^決國^決全^決上^決第^決三^決百^決七^決十^決五^決条^決ニ^決準^決テ^決ム^決コ^決レ^決ル^決國^決全^決草^決案^決第^決二^決百^決六^決十^決四^決条^決以

下北部独乙聯邦草案第四百二十八条第四百二十九条終迄

例^決ハ^決ハ^決各^決部^決ノ^決全^決體^決ニ^決對^決シ^決テ^決裁判^決セラ^決レ^決シ^決コ^決ト^決ノ^決請^決求^決アル^決ニ^決モ
拘^決ハ^決ラ^決ス^決適^決宜^決本^決案^決終^決局^決裁判^決ニ^決於^決テ^決本^決案^決請^決求^決若^決シ^決ハ^決附^決帯^決ノ^決請^決求^決又
ハ^決費用^決ニ^決關^決ス^決ル^決点^決ノ^決脱^決漏^決シ^決アル^決中^決ハ^決則^決々^決其^決裁判^決ヲ^決補^決充^決セ^決レ^決コ^決ト
ノ^決申^決立^決リ^決カ^決レ^決得^決ヘ^決シ^決乃^決々^決其^決他^決之^決場^決合^決ノ^決裁判^決ハ^決實際^決ニ^決於^決テ^決ハ^決一^決ノ^決
附^決帯^決裁判^決外^決ニ^決過^決キ^決サ^決ル^決ナ^決リ^決其^決他^決之^決許^決訟^決ノ^決大^決半^決ハ^決終^決局^決ノ^決中^決ニ^決包^決括^決
シ^決テ^決裁判^決セラ^決レ^決シ^決コ^決ト^決ノ^決請^決求^決ス^決ル^決中^決ハ^決對^決シ^決テ^決為^決ス^決一^決部^決ノ^決裁判^決ニ^決シ^決テ^決
其^決實^決全^決部^決ニ^決對^決ス^決ル^決終^決局^決裁判^決ト^決為^決ス^決場^決合^決ニ^決方^決テ^決モ^決亦^決裁判^決ノ^決補
充^決ヲ^決申^決立^決得^決ヘ^決キ^決ナ^決リ
補充裁判申立ノ許否ニ關スル裁判ハ其前裁判管ニ記載シアル原
来ノ事体又ハ修正シタル事体ノ如何ニ拠ラサル可ラス乃々其申
立ヲ許容スヘキモノト認ラレ得ル時ハ追加裁判ヲ清フ所ノ各点

ニ付キ更ニ口頭對審^理ヲ行ハシ且其全部ニ亘リ審理セサルヘカラス
然リ而レテ^又更申立テ許スニ方テ自立^{ハシ}裁判^ヲ為スヘキア若ク
ハ自立ナシト不服^ハ北部独乙聯邦草案第四百二十九条及ヒ五ルテム
ニルグ国々法院司法部委員訴訟法第三百八十九条ニ関スル報告
矢先ニ對スル裁判^ヲ為スヘキ時ニハ敢テ亦^モ現ニ補充ノ要ス
ル裁判^ニ對スル共^ニ同^一ノ裁判官^ヲ必ス為サレメサル可ラスト
セス又原被告ノ請求スル所ニ對シ^テ裁判^{スル}コトヲ脱漏セル中ハ
復タ本文第百九十二条ノ手續ニ依リ補充ヲ請フヲ得ルノミニ
レテ上訴^シテ之ヲ求ルヲ得サルヘキナリト本法第四百九十九条ノ
理由説明卷着

蓋本文第百九十二条ノ規則ト頗ル密接ノ關係ヲ有スルモリハ
即チ北部独乙聯邦草案第四百二十八条第ニ項ニ換俣^シル所
本法^ニ施行^{スル}第十四条^ニ規定^スル^ル而レテ^テ独乙^國法^制ニ

於テハ^一部^ニ獨乙^ノ普通^法字^漏生^法制^字漏^生内^國通^法第^一百^一十^一
章^第八^百四^十五^条第^八百^四十^六条^第八^百四^十八^条及^ヒ本^法第^九
十^八条^ノ至^第百^一十^三条^ノ第^三條^ニ關^スル^ル或^ハ附^帶ノ請^求即^チ利^子ノ如^キ
モ^リハ其^ノ本^案ノ裁判^中ニ一^言ノ説^明ナ^キハ之^ヲ否^決シ^クン^セ
ノト同^効力^ナリトノ明^条ヲ^採ケ^{アル}ナ^リト北部^獨乙^聯邦^ノ委^員ハ
此^ノ事^項タルヤ訴訟^法ニ屬^シアリテ無論^ノコトナリト云フニ因^リ
遂^ニ此^ノ明^条ヲ^刪除^シタ^リ今^茲此^ノ章^條ニ於^テハ亦^各獨^乙國^ニ於^テ
本^文第^二百^九十^二条^ノ實^行ニ^統一^ノ要^スル^ル為^メ國^トト^リ前^況ニ
同意^セサ^レヘ^カラ^ザル^ル云^々

又費用ニ関シテハ本法第百七十九条ニ拠リ職權ヲ以テ之ヲ規定
スヘキモノニシテ而シテ其他^ノ單^ニ脱^漏シ^テ本^案請^求若^クハ附^帶

限り確定ヲ為スモノトス

抗弁ヲ以テ為シタル反對要求ノ成立若クハ成立ヲサルコトニ付^判裁^決ハ差引計算ヲ為ス可キ額マテニ限り確定スルモノトス

第一解理由ノ説明及ヒ制定ノ沿革 各章按ニハ悉ク裁判^付付^テア

其規則ノ制定^テ即^同裁判確定力ハ其当ニ確定スヘキ裁判^ハ裁判

文中ニ明記シアルト否トニ依^テス始ルモノトス^ル而^シテ^テ国^務院^各

項^ハ裁^決ハ^独り理由ヲ掲^ル部^中ニ^ノミ記載スヘキニ依^テス^殊裁^決

判^決確定^ニ付^キサウ^テニ^氏ノ論^ヲ實^行セ^ント試^ムルモ遂^ニ果^シ難

シトスルヲ以^テ第三項ヲ刪除^シタ^リ而^シテ^テ委員ノ動議ノ成績ヲ

記載^シアルニ就^テ之^ヲ看^ルニ頗^ル妥^当ヲ得^テルナ^リ

抑^サウ^テニ^氏ノ説^ニ拠^レト^ル頁理由中ニ明^示シ^タル事項^ヲトモ

尚^ホ確定力^ノ有^ルニ至^ルヘ^レト^ル趣^意ナ^リ

蓋^テ漏^生固^ノ實際^ニ於^テ、單^ニ裁^判文中^ニ記載^シアル裁^決ニ限^リ

確定力^ノ生^スルモノト制^裁下^ニ加^テ之^ハ裁^決ニ^傾向^ス復^タ直接^ニ訴訟物

件^ヲ為^レアル^レ請求^ニ對^シテ^テ裁^決モ^リ若^クハ格^別ニ^申立^テ豫^審ニ

任^シ点^ニ對^シテ^テ裁^決ニ限^ルルモノト宣^ハル^ル傾^向頗^ル盛^ナリ

而^シテ^テ此^レ本^法案^ニ於^テハ先^ツ本^法第^二百^五十^三条^第三^百五^十四^条

ヲ以^テ豫^審上^ノ確定訴訟^ヲ為^スフ許^シテ^テ訴訟中各豫^審ニ任^シ一^キ争

点^ニ對^シテ^テ裁^決各^部分^ニ對^シテ^テ何^時モ裁^決ヲ為^シ得^ルハ方法^ヲ規定^シ此

他^ハ本^案ハ^生漏^生固^ノ意見^ニ同意^シリ^シ氏^尚ホ^本案^ノ刪^除セ^ラレ

ル^ル第三^項ヲ置^ク以^テ單^ニ理由^ノ項^中ニ^記載^シアルモノト^宣ハ^ス必

要^スル^一キ^裁判^ハ之^ヲ委^任セ^サル^ル趣^意ヲ^實行^セシ^メン^ト為^シ

今^ヤ若^クニ理由^ノ説明^ノ文章^ヲ直^接抄^出シ^テ十分^ニ其^レ理由^ヲ解

標一キナノ即チ曰

神本法律第六百四十五條(本法實施條例)第九條(裁判ノ程式)上ノ確定ニ付テ規定シ却テ本条ハハイルン因訴訟法第百九十四條第百九十五條北部獨乙聯邦章程第三百五十一條ニ倣フテ而カモ裁判ノ資質ニ從ヒ如何ナル程度マテ確定ス一キモノナルヤノ現實ノ確定力ヲ規定セルナリ

抑獨乙国各裁判所ニ於テ裁判確定ノ抗弁ノ制ヲ一般ニ實施センモノカ為メニ本法ヲ以テ各種ノ獨乙内国及ヒ所領内ニ行ハルハ異同ヲ一洗シ統一ナル原則ヲ以テ確定力ノ程度ノ平等ニ劃定シハルニ注意セザル一カヲサレナリ

亦条第二項ノ規定ハ北部獨乙聯邦章程第三百五十九條第二項ニ模擬シタルモノニシテ即チ確定力ニ付キ當ニ依拠ス一キ原則ニ能ク協フ所ナリ乃チ原告ニ於テ義務相殺ノ抗弁ヲ提出シテ其

護スル件ハ則チ可提出シタル事ヲ相殺ノ反對要求ノ相殺セント欲スル價額ノ成立若クハ不成立ニ付キ互ニ認定セントスルハ原告兩造ノ目的ナリト看做ワシト可ラス此相殺額ヲ超過スル裁判額ニ付キ原告告アリ明カニ確定センコトヲ申立ルハ非ラサレハ

原告ノ目的ナリト云フヲ得ヘキナリ(北部獨乙聯邦章程)第...
記録卷

又裁判ノ理由ナシモノハ確定力ヲ有セザルコトハ已ニ本条ノ規則ニ於テ明瞭ナリ故ニ之ヲ法文ヲ以テ明示スルノ要セザルナリ(但シ下ノ第二條(卷)而シテ裁判ノ意旨及ヒ範圍ヲ確定スル為メ裁判ノ理由ニ能クアレルコトニ付キ特ニ之ヲ明示スルコトモ亦其

必要ヲ見ス必竟獨乙全般ノ法制ニ於テハ既ニ裁判ノ解決ヲ為ス

知ハ裁判理由ノ最切要ナル材料トシテ即チ裁判ノ要ヲ定メン
欲セハ必ス裁判理由ニ依拠セザルニシテメサル一カラスト了知セシ
メアレハナリ云々(バイル)国訴訟法第百九十九条及ルテムハ
ル少国全上第百八十三条北部獨逸聯邦章第百五十九条第
二項第壹卷

第二解現實ノ裁判確定力 本条ノ趣意ニ付テ之ヲ約説スレハ即チ
左ノ如シ本条ニ於テ豫審上ノ確定ヲ亦ル本訴若クハ反訴ヲ許シテ
ル所ヲ除キテハ(本法第百五十三條並ニ第百五十三條及ニ第百二
百五十四條ノ第一解第三解終局字漏生国上等裁判院ノ理論ニ拠リ
タル上)上ノ第一解終局ノヲ特リ裁判文ノ(本法第百八十四条
(五)確定力ヲ生スルノ至キレテ即チ本法第百八十五条ニ於テ裁
判文ト事体及ニ裁判理由トヲ區別スルノ必要アル所ナリ然レモ其

裁判文中ニ記載シアル所ハ悉ク確定力ヲ有ストモ云ハ推ク必ス前
段ノ文章ニ依テ之ヲ判断ス一ク乃モ或ハ前段ハ事体上ノ性傾ノモ
ノナル一キニ反テ(其事)事体外ニ涉リテ説述シアルコトナキニアラセ
ル一キナリ獨リ本訴若クハ反訴ノ清純一定ノ申立ニ對シ直接ニ權利
ノ有無ヲ判断スル論議ニ限テ世効力ヲ有スルモノトス蓋且ニ付テ
ハ本法第百五十三條及ニ第百五十四條ノ第一解第三解ニ於テ
二三ノ引例アリ就テ終局スレシ

其他帝國高等商事裁判院ニ於テ字漏生内国法ニ依リ裁判シノ事
例及ニ著者ノ雜誌第百八号ニ就テ終局スレシ乃モ利子請求ニ對スル
裁判ノ確定力ハ死資金ノ負債ニ付テ確定力ヲ有セス又請求ノ請取
ニ對スル裁判ハ可決額ノ額ニ對テ確定力ヲ有セサルコトヲ述ヘリ
リ又前記ノ裁判例ニ依レハ(其事)契約履行ノ事務アリト宣渡サレリ

ル裁判^決確定スルモ未^レ物品引取及ヒ代價拂込^テ請求ハ確定セサ
ルモノト裁判^決シテ又之ニ反シ以テ提出シタル訴訟ト眞実相牽連
セル請求^ト抗弁^ハ敗訴者^トハ確定裁判^決為^ル消滅^シ再^ヒ新
訴ヲ起シテ更ニ請求シ能ハサルモノナリト裁判^決セルノ例アリ
之ヲ要スルニ裁判^決理由ハ最緊要ノモノニシテ(上ノ理由説明卷)
即チ本法第^二百^四十^二条乃至第^二百^四十^三条ノ第五解ニ於テ理由中
ノ事項ハ確定裁判^決カ^ラ醸生スルノ場合ヲ示シタリ
又裁判文ニハ何レノ種変カ否認セラレタル請求ナルカ若クハ是認
セラレタル請求ナルカヲ明示セサシ^テ例トス乃チ其如何ナル時如
何ナル^レ状情ニ因リ請求ノ成立タルコトヲ明示スルコトナクシテ一
定ノ額ヲ弁償ス可レト言渡^ル又^ハ債務相殺ノ何レノ項目ヲ採用ス
ルコトヲ明示セスレテ請求ノ全部若クハ一部ヲ却ケテ敗訴ノ言渡
ヲ為スナリ而シテ此言渡^ル為^ル裁判文^ニ即チ本法第^二百^四十^三条ニ依リ確
定カ^ラ有ス乃チ是等ノ理由ヲ知ラシニハ必ス裁判^決理由ニ照依セ
サル一カラス蓋サウガニ^ハ氏ノ理論ヲ採用セストハ云フト虽モ(上
ノ第一解卷)高^ク裁判^決理由中ニ限リ掲^テ得^ル一キ^ハ裁判^決理由中
混和^シアル^レ免カレサル所ナリ此他本条ニ付テハ尚ホ困難ナル事
項ナキニ非ラザレバ復タ未^レ之^レ解理スルニ至ラス(本法第^二百^四
十三^条第^二百^五十四^条ノ第五解卷)
第三解^ニ債務相殺ノ抗弁(本条第^二項及ヒ上ノ理由説明卷) 本条第
一項ハ反訴^ヲ以テ為ス反對要求^ニ付テ換ル^ルハク之ニ反シ被告^{ヨリ}
原告請求ニ対シ又ハ原告^カ被告^ノ反訴ニ対シ提出スルノ如何ヲ問
ハス^ハ債務相殺ノ抗弁ニ付テ依^ル換^ルル^ル一キノ規定ナリトス之ニ付テハ
本法第^四十^三条第^三解ノ卷^ニ是^レハ一^ニ而シテ若シ全体ノ反對要求

ニ付裁判決定カヤトトコトヲ要スルハ則チ必ス反訴若クハ豫審上

確定ヲ求ルノ許否又ハ許否申立ノ擴張ニ依テ之ヲ要メサル可ラサ

ルナリ(本法第二百五十三条及ヒ第二百五十四条ノ第四解參看)

義務相殺ノ并駁ニ関シテト亦本條并二項ニ依ルヘシ蓋抗弁ニ對ス

ルノ抗弁多シ性情ノモノナレハナリ而シテ義務相殺ニ付テハ本法

第二百五十五條第一解ヲ參看スヘシ

第四解現實ノ確定裁判効力 此効力ニ付テハ民法ニ從テ之ヲ定

ムハキモトス上ノ理由説明ニ依テハ裁判確定ノ抗弁ノ制タルマ

裁判所編制法第五十七条以下ノ明文ニ依リ受訴裁判所々所在地所

属ノ聯邦外獨乙全国ニ其効力ヲ有スルモノナリ且裁判確定ハ物

件拘束ノ抗弁ニモ適用ヲ得ヘシ(本法第二百三十五条第一解并四解

參看)又現實ノ裁判確定力ノ為メ自ララフアルマテホイレベヨラス(一訴

件カ

再ニ審理セラレ更ニ不ハ貫通ヲ絶ツニ至レリ(本條九例參看)

和ナル裁判決ヲ受ルノ不ハ貫通ヲ絶ツニ至レリ(本條九例參看)

第二百九十四条 判決ノ言渡ニ及ビ送達ニ関スルノ事

口頭評審ニ基キテ為ル判決裁判所ハ之ヲ言渡ササル可ラス

第二百八十条 第二百八十一条 規則ハ裁判所ノ判決ニ付キ之ヲ適用

シ(第二百八十三条 第二百八十八条ノ規則ハ裁判所ノ判決及ヒ裁判長

又ハ受命裁判官若クハ受託裁判官ノ命令ニモ之ヲ適用ス

言渡ササル裁判所ノ判決及ヒ言渡ササル裁判長又ハ受命裁判官若ク

ハ受託裁判官ノ命令ハ職推ヲ以テ之ヲ受被告ニ送達ス可シ

一理由ノ説明制定ノ沿革及ヒ解釈 理由説明ニハ單獨ニ本條并三項

ハ裁判官タル者ハ許否上指揮ヲ為スヘキ職分アルニ起因スルノ理

由ヲ説述セ而シテ第一項及ヒ第二項ニ付テハ本法第二百八十条第

一理由ノ説明制定ノ沿革及ヒ解釈 理由説明ニハ單獨ニ本條并三項

ハ裁判官タル者ハ許否上指揮ヲ為スヘキ職分アルニ起因スルノ理

二百八十一至二百八十三条各理由既明ヲ失名スハレト推諉シ
アルナリ○字漏生国草按及ヒ北部独乙縣草按ハ行文上差異アリ
ト虽モ世趣如ク至リハ同一ナリ而レテ国訟院委員会ニ於テ更ニ異
設ナカリシ

本条第一項ニ命令法ノ云々セサル可ラスト特旨シタルニ因テ以テ
第三項ハ當ニ口頭對審ニ基リコトナリレテ其ス決後ノミヲ指スノ
事ヲ明瞭ナラシメタリ又第一項ニ特旨ハ裁判官ハ世決後ヲ言渡シ
若クハ送達スルノ一ヲ選振スルコト能ハスレテ若シ期日ニ於テ誤
テ決後ノ言渡ヲ怠リタルハ則チ第二項ニ引率セン事二百八十一
条ニ於ケルカ如ク更ニ期日ヲ定メテ之ヲ言渡サシム可ラサルナリ
又第三項ニ付テハ解秩ハ之ヲ本法第九十一條乃至第九十三條
第一條^{法律}及ヒ第三條ニ據ル就テ着シハシ

第二項中本法第二百八十二條ヲ明筆シテアラス故ニ之ヲ決後及ヒ命
令ニハ適用ス可ラサナリ

受命裁判官送託裁判官ニ付テハ本法第五十一條第一條ヲ失名ス
可シ

本法ノ用語法ニ依レハ終一テ裁判^案終向裁判^案一部裁判^案附帶裁判^案
ノ性質ニ別ラサシ^{刑定ハズ}決後及ヒ命令ト看做スハキノ慣例ナリ乃チ本法
第九十九條ノ條文ニキテ訴訟費用ノ額ニ付テハ判定^{費用}ノ確定ノ決後
ト稱セリ是故ニ或ル目的ノ為メ例ハ強迫執行ニ関スル決後ニ至
テハ之ヲ言渡スノ外尚ホ原被告ニ於テ自行スル一ヲ送達ヲ為スル必
要トナスナリ^{本法第九十八條乃至第九十六條}第六條^{失名}又本条第
二項ニ於テ本法第二百八十八條ヲ引率シタル理由ナリハ^{本法}
第五十四條第一項^{失名}

第三節 缺席裁判

第二百九十五条 (被告) 被告ノ缺席ニ関スルノ条

原告口頭對審^理、期日ニ出廷セサル時ハ申立ニ依リ缺席裁判^決シ以テ原告^告ヲ訴訟ト共ニ存クルコトヲ言渡スモノトス

第二百九十六条 (被告) 被告ノ缺席ニ関スルノ条

原告口頭對審^理、期日ニ出廷セサル被告ニ對シテ缺席裁判^決言渡ヲ求ル申立ヲ為ス時原告ノ事実上ノ口頭陳述ハ自認セラレタルモノト看做ス可キモノトス

其陳述訴訟申立ノ理由ト为ルヘキ部分ニ限リ其申立ニ依テ裁判^決シ其理由ト为ラザル部分ニ限リ訴訟ヲ却下スヘキモノトス

第二百九十七条 (對審) 對審期日ニ関スルノ条

延期ニテ定メタル期日對審^理、期日又ハ立証決裁ノ言渡前若クハ其言渡後ニ口頭對審^理ヲ継続スルヲ定メタル期日モ亦(數)條ニ指ス所ノ對審^理期日ト看做ス可キモノトス

(第一) 解一般ノ理由說明 抑千八百七十一年度及千八百七十二

年度、兩章程ノ缺席裁判^決ニ付テ罰金^決ヲ被リタルニ拘ハラズ千八百七十四年度ノ章程ニ於テハ復タ仍舊舊^決ヲ維持シテ而カ

モ国法院及ヒ其司法部委員ノ賛成ヲ得タル所ナリ此制ニ関シテハ政府及ヒ国法院委員ノ一般ノ理由說明ニ於テ其理由ヲ詳述セリ故

ニ今茲ニ其制ノ本体ヲ特別理由說明ノ中ヨリ抽出シテ足ルハシ即
々曰

此処ニ準ル所ノ規定ハ訴訟上原告ノ不順良ヲ表スル窮困難ナ
ル場合ニ任ル所ノニシテ即チ全ク再審ヲ缺席スルヲ以テ缺席裁
判ノ要件及ヒ理由ト為スナリ（本法第ニ百九十五乃至第三百二
十及ヒ第三百十二各条各一）而シテ特ニ此缺席裁判ヲ取消ス限リ為
相違メテ素トコロ不服ヲ唱フルニ依ラズ後テ上訴ニ属セシメサ
ル所ノ故障申立ナシ敷復法ヲ規定スルハ又自ラ止ムハカラサル
結果ナリトス（本法第三百二条乃至第三百十一各条第百三十二各条
各一）蓋缺席裁判ナルモノハ裁判中ノ一種特定ニ依ル所ニシテ而カ
モ裁判ニ付テハ然一テノ原則ハ之ヲ適用缺席裁判ニシテモ

抑缺席裁判ヲ下スニハ必ス及令原告ノ一方全ク出廷セサルコト
モ又ハ出廷シタリシモ再審ヲ為サハルニ因ルトモ其豫メ指定シ
タル口頭對審ヲ親ク為サハルコト及ヒ其對午人ヨリ缺席裁判
為スル所ニ依リ申立ヲ為シタルコトノ二項ヲ切要トスルナリ乃チ缺
席裁判ハ一ニ原告ノ一方口頭對審ノ期日ニ全ク缺席シタル
唯一充分ナル原因トナシ其裁判ニ至テハ只其缺席ヲ以テ或ル部
分ニ限リテ裁判ノ理由ト為シ例ハ對午人ヨリ主張スル事實
出スル所ニ依リ其明告要約等ニ對シテ併明セサル所ノ懈怠ヲ指摘トセ
ルハ其裁判ニ依ラス反テ對審裁判ノ如ク然ルモ
ニシテ而シテ本法ニ依リテ亦裁判官ノ缺席ヲ認定スル言渡ハ必
ズ缺席裁判ノ依據ニ依ラズ即チ口頭對審ノ期日ニ原告若クハ被
告ノ缺席シ若クハ對審ヲ為サハル所ヲ以テ理由ト為スナリ却テ

期限ヲ怠リ又ハ該席シタル^レ評審期日ニ不完全ナル審理ヲ受ルニ因
由スル不利益ナル結果ハ特ニ裁判官ノ言渡アラサルモ自ら成立テ
且只後日ニ受リ一キ^レ評審^理為メノ材料ヲ成スノ外之アラサルナリ
蓋本法ニ於テ右二個ノ方向ニ規程シタルハ即々全ク他ノ現行
法制ニ異ナル所ニシテ殊ニ又右二個ノ方向ノ一アルハ之ヲ^各評審
裁判ト爲シ他ノモ一ハ^評審裁判^理爲ス一キ裁判制ハ之ヲ採用シテ
ラス

訴訟ノ如何ナル程度ニアルトモ口頭評審^理期日ヲ全ク^レ缺席シタル
ニ因リ敢テ仍ホ^レ缺席裁判^理爲シ得ルヤ否ニ付テハ本條九例ノ一般
理由說明第六回乃至第八回ニ詳述セリ而シテ本文第二百九十七條
ニ於テ^評審^理明確ナル文章ヲ以テ^評審^理得タルナリ
本法ニ規定スル如キ全ク^レ缺席ニ付テハ手續ノ起因スル原則ハ一種
固有ノモノニシテ即々

一ハ原告ノ請求ヲ放棄シタル豫審上ノ審理^理トシテ原告ニ付^ル裁
判ニ^決結果ヲ表示シ又被告ニ付テハ請求ヲ自認シタル豫審ノ審
判トシテ被告ニ付^ル裁判ニ^決成績ヲ表示ス
又一ハ故障申立ヲ許ス所ニ於テ^評審^理カナル如ク^評審^理裁判^理ハ^決程^式上
及ヒ假定上ノ性質ヲ爲ス所ノモノナリ

第二解制定ノ沿革 本文三條共ニ政府起草ノ原案ニ於テ悉ク同文
ナリ而シテ^評審^理委員會ニ於テ劇論痛撃ヲ被^ルリタルニモ拘ハラ
ス遂ニ終^ニ心ヲ受ケスレテ採用セラレタリ蓋當時ノ論議ヲ知ルハ二
三ノ尙題ニ因^リテハ仍ホ^レ其益ナキニ非^ラズ各人ハ後ニ之ヲ^決論^述ス
ルノ時アルヘシ又本文第二百九十六條ニ追加^スル^條ノ^決論^述アリテ遂ニ
採用セラレサリシコトニ付テハ本法第二百三十三條及ヒ第二百三

十四条第一解ニ讓テ茲ニ奉_レ述べセサレハシ又北部独乙聯邦草案ハ其
第四百三十条ヲ以テ原告ノ缺席スルハ單ニ原告ヲ行クルニ止メ
其第四百三十二条ニ於テハ被告ノ自認ト爲_レ做スヘキ点ヲ擴充シテ
訴訟中主張スル所ノ管轄權ニ関スヘキ事實ニマテ及ホサレムル
リ而シテ審理ノ將ニ終局セントスルニ方テ缺席シタル場合ノ結果
ニ付テハ大ニ之ヲ局限セリ

第三解缺席裁判制ノ制裁ニ並ビ缺席ニ任シ制裁ニシテ原告ノ缺
席スルニ因リ志用_スル所ハ本法第三百二条乃至第三百二条ヲ除キ尚
ホ教_テ了_ル場合之アルナリ乃ケ法律上代人ノ代理推ノ缺漏ニ付テハ
裁判所其職推_シ以テ之ヲ調査シ且_レ期_ハ延期ニ付テハ推_シ裁_スラ_ス
缺席裁判申立ヲ却下スルニマテ至ラサレハカラス(本法第三百二条
及第三百二十四条並ニ其第一解參照)又訴訟代人ノ代理委任不相当ナリ

場合ニ於テハ其之ヲ行クルコト二回ナルニ至テ初テ缺席者ト爲_レ做
スヘキナリ(本法第四十三條第四十四條並ニ第四十三條第一
解第四解參照)而シテ共同訴訟人ニ付テハ其中ノ一人缺席スルモ
ノニ出廷スル他ノ共同者ニ損害ヲ與ヘシメサレハシテナラス場合ニ
依_リ出廷シタル共同者ハ缺席者ノ權利ヲ代表保持スルコトアルハ
シ(本法第五十八條第五十九條並ニ第五十八條ノ第三解參照)

第四解申立ニ因リ(本文第二九六條乃至第二九六條ニ於テ申
立トアルハ對審_理期日ニ出廷シアル對_手人カ缺席裁判下付ノ申立テ
口頭(本法第二九六條第六解參照)ヲ以テ爲スノ意_ヲ示_スリ而シテ其之
ヲ爲スト否トハ因_トヨリ原告ノ意見ニ放任ス其之ヲ放任スル所
ハ即_チ法文ヲ一看スレハ頗_ル嚴酷ニ失スルカ如クナレハ實際ニ之
ヲ緩和セシムルノ点_ニ對シテ蓋_シ代_言者流ニ在_リテハ已ニ假令一時ニ缺

判長之ヲ言渡サ、ルハカラサルナリ(本法第九十七條第四項参照)
第六條原告ノ缺席 本文第九十九條ニ對スル理由説明ニ曰
第九十九條ニ於テ原告ノ缺席ニ付キ其結果ヲ規定シタルハ
即チ原告ハ其訴状ト共ニ付ケラルコト、為シ而シテ訴状ノ事
部上ノ調査ハ之ヲ為サルノミナラス又其裁判所ハ被告ノ申
立ニ因リ原告ハ自ら其請求ヲ正当ニ維持スルヲ欲セサルモノト
着認シ即チ訴状ノ却下スルナリ是故ニ原告ニ對シ言渡シタル缺
席裁判ハ本案ノ請求ニマテ及ホシ(之ヲ)視認メシムル所ナリ此
事タルヤ原告被告兼ニ缺席シタル時ノ処分ハ共ニ差異アラシメ
ス(本文第九十六條)蓋他ノ新定法制ニ於テハ往々原告缺席ス
ル中ハ被告ハ其裁判所ノ拘束ヲ免カレ又ハ許松ノ提出セラレサ
ルモノト着做ス可レトノ規則ヲ制定シアレバ然レハ則チ此缺席

●結果タルヤアリノ法律ニ定ムル如ク訴訟ノ願下ソ為シタルト同
一ナルニ至ルヲ以テ之ヲ被告ノ缺席スル場合ニハ尚ホ豫審ヲ為
スノ律系ニ相比照シテ甚ク不權衡ノ生レ原告ノ不利ハ更ニ大ナ
リ是ニ於テ幸即チ本法ニ於テハ原告被告間ヲ努トメテ均一ナラン
メレト企望シ乃チ請求權ヲ放棄セルモノト着認メタル法律上他
ノ一方ニ於テ并發テ放棄シタルモノト同等ナラシメテ殊ニ第
二百八條第二條参照而シテ原告ニ於テハ容易ニ故障ノ申立ソ為
シ得ノ規定アルカ故ニ權利ヲ毀損スルノ危懼ニ陥ルコト之アル
ハカラス云々
第七條被告ノ缺席 本文第九十六條ニ對スル理由説明ニ曰
全ク缺席シタル被告ニ付テハ原告ノ請求ヲ認察シテ否并シリ
モノト認定スルキ所ハ(之)違法ノ呼出及(之)口頭ヲ以テ提出シ

ル并明テ通知スルノ式ハ必ス為シアラサル一カラス本文第百九十五條ニ於ケル原告ニ関スルモノト等シク応用セラル可キナリ本法律第百九十六條五裁判所ハ自ラ原告ノ提出スル事實ニ付キ疑フ一キモノト思料シ又ハ原告ヨリ更ニ率志ヲ為サス若クハ為メニ附帶審判ヲ要ス一キ証拠ヲ提出スルニ止ル場合ニ在テモ尚ホ原告ノ提出スル所ニ付キ立証セシムルヲ要セサルナリ被告缺席シタル時ハ請求ヲ認諾シタルモノト認定スルノ豫審ヲ為シテ本文第百九十六條以テ被告ハ缺席シタル行為ニ依リ原告カ訴訟ノ原因トシテ提出シタル事實ニ對シ為ス一キ并護ヲ抛棄スルノ意ヲ示セタルモノト視認ム可キナリ是故ニ其事實ニ付テハ之ヲ認諾シタルモノト認定ス而レテ被告ハ審理ノ際提出シ得一キ終ヘテノ抗弁又ハ反對ノ申立ヲ失フナリ本法律第百九條

参看

缺席シタル被告ニ對スル処分ヲ嚴酷ニ為スノ說ヲ主張シテ固持スル輩アリト雖モ是レ大ニ其理由ヲ認ルノミナラス又独乙ノ法律心ニ疾忤スルモノト云フヘシ若シ果シテ此者流ノ說ニ從ヘハ則チ缺席スル被告ハ當ニ其并護ヲ失却スルノミニ止メスレテ更ニ原告ノ請求ハ其事實上ノ理由ト法律上ノ理由トヲ別タス志皆之ヲ認諾シタルモノト認定ス一キニ至ルナリ是ニ於テ幸即チ本文第百九十六條ノ第二項ニ於テ只請求ノ訴訟申立ノ理由ト為ス一キモノニ限り被告ノ敗訴ナリト宣渡シ世然ラサル限りハ訴訟ヲ場合ノ如何ニ從ヒ或ハ做リニ或ハ今回或ハ申立ル如クハハノ意ヲ以テ作テハシト規定シタルハ世々客當ニレテ理ニ適スルモノト云フヘシ云々

被告トナリタル後見人ノ缺席シタル場合ニ関シテハ本法第五十条
第五解ヲ参照スルニ

第八解裁判所ノ管轄 裁判所ノ管轄トハ訴訟物件ノ管轄及場所ノ
管轄トノ二ナリ本法第一一条第五解及而レテ訴訟物件ノ管轄ニ付

凡ハ既ニ本法第三一条第五解ニ於テ其缺席シタル被告ハ請求ヲ認諾
シタルモノト看做スニ付キ更ニ訴訟物件ノ管轄ニ關係ヲ及ハカ
ス反テ裁判所ハ其職權ヲ以テ被告ノ缺席シタル時ト雖モ尚ホ必ス

之ヲ調査ス可キモノナルコトヲ認定セムバイルン国訴訟法第八
十九条其他裁判所編制法第三一条第二項及四一条第四項及ニ本法

第二一条第五解參照スルニ
管轄ニ付キ審
査スルヲ要セスト為スハ單ニ場所ノ管轄ニノミ制限シ但訴訟物件

ノ管轄ノ正當ナルコトニ付テノ事實ノ訴訟中ニ主張シアルヲ必要
ト為セリ然レ氏此說明ハ適當ナラス而レテ集議院ノ理由説明ト相

牴觸スル所アリ其說明ハ即ち白缺席シタル被告ハ非管轄裁判所カ
其職權ヲ以テ管轄違ナリト言渡ス可キモノト認定スルヲ許サスト

此說明モ亦之ヲ通則ノ如クニ解シテハ同意取テスルコトヲ得ル但
本法第三十九条ノ黙諾ノ場合ニ関スルモノトシテ其缺席シタルニ

因リ管轄ノ認諾ヲ為レ能ハサルモノト為トテハ之ニ同意
ヲ表シ得ハシ

国議院委員ハ本文第二九六条並ニ第三〇一条ニ裁判所管轄ニ
関シ特定期限ヲ追加セントノ修正動議ヲ提出シタルニ於テ其修正

案ニ於テハ實際必ス且更ニ不服ヲ唱フル者モナリシテ訴求認諾ト
認定スルコトハ許状ニ於テ管轄ニ付キ主張シアル場合ニモ亦之ヲ

認諾スルコトハ許状ニ於テ管轄ニ付キ主張シアル場合ニモ亦之ヲ

応用し来りたりト云フヲ以テ動議ヲ排斥シタリ(本旨九例参見)
 抑缺席ハ管轄ノ認諾ヲ為スニ至ラシメルモ(モ)トハル一キハ確據ナ
 リ(本法第三十九条参見)又本文第百九十六条ニ依リ然ヘテノ(本旨)
 ノ許訟事實即チ場所ノ裁判管轄ニ関スル事實ハ之ヲ認諾シタルモ
 ノト(者)為レハ一キ所モ亦確據ナリ(上)ノ第ニ解ニ引証シタル北却独乙
 聯邦草案第百三十二条ヲ参見ス(一)然リト虽モ裁判官ハ其許訟
 申立ニ付キ自己ノ管轄ニ属スヘキヤ否ヲ調査スルコトハ敢テ妨ナ
 シ(本文第百九十六条第(二)項)而シテ裁判官其管轄ニ属スヘカラザ
 ルヲ察見スルハ則チ管轄違ノ言渡ヲ為シ得且他ノ其裁判所ニ特
 定專屬スヘキモノナルコトヲ察見シタル中ハ必ス管轄違ノ言渡ヲ
 為サ、ル一カラザサレ(本法第(二)条第(三)解第(二)条第(五)条乃至第(二)十
 七条ノ第(五)解其他第(二)条第(三)解第(六)解第(四)条第(五)解参見)
 盖許訟中起訴裁判所ノ場所ノ管轄ニ付キ特別ニ主張スルノ意アリ
 載セアラサル中ハ則チ被告缺席スレト(認諾管轄)ノ為ニ推キモノ
 ナルニ因リ裁判所其管轄ニ付キ之ヲ調査スルニ因トマシ任意ニ在
 リ若シ管轄ニ非ラサレハ適者ノ場合ニ於テハ管轄違ノ言渡ヲ為レ
 即チ許訟ハ決裁判所ニ提起セラレサレモノトシテ之ヲ却下スルコト
 ヲ得ルナリ既ニ帝國高等商事裁判院ノ千八百七十七年六月一日ノ
 裁判ヲ以テ(上)訴者シイルル氏ヨリシイルル氏ニ係ル上訴ニシテ(本旨)
 裁判所其管轄ノ以テ場所ノ管轄ニ違フモノトシテ許訟ヲ却下シタ
 裁判所独乙普通法ニ依リ認可シタリノ事例アリナリ裁判所ハ固ト
 ヲリ事實ニ付キ豫メ調査ヲ為スヲ得スト虽モ而カモ本法第(二)百六
 十四条ニ准拠シ公知スル状況ハ之ヲ採用シ且疑團アリナリ(裁判官
 ノ偵問權ヲ實用シ得ヘキモノ)候トサシ(一)ナリ

然りと雖モ被告ノ實際係争ヲ為スノ場合ニ際シテハ裁判所ハ抗
弁ヲ保障援助スル如キコトハ又之ヲ爲シ得サルヘキナリト本法第
三九条第四解各条

今本文第百九十七條ノ規定アルニモ拘ハラズ本法第百三十九條ノ
意ヲ以テ既ニ一トヒ管轄移送ヲ為シタル以上ハ任令後ノ期日ニ
被告缺席スルトモ其効力ハ消滅スルヲ許サルヘシ

〔第九解對審期日〕(本法第百九十九條及第百九十一條ノ第三解第百二項各條)
本文第百九十七條ニ對スル理由ノ說明ニ曰抑缺席裁判ナルモ
ノハ其缺席シタル期日ハ口頭對審ノ為メ定メタル時ニ限リテ之ヲ

言渡シ得ルノミ是レ必ス然ラサルヘカラサル所ニシテ及令其對審
期日ハ既ニ許可シタル立証ヲ引継キ為スノ目的アル對審期日ニ於
テ亦然ルヘキモノトス(本文第百九十七條及本法第百三十二條各

三百三十五條各條)云々此後明ク國法院委員ノ一般ノ理由說明ニ相
俟スルヲ可トス乃其原告及被告ノ缺席ハ其之ヲ初回ノ對審
期日於テ為ストモ又ハ後日對審期日ニ於テスルトモ均一ナル結

果ヲ成スノ趣キナリ然レ上ハ解末項ヲ各條ニ一シ
一委員ノ預問ニ對シ内閣代理委員各條ニ曰本文第百九十六條第
二項ハ之ヲ第百九十七條ノ場合ニ適用スヘキハ云フ俟タス又此

第百九十七條ト本法第百三十九條トノ關係ニ於テ未ダ明瞭ナラサル
所アリ乃其其期日ノ為リ更ニ送達ヲ要スヘキ事否又明瞭ナラサル
ルヘカラサルヘシ(本文第百九十五條各條)若キ者ノ所見ニ於テハ第百

三十九條ノ明文ノミヲ以テハ之ヲ適用スルニ苦ムト雖モ必ヤ本文第
百九十七條ノ場合ニモ適用スヘキモノナリヘシ只其文明ニノミ
依レハ其意義ノ果テ如何ハ之ヲ知ルニ由ニナキナリ

然レニ著述者ノ意見ニ於テハ本条并三而条ハ均シク本法并二而九
十五并乃至并二而九十八并ニ之ヲ適用ス一キモノナリ但テ要件ト
スル所ノ具備スル中ニ限ル一キハ又敢テ并ヲ俟タサルヘシ
本文并三而三十五并ニ照依スル中ハ則チ受命裁判官若クハ受託裁
判官ノ面前ニ於テ為ル立証ハ本文并二而九十七并ノ意思ニ於ケル
并審期日ニ非ラサルヤ明瞭ナリ乃チ上ノ理由說明ニ本法并三而三
十二并ヲ引志スルハ單受許裁判所ニ於テ為ル立証ニ限リ關係ナ
所ナリ本法并三而三十五并一項參照

并二而九十八并 (并審ヲ為サ、ルニ因リ缺席トスルノ并)
并審期日ニ出廷シタルモ并審ヲ為サ、ル原告若クハ被告ハ亦之ヲ缺
席シタル者ト看做ス可キモノトス

并二而九十九并 (并明ヲ為サ、ルニ因ルルノ并)

原告若クハ被告并審期日ニ於テ并審ヲ為スモ事實証明會又ハ要點
ニ付キ并明ヲ為サ、ル時ハ本節ノ規則ヲ適用セサルモノトス

并一解理由ノ說明 (口頭并審) 為メ指定シタル期日ニ出廷セサル
原告ハ并審ヲ為サ、ル者ハ本文并二而九十八并ニ因リ(但テ不完全ナ
ル并審ヲ為スハ自ラ別ナリ) (本文并二而九十九并) 然レ而シテ原告若
クハ被告ハ一モ并審ノ并論ヲ為サ、ルヤ否ニ至テハ事實上ノ疑
向點ナルヘシ(タルヤ) (本國訴訟法并三而九十一并ハ) (フ)

国会章程并二而七十七并(澳私太利国会) 上并二而七十七并參照
全ク并審ヲ為サ、ルモノ、互并。并審ハ一部ノ怠慢即チ并審期日
中ニ不完全ナル并明ヲ為スコト之アルナリ之ニ付テハ其訴訟上行

為^ニシテ志^ニ之ヲ為サハル可カ^ルモ^リト^又ハ^ハ宜ク之ヲ為レ得ヘ
キモノト^別ニ付^キ一^{或ハ}向^起是^スヘ^カラレ^而カ^モ本法ニ於テハ^ハ
如キ^ハ缺席怠慢ヲ救護スルノ方法ヲ定メサルヲ以テ其原則ト為シテ
ルナリ乃々^ハ原告^ノ為^ル新^期日^ニ於テ其怠^レルモ^リヲ追^補ヤ^ル
ス^ル若^クハ法律ノ明文ヲ以テ怠^ラ許^容シ^テ未^ダ補^充セ^ザル^ル限^ハ原
被告自棄シタルモノトシテ其許^出上^ノ行為ニ付キ^ハ退^行セ^ラル^ハナ^リ
〔本法第四十四条第四項第二百九十八条第三百十九條第三百三十二
條第三百三十九條第三百六十七條第三百九十八條第四百三十條第
四百九十条第六百六十九條等^ハ各^ハ蓋^シ世^ノ原則^ハ原告^ノ利益及ヒ推
テ傷^クル^カ如キ^ハ觀^アリ^ト第^モ實^ハ裁判官タル者^ハ許^出上^ノ指揮ヲ
司^リ且^ハ其^ハ傾向^ヲ保^有シ^テアルヲ以テ之^ヲ利用^セレ^メハ^即チ^ハ其^ハ悞^ナ
カル^ハキナ^リ必^ズ竟^一許^出上^ノ裁判ニシテ^ハ對^審裁判ト及ヒ^ハ缺席^ノ裁判ト

上^ニ来^ニ本法第二百九十五条乃至第二百九十七條第一條^ハ條^ハ述^スル^ル如
キ^ハ缺席^ニ因^リ為^スヘ^キ裁判トノ二種ヲ言^渡スコト^ハ實際ニ於テ^ハ為
シ^テ能^ハサル^ニ由^テ餘^分ナ^ク茲^ニ條^ハ條^ハ述^スル^ル規定ヲ要^スル^ニ至^ルナ^リ
若^シ缺席^ノ為^メ事實^ハ認^定局^及ヒ^ハ要^證ニ^付テ^ハ年^間ヲ^怠リ^タル^モ
ノ^ニ付^キ他^ノ原告^ノ無論^ヲ為^スヘ^キ對^審ニ^於テ^ハ故障^申立^又ハ^ハ取^原
却^面復^申出^事
消^却ヲ^為スコトヲ許^シタ^ラシ^ニハ^ハ則^チ登^能ク^ハ審^理ノ^錯雜^訴訟^ノ
源^流ヲ^辨ケ^テ得^ヘケン^ヤ然^リ而^シテ^ハ對^審上^ノ不完^全ナ^ル行為ニ付^テハ
特^更ニ^ハ裁判官^ノ確^認ヲ^得ル^ヲ要^セス^即チ^ハ之^ヲ怠^過ス^ルモ^逐ニ^ハ裁判
官^ノ審^理ヲ^行フ^ニ方^テ自^ラ其^ハ既^限ノ^一素^ヲ為^スヘ^ク又^ハ對^審中^ニ能
ク^テ之^ヲ為^レ得^ヘキ^ハ最^モ要^ナル^ル許^出上^ノ行為ニ^關シ^テハ^ハ特^ニ法^文ヲ^以
テ^之ヲ^示シ^テ本法第二百二十九條第三百九十二條第四百四條第四百
十七條第四百二十九條第四百三十四條^ハ各^ハ蓋^シ世^ノ原則^ハ原告^ノ利益及ヒ推

裁判官ノ^モ対審裁判^決言渡スニ方テ任意ノ判断ヲ以テ之ヲ為スニ從ハサル可ラサルナリ^モ本法第百九十九條參照

第三條制定ノ沿革 北部独乙縣印章檢ハ素ト其系統ヲ異ニスルヲ以テ本文二條ノ明條ヲ設ケサルナリ而シテ卅九百九十八條ハ他ノ各章均皆同ナレ氏第百九十九條ハ千八百七十二年度及千八百七十四年度ノ原據ニ掲ケアレン^モ又本文二條ハ國務院委員會ニ於テ第百九十八條ニ關スル條明^モ本法第百九十九條乃至第百九十七條第四條參照^モ外異議ナリ採用セラレタリ然レ氏每頁ハ上ノ理由説明ニ引例ゼン場合ノ二三ニ掲ケル^モ缺席ニ付キ其結果ヲ大ニ^モ緩慢ナラシケルノ談決ヲ為シ^テ本法第百九十九條參照^モ第三條對審^理ヲ為サス^モ本文第百九十八條 對審^理ヲ為サストハ一ハ全ク對審^理ヲ為スコトナク^モ本法第百九十九條並ニ第百六十一條第二條

參照一ニハ適式ノ申立ヲ為サハルノ或^レヲ包含スルナリ^モ本法第百九十九條乃至第百九十七條第四條參照^モ而シテ訴訟代人ノ不相^モ當ナシニ因リ之ヲ行ケタル^モ若^シハ原被告^ノ行ケタル^モ對審^理ヲ為スニ至ラザン場合ニ付^キ特別ナル原則ニ從フ可キモノトス^モ本法第百四十三條及第百四十四條並ニ其註解參照

第四條不完全ナル對審^理 本文第百九十九條 蓋本文第百九十九條ノ明文ニ依レハ單一^部ノ怠慢ニ因レン結果ニ對シ故障ノ申立若^シハ原期回復ノ申立ヲ為サハル^モ場合ニシテ規定シタルナリ然レ氏本法ニ於テ^モ本法第百九十一條第百九十三條ヲ除キ他ニ右ノ如キ怠慢ニ因リ生スル結果ヲ救護スヘキ明文ヲ掲ケアラス^モ是故ニ必^ズヤ上ノ理由説明ニ參照スル^モ可^レ從ハサシ^テ一カラサシナリ^モ本文第百二十九條第四條第百六十一條乃至第百六十三條第七條

卷看

第三百条 一 缺席裁判ノ申立ヲ却下スルノ途

缺席裁判ノ言渡ヲホル申立ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ却下ス可キモノト
ス但出廷シタル原告若クハ被告口頭对審^理延期ヲ申立ル権利ハ之カ
为ニ変更ヲ受ルコトナカル可シ

一 出廷シタル原告若クハ被告裁判所ノ職権ヲ以テ申酌ス可キ状
况ニ付キ裁判所ノ標^標メタル証明ヲ为スコト能ハサリシ時

二 缺席シタル原告若クハ被告規則ニ適スル呼出ヲ受サ^リ時殊ニ
期限内ニ呼出サレサリシ時

三 缺席シタル原告若クハ被告ニ口頭^{口頭}以^以テ为シタル事實ノ^{陳述}
若クハ申立ヲ期限内ニ吾面ノ以テ通知セサリシ時

对審^理延期スル時ハ缺席シタル原告若クハ被告ヲ新^新ナル期日ニ呼出
ス可シ

第三百一条 一 上訴ニ関スルノ途

缺席裁判^決ヲホル申立ヲ却下スル^決決^決ニ対シテハ即時抗告ヲ为スコ
トヲ許ス此決^決議ヲ廢棄スル^決決^決ハ缺席シタリシ原告若クハ被告ハ新^新
ル期日ニ之ヲ呼出ス可ラス

第三百二条 一 延期ニ関スルノ途

裁判所ハ裁判長ノ指定シタル^{執審}執^執審^審期日若クハ呼出期限短キニ過キタ
リト視認メ又ハ原告若クハ被告天災其他ノ抗拒スヘカラサル事変ニ
因リ出廷シ得サリシモノト視認ル時職権ヲ以テ缺席裁判^決ヲホル^決

申立ニ付テハ、^理對審ヲ延期スルコトヲ得セ、^理缺席シタル原告若クハ被告ハ新期日ニ之ヲ俾出ス可シ

「第一解理由ノ説明」全ク缺席怠慢シタルニ因リ結果(章)ニシテ獨乙

国法制ノ多數ニ本法第三而条ハ俾出シハ原告カ口頭ニシテ為シ

ル陳述其訴求ノ申立又ハ事實ノ并明ヲ旨面ヲ以テ適者ノ期限内即

被告ニ通知ヲ為サ、^{之ヲ為ス法律上之期限内}リシ時ニ限リ生セレノアル上、本法第二十二

三条第一九十四條第二而四條第二而三十三條第二而四十四條第二

而四十五條第一而四條第一而五十九條第一而八十一條第一而十七

條第一而六十七條其他各條而レテ一ハ原告ノ請求ハハニ付テ顯著

ナルモノニシテ且其原因タル一ハ事實ニ限リテ指シ一ハ又本

訴訟ニハ元來豫メ旨面ノ交換ヲ為スヲ要セサレ氏尚且本人訴訟

ニモ之ヲ適用ス一キノ不^理ヲ包含ス^{其他}加之適者ノ期限内ニ正^{通知}

ヲ為シタル中ハ則チ原告若クハ被告ハ本法第二而四十一條第一而五

十三條ニ依リテ被告ニ許サレアル所ノ缺席シタル對人ニ向テ行

ヒ得ヘキ権ノ使用ヲ口頭對審^理於テ實行シ得ヘシ然リ而シテ元來

ノ訴訟ヲ変更スルコトヲ許スハ本法第二而四十一條ノ規則ニ從ヒ

實ニ被告ノ對審ニ出廷スルト否ニ關ス可キモノニシテ即チ被告單

ニ^對審^理ヲ為スニ至ラサリシ行為ノミニテハ其変更ヲ氣遣ヒタルモノ

ノト者做スヘカヲサントナリ

前項^中取^上ト同一ナル趣旨ニ^由ル^ル本文ノ規則(第三而条)ニ於テ缺席

裁判^所ホ^ルハ^ルノ申立ハ出廷シ^テ先^立テ^ハ被告カ裁判^所其^職權

ノ以テ^對審^理ス^ル一ハ^ハ狀況^例ハ^ハ本法第一九十四條ノ場合ニ付テ要スル

証明ヲ為シ能ハサル中^之並^ニ却下シ及ヒ場合ニ依リ裁判^所其^職權

ク以テ^對審^理裁判^所ホ^ルノ申立ニ付テ^ハ審理^ヲ延期スルノ權アリ

本

第二百二条ト明定シタルナリ(バイルン国訴訟法第三百九条字漏生
国同章按第三百七十五条一ツセシ国会上下四百九条条卷)

而シテ前項第二ノ場合ニ於テハ^付缺席裁判ヲ求ムルニ付テハ^付申立審
判ヲ為サハルニ迫キスト雖モ本文第三百九条ノ場合ニハ^{裁判}缺席者ニ

於ル者ニ其申立ヲ却下シ即チ必要トシ豫備審理ヲ拒否シ且缺席ノ
対キ人ヲシテ反テ缺席ノ怠ヲ利用セシムル所アル^{ナリ}場ニ於テ其

申立採用セラレサル原被告ノ一方ニ不服ヲ唱フル推テ許ス一キノ
理由充分ナルノミナラス殊ニ即時抗告ヲ許^付本案ノ審理継続ノ為

メ覆ム一カラヤン基礎ヲ回フセシムルハ考然ト云フ一(第三百一
条而シテ本文第三百二条ノ場合ニ於テ其裁判所ノ決定ニ付テ上訴

ヲ為スヲ許サ、んナリ)又ルテムベル^{第十一}国訴訟法第三百九十四条ハ
ノホフル国会上下第三百六十九条同国章按第六百条^{第十一}条卷)

第二條制定ノ沿革 北部独乙聯邦章按ニ於テハ^{第十一}単ニ適者ノ期限内

ニ呼出サ、ルニ因リ却下シテハ^{第十一}限、即時抗告ヲ許シテア、リ是レ
改章按ニ於テ本文第三百二条ニ載、ん外ノ場合ヲ以テ悉ク審理

延期ノ事由ト定メタルニ^{第十一}理由ス之ニ反レ改章按ニハ^{第十一}本法第三百二
条ノ^{第十一}延期推テ裁判所也有、んノ規則ヲ明定レア、ラス

尔餘、各章按ハ皆同一ナリ^{第十一}独、千八百七十一年度及ヒ千八百七十
四年度ノ章按ニハ^{第十一}本法第三百一条ノ末段ヲ掲ケスレテ被告ニハ普

通ノ抗告ヲ許シ^{第十一}原告ニハ即時抗告ヲ許シテア、リ
国務院委員会ニ於テ本文第三百二条ニ^{第十一}只裁判管轄ニ関、ん異論

アリレ之ニ付テハ^{第十一}己ニ本法第三百九十五条乃至第二百九十七条ノ
第一八解ニ於テ^{第十一}釋述セリ)

又本文第三百一条ニ付テ^{第十一}委員ハ若シ呼出ヲ受テヤン原被告ノハ被

告ハ任意ニ期日ニ出廷シ且其出廷シタルニ因リ先キノ缺席台慢ハ
庭復レタリヤ若クハ尚ホ其力ヲ有ルンヤヲ判断スルモノト修正ス
ルヲ相考トナスヘシトノ案ヲ提出シ^時開場ノ注意ヲ喚起シ^り各該
員モ其可否ニ付キ一定ノ意見ヲ述ヘサ^レト雖モ而カモ修正案ニ
賛成ハ为サ^レリキ下ノ第四解朱意

第三而二条ニ付テハ更ニ異論ナカリシ

第三解^時缺席裁判^時ノ本ルノ申立却下^時第三而条及ヒ上ノ第一解^時出廷
シタル原告ノ一方者初^時ノ裁判所ニ於テ許可セサル一カラサレ
所ノ延期ヲ本ル^時申立ノ却下ヲ免カル^時ヲ得^ルナリ^時此場合キ在
テモ尚ホ本法第九十條第二項ニ依^リ裁判長ハ已レ^レ及ハシメラ
レアル事務ヲ^時出廷シタル原告ノ一方^時現在ス^レル^時缺席ニ付キ
注意ヲ为スノ要件ハ固トアリ之ヲ为ス一キナリ^時必スヤ突然之^時却

下シテ原告ヲ^時不意ニ驚カレム^時得ス又延期シタル場合ニ
付テハ出廷シタル原告ノ一方^時本法第九十一條乃至第九十
三條ノ第一解第三及ヒ第四解朱意^時及今裁判所直ニ新期日ヲ指定シ
テ之ヲ告知^時ト雖モ必ス^時対々人^時其新期日^時呼出サ^レル^時カラサレ
ナリ

裁判所其職權ヲ以テ裁酌ス可キ^時本法第三而条^時モ^時ハ例^時ハ場合
ニ從ヒ裁判所ノ権限及ヒ管轄^時本法第二而九十九條乃至第九十
七條ノ第八解朱意^時其他法律上^時代理人^時委任權^時本法第五十四條第一解
朱意^時並^レ本法第五十條第五解^時朱意^時参照ス可^レ又^時本人訴訟^時於^レハ
其訴訟^時代理人^時代理委任權^時本法第八十四條第一解^時並^レ及^レ其主股朱意
ノ趣旨^時ナリ

本文第三而条^時ニ於ケル^時適式^時ナラサル^時殊^ニ適者^時ノ期限^時ニア^レサレ

呼出ニ付テハ本法第七十四条及ヒ第七十五条ノ第四解第五十七
条乃至第五十九条ノ第七解其他第五九十二条並ニ第九十一条
乃至第九十三条ノ第五解第九十四条ノ第七解第九十二条乃至
第九十四条ノ第七解第九十三条ノ第七解第九十四条ノ第七解
解リ終照ス可シ

又ハ訴訟申立ノ缺陷
準備旨面ノ準備書及ヒ送達證書等ハ送達係心算(三)而(三)付テハ

上ノ理由ノ既明並ニ本法第七十二条第七十三条第七十四条
四七条乃至第六十九乃至第八十一条乃至第八十四条乃至第八十七
乃至第九十一条ノ第七解ヲ終照ス可シ抑缺席シタル原告ハ本法第七
十二条依リ親族抗弁ノ有無ニ拘ハラズ其訴求ト共ニ行ケラルヘキカ

故ニ本文第三十条(三)ノ規定ハ其訴件ノ初審裁判權ニ在ルニハ獨
リ被告ニノミ適用セラルヘシ而シテ延期シタル場合
立証審理ノ場合並ニ上級リ裁判所ニ本件在ルニ付テハ乃チ被告

ノ旨面ノ采シテ通告ノ期限内ニ原告ニ通知サレラルヘキニ關係ヲ
有スヘキナリ

「第四解上訴」却下ニ付スル即時抗告本文第三十一条ハ本法第五
四十二条ニ依ルヘキナリ

国裁院委員会ニ提出セラレタル勸告上ノ第二解終照ニ付テハ本法
第九十七条乃至第九十九条ニ依テ之ヲ解スレ得ヘキナリ乃チ上訴裁
判所カ却下ノ決定ヲ棄却スルニ至リタル時ハ其本件ハ恰モ裁判所

ハ缺席シタル期日ニ於テ為シタル缺席裁判ヲ取リ申付ニ付キ將
ニ判定ヲ下サレトスルノ時ニ在ルモノト同位地ニ選ルナリ但此場
合ニハ職権ヲ以テ當日出廷シタル原告若クハ被告リ新期日ニ呼

出シ以テ缺席裁判ヲ求ルノ申立ヲ更ニ口頭ヲ以テ為サレタルコト
ハ之ヲ為サレハ一カラス本法第七十二条乃至第九十一条ノ第七解

ルヤ必竟申立テ確カメシムルニ過キサルナリ是如ナルカ故ニ缺
 席シタハ原告等ノハ被告曰ハ^{更ニ}審問セサルヲ以テ例トス本法第
 百九十七条第^五解第^二百九条第^一解^終意ハ^ハ本文第^三百^一条
 ニ於テ缺席者ノ新期日ニ呼出スコトヲ許サ、ルヲ以テ明ニ了解ス
 ルヲ得ヘシ是ニ於テ缺席者任意ニ其新期日ニ出廷シタリトシ其實
 際ノ情况ニ於テハ更ニ變動スルコト之ヲアツサルヘシ然リト虽モ
 缺席者ノ対手人自ラ缺席裁判ヲ求ル申立ヲ為サ、ル^{コト}ハアルヘシ
 此場合ニハ缺席裁判^決ヲ言渡サ、ルハ言テ候タス^ハ本法第^二百^九十五
 条乃至第^二百^九十七^条第^四解^終意又ハ裁判所ニ於テ抗告ノ裁判ニ
 因リ棄毀セラレタハ^{別ニ}外^ニ^{別ニ}缺席裁判^決ヲ言渡^テ陳^明申^上
^キ事由^{アリ}ヲ再ニ審理^シ問^フコト之ナキニ^ハ此^ハ場
 合ニ方テハ即チ缺席シタハ一方任意ニ新期日ニ出廷シテ先キニ定
 慢シタル所ヲ^再進^回スルコトヲ得ヘシ^ハ本法第^二百^九条第^一解^終意
 第^五解^終意スルノ推^シ蓋^シ本文第^三百^一条ニ於テ裁判所^ニ延期スル
 ノ推^シ與^ヘタハ^ハ即チ^ハ嚴^格缺席裁判^決ヲ^求テ^ハ後^大ナラシム
 ルモノニ^レテ^ハ即チ^ハ公^然運^使取^テ解^クハ^ハカ^ラザ^ル障^碍ノ^為メ^ニ缺席ス
 ル場合^ヲ認^認シ^タリ又^ハ裁判長ノ指定シタル^ハ期限^ニ内^ニシ^テハ^ハ本法第^三
 百^九十三^条第^二項^第百^九十四^条第^二百^四条第^三項^第二^百三^十四^条
 第^四百^八十一^条第^五百^十七^条及^ヒ右^ノ數^條ニ^對スル^ハ各^注解^ノ終^意ス
 可シ^ハ天災^及他^ノ事^變ト^スフ^ニ付^テハ^ハ亦^ハ本法第^二百^一条及^ヒ第^二百
 二^条第^一解^第四^解ヲ^終意^ス可シ[○]他^ノ一^方ヨリ^ハ觀^察スル^ハ片^ハ本
 文第^三百^二条ハ^ハ裁判官^ノ制裁^{スル}所^{アリ}何^レト^ナレ^ハハ^ハ亦^ハ本法第
 二^百六^条ニ^依レ^テハ^ハ裁判官^ハ充分^ニ延^期スル^ハ推^シ與^ヘラ^レアル^ハ氏
 反^シテ^ハ此^第三^百二^条ニ^於テ^ハ一^定ノ^要件^ニ拘^束セ^ラレ^ハテ^ハ然

リ而レテ律意ノ彼我相撞著スルヲ防クカ为メ此等三而二条ニ付テハ即チ一方ノ缺席シラシコトヲ公認シタル場合ヲ云フモノト解釈スルヲ要スヘシ故ニ例ハ事件ノ喚起ヲ为ス以前ニ於テハ裁判所ハ本法第ニ而六条ノ規定ニ依リ原告一方ノ缺席スルト否ニ拘ハラズ期日ヲ延ビ得ルナリ

而レテ上ノ理由説明ニ於テ延期ヲ为シタルニ付シテ上訴ヲ为スル許サレハナリト述ブレ氏是レ甚タ不明亮ナリ只即時抗告ヲ为スル許サスト云ハサルハカラス乃チ本法第ニ而六十七条ヲ除キテハ本法第四而七十三条ニ依リ控訴ヲ为シ得ヘク且本文第三而二条ニ於テハ本法第ニ而三条第ニ而三項ノ如ク不服ヲ唱フルヲ許サストハ明記シアラサレハナリ

本文第三而二条ノ末段ハ本法第百九十五条ノ例外ニ係ルモノニテ即チ呼出ハ職權ノ以テ之ヲ为スニ非ラス対々人ヲシテ之ヲ为サレハルナリ(本法第百九十一條乃至第百九十三條第一解并三及四解參看)

第三而三条 (故障申立ニ関スルノ条)
缺席裁判ノ言渡ヲ受タル原告若クハ被告ハ其言渡ニ対シ故障申立ヲ為スコトヲ得ルモノトス

(第一解理由ノ説明) 原告若クハ被告全ク對審ニ缺席シタルニ因リ被々ハ損失ヲ救助スルカ为メ本法ハ其缺席者ニ故障ノ申立ヲ为スノ推テ付共レハ本法第ニ而十六條第ニ而三項第ニ而十條ノ特別ナル場合ヲ除クノ外餘ヘテハ缺席裁判ニ對シ此申立ヲ为スヲ得セシメ

二条第四十条第二十七條第二十八條第二十九條第三十條
第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條
第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條
第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條
第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條
第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條
第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條
第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條
第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條
第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條
第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條
第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條
第九十七條第九十八條第九十九條第一百條

○モノト云フ一カラン字

本法第三十六條第五十七條第八十條ノ場合ニ於テ呼出二回ヲ為スハ
即チ其訴訟手續ノ特種ナル性質ナルヲ以テ之ノ特則ト為スル理由
アリハキナリ

又同一ノ訴訟ニ於テ再三缺席裁判ヲ受渡スヘキ場合アルハ反テ
故障申立ハ訴訟人ニ損害ヲ與フルノ惧ナキニ非ラス然レモ本法ニ
於テハ特ニ其費用ニ関スル第三十條ノ規則並ニ故障申立ヲ許サ
ル第三十條ノ場合ノモノノ規定レ且缺席裁判ノ後執行スヘキ
第六十四條第三項ノ規則ノ以テ其損害ノ危険ヲ豫防セント欲
シタルナリ

又故障申立期限ヲ空過シタル場合ニ付シテ此場合ニ付キゲン府審
典其他独乙国ノ各法制ハ非常故障ナルモノヲ單約ニ規定シテ以テ

得へキヤ否ニ関シテハ本法第百三十四條乃至第百六條ノ第百三解リ
卷第レノ理會スヘシ

第百三十四條 (故障申立期限ニ関スルノ条)

故障申立ノ期限ハ二週間ナリトス此期限ハ法律上ノ^(不変期限)備後^{ニテ}缺席裁
判ノ送達ヲ以テ始マル可シ

其公告^(送達)ノ外国ニ為レ又ハ公衆^示廣告ヲ以テ為サ、ル可ラザル時裁判
所ハ缺席裁判^{ニテ}又ハ後日豫メ口頭對審^理ヲ要セスレテ言渡^リヲ為シ
得ヘキ別段ノ決定ヲ以テ故障申立ノ期限ヲ定ム可シ

第百三十五條 (故障ノ程式ニ関スルノ条)

故障申立ハ書面ヲ送達シ之ヲ為スモノトス其書面ニハ左ノ條件^ヲ

記載^{セザル}不可ラス

一 故障ヲ申立ラル、裁判決

二 其裁判ニ對シ故障ヲ申立ルコト

三 本^件ノ口頭對審^理ヲ為メ對手人ヲ呼出スコト

其書面ニハ同時ニ本案ニ付^テ審判準備ノ為メ必要ナル事項ヲ掲^シ
可シ

第百三十六條 (故障申立ニ付キ裁判官^{調査}スルノ条)

裁判所ハ其職權ヲ以テ故障ノ申立ヲ當然許ス可キモノナルヤ否及ヒ
其申立ヲ法律上ノ程式及ヒ期限内ニ於テ之ヲ提出シタルヤ否ニ付キ
調査^ス可シ其要件ノ一ニ缺漏アル時ハ故障申立ハ許ス可ラサルモノ
トシテ之ヲ棄却ス可シ

第一條理由ノ說明 理由說明ニ於テハ故障申立期限ハ治安裁判
ノ事件ニモ亦之ヲ通用スヘシト述ヘ且曰故障申立期限ハ法律上不
変ノ義務期限本法第一二〇一條第二二〇二條第二二〇二八條參照ニレ
テ而シテ其進行ハ出廷シテハ對牛人カガレタリ 缺席裁判ノ送達ヲ
以テ始マシムヘキナリ 以下第三條參照蓋此規則ハ控訴上告及ヒ即
時抗告ヲ為スニ付テハ期限ニ關スル規則ト相俟立スヘキモノナリ
本法第四七十七條第四八十一條第五百十四條第五百四十條參
照

故障ハ唇面ノ送達ヲ為スニ依テ之ヲ申立テ而シテ缺席裁判ヲ言渡
シタル裁判所ノ管轄ニ屬スルモノナリ 本法第九條參照抑此唇面タル
ヤ素ト一定ノ申立ヲ記シ並ニ本案ノ準備ヲ為スノ性故ノモノト定
メテハ對審ノ準備ニ於ケル如ク準備ノ点ヲ缺漏スルモノ進補スルコ
トヲ為セ、ルトモ事件上ノ權利ヲ損傷スルコトナシ故ニ本法第三

百五條ノ末項ハ云々ス可レト 訴訟法ヲ以テ明示シタルナリ
第一條三條制定ノ沿革 北部獨立聯邦草案第四四十一條第三項ニ於
テハ故障申立期限ヲ以テ對審ノ期限ト同一ニ定メタル所ノミ、本文第
三三四條ト異ナリ 又帝國生國草案第二〇八十三條第二項ニ於テハ
受命裁判官若クハ受託裁判官ニ於テ為スヘキ條件ニ付キ缺席シタ
ル中ハ之ヲ進補スルヲ許シ且本法第二〇十一條ヲ以テ之ヲ一般ニ
通用セレメアルカ如ク特ニ故障申立期限ニ關シテハ場合ニ付テ

ノ規則ヲ設ケアムナリ他ハ各章按皆同一ナリ而シテ国議院委員
公ニ於テ本文第三而六条ヲ刪除シ若クハ之ヲ局限セントノ動議アリ
リテ廢成者モアリト雖モ遂ニ排斥セラレタリ世排斥ノ理由ハ詳ナ
ラス又第三而四条ニ付テ復内アリシニ内閣代理員ハ決条中ニ掲ル
後日ニ為ス決議ハ缺席裁判ニ於ケルト同一ニ必ス之ヲ送達セザル
可ラサルノ事ナリト後明シタリ

〔第三條故障申立期限(第三而四條) 猶豫期限ノ事ニ付テハ本法第三
九十八條第一解ヲ參照スヘシ故障期限ハ原告ニ於テ為ス一モ本
法第二而八十八條參照裁判ノ送達ヲ以テ始マリ其言渡ヨリ始マ
ルモノニ非ラス本法第九十八條第五解參照而シテ勝訴者ハ其裁判
ヲ成ル一ク速ニ送達スルヲ以テ例トスヘシト雖モ若シ果シテ之ヲ
速ラセサル中ハ則テ敗訴シリルナリ人々之ヲ假^自行^行ラ得且之ヲ假^自行^行

ハ速行セ^ルトサシ^ル可ラス乃々世送達^ルコト^ルハ故障期限ハ始マ
ル^ル本法第九十八條第二項參照如何トナレハ此期限ハ本文第
三而四條第一項ニ依リ裁判^ノ送達前ニハ未^ク進行ヲ始^スルニ至
ラス即々上ノ理由説明中ニ引^カセ^ル本^法第九十七條第二項第
五而十四條第二項ニ於ケル如^ク故障申立^ヲ為シ能ハサルニキ^ク以
テテ^テ必^ズ本^法第九十七條第七十七條ニ照シ裁判^ノ送達^ヲ
故障申立^後ノ送達ニ係^ル同時ニ為^ル得^ルキナリ

又本法第二而八十三條第二項ノ規則アルモ玆テ本法第四而七十七
條第五而十四條ト同一ナル規定ニ係^ルモノヲ包括シテ動^シ得^ルキ
ニ非ラス乃々彼第二而八十三條ニ於テハ不^可變^ノ猶豫期限ノ起^ルル
以テ特^ニ定^メノ例外ト看^スル^ル趣^キタルヤ判然^トル^ルヲ以テテ^テ本法
第二而八十三條第一解參照已ニ^ニバイル^ル國^許訟^法第三而九條ニ於テ

ハ故障ハ裁判ハ送達アリタシ後ニ於テ之ヲ申立ル得ルモノトスト
明定シテアリ

上ノ理由説明ニ於テハ独リ出立シタシ原告若クハ被告カガレシ
裁判ハ送達ヲ以テ故障期限ノ進行ヲ始ムト述フルハ太リ精確ナラ
スレテ且本法第百八十八条第1項第3百4条第1項第2而四種
著ス必竟欠席シタシ原告若クハ被告ニシテ故障ヲ申立ルノ権ヲ有
セリ豈其対年人ノ送達ヲ為スト否ハ其任意ニ在リ所ニ付從セシ
メテ安当ト云フヘケレヤ最不可ナリ

本法第百五十九条ニ於ケル共同訴訟人ノ各名欠席シタル場合ニ於
テハ其故障期限ハ各訴訟人毎ニ別ニ起算ス一キナリ（本法第百十
八条第4解第百九十九条第2項第1解未完）

又本文第百而四第2項ニ関シテハ即チ本法第百而二第2項ニ
反シテ第百而一条第2項第2条ノ第4解第百而二第2項第2項ニ

附期限ヲ延ハスコトヲ得ルノ必ナリ而シテ其偏ニ延ハスコトニノ
ミ限ルコトハ一般ノ理由説明中ニ本法ノ律第百而二第2項第2項ハス

ノ必要ヲ免カレスト説述ス然レモ律文ヲ以テ之ヲ明定スルニ
加カサルヘシ又別段ノ決裁ノ送達ニ付テハ上ノ第2解ヲ參照スルニ

シ而シテ何時マテ裁判所ハ此後日ノ決裁ヲ為シ得ヘキヤニ付テハ
未ダ曾テ明文ヲ以テ空メアラス然リト雖モ故障期限ノ二週間ヲ以
テ決裁ヲ為シ得ルノ極度ヲ示サシムヘカラサルヘシ何ントナレハ此

二週間ノ経過スレハ出立シタシ原告若クハ一方ノ其対年人カ欠席ニ
因テ被ハル一キ結果ニ付キ之ヲ要ムルノ権アレハナリ

故障期限ヲ空過シタルニ方テ其存期間復ヲ得ントスル付テハ本法
第百而二第2項第2項第2項第2項第2項第2項第2項第2項第2項第2項

テハ本法第九十九条及ヒ第二十条ヲ終着スレ

「第四解救障ノ申立」故障ハ受訴裁判所ニ之ヲ為ス一キモノトス上

ノ第一解救危而レノ本文第三五条第一項中ニ云ヒセサレ可ラス

ト命令法ヲ用ヒ以テ次ノ第三五六条ト圖リ相連続セシメ若シ之ニ

唯扱セサレハハ必ズ故障ノ棄却ヲ被ハルコ至ル一キヲ示シタリ又

対手人ヲ出スニ付テハ本法第九十一条以下及ヒ第九十二条

並ニ第九十一条乃至第九十三条ノ第一解救ニ終着スレ

本文第三五条トテ其行文明確ナラス蓋世裁判ニ付テ故

障ヲ申立ルコト及ヒ其申立ン程度ト云フノ事ヲモサレハカラサ

ル一ニ必竟裁判ノ一部ニ付テ故障ノ申立ヲ為シ得ルハ敢テ疑フハ

カラサレナリ

怠慢シタリ訴訟上行為ノ進回ハ原則回復ノ清敏ニ及レ本法第九

十四条ニ故障ニハ著シキ必須ノモノニアラス故ニ單ニ云ヒ可シ

ト記シテ以テ被告レタルノ上ノ第一解及ヒ本府九例終着

「第五解裁判官故障ノ調査」裁判官故障申立ニ付テハ期日ニ於テ

初テ調査スルコトヲ得ルナリ乃チ上ノ理由説明ニ依テフルカハリ必

ズ豫メ口頭對審ヲ為ラ要シ欠席判定ヲ以テ之ヲ棄却スルヲ許サ

ルナリ本法第九十一条乃至第九十三条ノ第一解救ニ終着而シ

テ本文第三六条ニ依レハ故障ノ調査ハ裁判所ノ職權ヲ以テ之ヲ

為シ且其調査ハ受理不受理ニ限リ之ヲ為スコトヲ得ルナリ例一ハ

本法第九十九九条第三十條ノ如何ニ付テ調査スルノ事ニ他尚

ホ調査し得一キハ本文第三五条第一項ノ如何ニ付テ第二項ノ適否ハ

之ヲ調査セハ即チ上ノ理由説明及ヒ第四解終着及ヒ本法第三四

条ニ依テ上ノ第一解ノ事ニ於テ期限ニ付テ適否ナリトス而シ

之重却ノ支渡ニ対シテハ普通ノ上訴ヲ為シ得んモノトス

第三百七条「評スハキ故障申立ノ効力ニ関スルノ条

故障申立受理セラレタム時訴訟ハ缺席前ノ状況ニ復スルモノトス

第一解理由ノ説明及ヒ制定ノ沿革 理由説明ニ曰

故障申立其理由アルモノト法律許セラレ得テ許セラレ得んモノニ限

リ本件訴訟ハ缺席前ニ中絶シ得タリレ状況ニ回復スルヲ得ルハ効

カヲ得ルハ切テ現実ヲ約言スレハ欠席裁判ハ其中間ニ之十カリ

シモノトスル海ナリクモハルケ国訴訟法第ニ百七十九条ハ

ノロフル国同上第ニ百六十三条全国草案第ニ百二条ハツセン国草

案第四百十六第第四百七条中漏生国草案第三百八十条北部独

乙縣草案第四百四十五条是ニ於テ終一ヲ以前ニ之アリシ

各種ノ裁判附帯裁判防抗并若ノハ其類ニ付テハ尚ホ争

ヲ存スル所ノ清ホ争ニ対スル裁判ノ遂ハ悉ク再ヒ其効力ヲ回

復シテ以テ本案ニ対スル缺席裁判ハ消滅スルナリ

欠席裁判ノ確定力及ヒ執行力ニ関シテ有スル故障ノ効力ニ付テ

ハ本法第百六十四第百四十九乃至第百六十五乃至第百五十五

規則ヲ参照シ即チ可ナリ云々

各草案第百一十ノ独リ北部独乙縣草案第四百四十三条ニ於テハ

故障申立ノ期限中ニ未ダハ適者ノ期限ニ於テ故障申立申立

ニ因リ欠席裁判ノ確定力及ヒ若シハ裁判ハ假執行ノ為ニ得ヘシト

言渡レアタサニ限リ○尔餘ノ手續殊ニ強迫執行ハ應断セラルモ

ノトストノ規則ヲ制定シアリ之ニ等シキ規則ハ本法ニ於テハ第百六

百四十五乃至第百四十九ノ規定ニ而シテノ国裁院委員会ニ於テハ異議ナリ採

新十人^理對審ニ依リ言渡ス可キ裁判^決欠席裁判^決ニ載セシムル裁判ト符合ス
ル部分ニ限リ此裁判ニ後フ可キモノト言渡シ若シ其符合セサル部分
アル時^判ハ新十人裁判^決以下欠席裁判^決ヲ廢棄ス可シ

第三百九条 (費用ニ関スル条)

法律上ノ方法ニ適シ缺席裁判^決ヲ言渡シシ時^決缺席ニ因リ生シラシ費用
用ハ对方当事人ノ不当ナシ異議ニ因リ生セシメラサシニ非ラサシ部分ニ限
リ故障申立ノアリタル為メ其裁判^決ヲ変更スル裁判^決ヲ言渡ス場合ト雖
モ缺席シタル原告^決若シ被告^決ニ之ヲ負担セシム可シ

第一解理由ノ説明及ビ制定ノ沿革 本文第三百八条ニ対スル特別
ノ理由説明ハ之アラス又第三百九条ニ付^決ハ本法第九十二条第一
解ニ執テ看ル可シ而レテ国務院委員会^決於テハ異議ナシ採用セラ
レタリ又各章附條同一ナリ

第二解裁判 本文第三百八条ハ前ノ對審^理ヲ繼續スル場合ノ如ク會
審スルヤ剛來ナリ乃チ附帶裁判^決為スヘキ若クハ之ヲ要セザル故
障ヲ許スノ事^決知ルヘシ本法第三百七条第一解^決並ニ新十人^決對
審^理ノ成績ハ以下^決欠席裁判^決ノ結^決存廢^決ニ限リ^決裁^決セ^決ル^決所^決ニ^決シ^決ル^決ノ
而カモ本法第三百七条ニ依レハ則チ元來^決如^決キ^決コト^決ハ^決之^決ア^決ル^決可^決ラ
サルナリ然レ氏只欠席裁判^決ノ事件上新十人裁判^決ト符合スル^決部
分ニ限リ尚ホ之ヲ保存セシムル^決ト^決ハ^決バ^決デ^決ン^決國^決務^決院^決法^決第^決二^決百^決十^決七^決条
第一項^決並^決ニ^決條^決例^決本^決文^決第^決三^決百^決八^決条^決シ^決タル^決ハ^決備^決ニ^決裁^決判^決ノ^決編^決綴^決上^決ニ
關スル^決程^決式^決上^決ノ^決規^決則^決ナ^決リ^決ト^決レ^決テ^決之^決ヲ^決考^決做^決ス^決ヘ^決シ^決乃^決チ^決新^決ニ^決言^決渡^決
ス^決裁^決判^決ハ^決對^決審^決上^決ノ^決本^決章^決終^決局^決裁^決判^決ニ^決シ^決テ^決自^決立^決ス^決ル^決モ^決ノ^決如^決例^決一^決ハ^決確
定^決力^決及^決ヒ^決上^決訴^決ニ^決關^決シ^決自^決立^決シ^決ア^決ル^決ナ^決リ^決必^決ズ^決缺^決席^決裁^決判^決ヲ^決回^決復^決セ^決シ^決ム^決ハ

キモノニ非ラザルナリ然リ而シテ本法第三百七条第一解ニ準述ス
ル所ノ前ニ當テ言渡シタル所ヲ除キテ裁判官ハ本法第三百七条ニ
依リ當テ自ラ執リタル意見ヲ因持シテ本案終局ノ裁判ヲ為サレ
可ラサルモノニ非ラス殊ニハ欠席裁判ニ拘束アルハキニ非ラズ是
ニ付テハハバテレ国許民法第三百十四条ニ於テ明示シテ乃チ裁判
官例ヘハ缺席裁判ヲ以テ許ス理アリト本法第三百九十六条宛テ條
明シアリト雖モ今ヤ全ク之ニ反対スル裁判ヲ言渡シ得ルナリ

〔第三解費用〕 対争人故障ニ対シ不考ナシ異議ヲ主張シコト之アラ
ス若シハ其故障裁判ニ不当ナルニ非ラザル時ハ欠席者ハ必ス本
文第三百九条ニ依リ費用ノ負担セザル可ラザルナリ而シテ茲ニ欠
席裁判ノ不考ニ非ラザル事例ヲ特示シタルハ即チ本法第四百七十四
条第五項二十九条ニ依リ不完備ナシ欠席怠慢ニ付テモ本故障申立
ニ依ラザル可ラザルナリ以テ例ト為シアムニ転由ス

第三百十條 一 再ニ故障ヲ為スヲ許サレルノ途

故障ヲ申立タルモ其口頭對審^理為メ定メタル^期迄若クハ延期シタル
^期迄ニ出廷セス又ハ本件ニ付キ對審^理為サレル原告若クハ被告ハ其
故障ヲ棄却スルノ^期 缺席裁判ニ對シ更ニ故障ヲ申立ルヲ許サス

〔第一解理由ノ説明〕 若シ故障ヲ以テ慢ニ訴訟ヲ進行セシムルノ玩
異タラシメサラレ^ル 或ハ^別々更ニ故障ヲ申立ルコトヲ禁止シテ
以テ弊ヲ防遏スルヲ要トスヘシ乃チ本条ハ其目的ヲ以テ規定セラ
レタル所ニシテ而カモ^又之ニ依リ^同一^事件^中ニ於テ^同一^事件
ニ付キ其故障ヲ許スノ程度ト及ヒ之ヲ許ス可ラザル程度ノ^自ラ之
アムコトヲ理會シ得ヘシ

（一）申立ル原告若クハ被告之カ为メニ定セラルル期日ニ出廷セ
法第三百九条ニ依リテ其口頭對審^理之期日ニ出廷セ
ス又ハ（一）故障ノ事件ニ付テ對審^理ヲ為サシムル時ハ欠席裁判^ヲ以テ其故
障ヲ棄却セラル可レ此裁判^ニ對シテハ即チ原告ハ更ニ再ヒ故障
ヲ申立ルノ權ナキナリ

（二）之ニ反シ故障ヲ申立アル原告ノ一方前項ニ依リテ出廷
シ又事件ニ付テ對審^理ヲ為シタレバ後項^日受訴裁判所ニ付テ口頭對審^理
为メ定メタル期日ニ出廷セサル時欠席裁判^ヲ受タル場合ニハ則チ
其裁判^ニ對シテ故障ヲ申立ル得ハシ必竟^ル此等ノ場合ハ因一裁判所ニ
於テ同一ナル原告被告ニ付テ欠席裁判^ヲ受ルコト再三ニシテ後チ故
障ヲ申立ル再三之アルハキハ因トシテ怪^ムニ定ラサレ所ナリ以テ
之ヲ茲ニ流述スルモ亦蛇足^ヲ添フルニ似キナリ蓋シテ數回ノ故障

申立ル弊^ヲ豫防スル为メニハ第二回若クハ次回^ニ於テ同一
ナル欠席者ニ對シテ文渡ス本堂、内スル欠席裁判^ハ後執行^ヲ為スハ
レト明示シテ文渡スノ方法ノ以テ防遏^ニ得ハキナリ（本法第六百四
十八条^三及ヒ本居九例第六回^三參照）

（第三）解制定ノ沿革及ヒ解款^一 各草案皆同様ナリ而シテ国議院委員
會ニ於テ更ニ討論ナカリシ

上ノ理由既明シ^レ後日ノ口頭對審^理繼續ノ为メノ期日ト指スハ必ス
訴訟ノ方ニ新ナル時况ニ當リタル場合^ニ立^テ後對審^理ノ場合ヲ云
フノニ限ルナルハシ然ラサレハ則チ必ス本条ニ准拠スヘキモノニ
シテ理由既明ニ付ケルハ則チ裁判^ハ之ヲ為スヘカラサルハシ
若シ^キ期日トキテ故障^ノ相連^續スルモノトセハ即チ自立特別^格
ナル缺席ナルモノハ之アラサルハシ故ニ本条ヲ適用スル所ナカレ

一キナリ

故障

故障

期日ニ於テ故障申立人ノ相手人欠席スル時ハ則チ本法第三

百七条ニ依リ必ス其故障ニ付キ親査セサルハカラス且現場全ク復

テ相手人ノ欠席ハ反テ不利ヲ被ケラスレテ其故障ヲ棄却セサルハ

カラヤルコトアハ可レ然ラサレハ其相手人ノ欠席ハ初テ為ス欠席

ト者做ス一キ而已

